



Title	敦煌毛詩音殘卷反切の研究（上）
Author(s)	平山, 久雄
Citation	北海道大學文學部紀要, 14(3), 1-243
Issue Date	1966-03-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33308
Type	departmental bulletin paper
File Information	14(3)_PL1-243.pdf



敦煌毛詩音殘卷反切の研究(上)

平 山 久 雄

敦煌毛詩音殘卷反切の研究（上）

平 山 久 雄

第1部 序 論

1. 論文の目的・残巻の概要

この論文の主たる目的は、敦煌発見の三種の“毛詩音”残巻について、それらの含む音注ことにその中の反切をしらべ、音注が反映する方言における音韻や音声の状況を推定することにある¹⁾。

三種の残巻とは、いわゆる Stein 文書 No. 2729、いわゆる Pelliot 文書 No. 3383、Stein 文書 No. 10 (Verso) であり²⁾、これらはいずれも、毛詩およびそれへの注釈である前漢の毛亨による伝（毛伝）、後漢の鄭玄による箋（鄭箋）に見える文字について、音注によりその発音を示したもので、その故に“毛詩音”の名で呼ばれている。音注には主として反切を用い、直音その他の方法も若干用いている。音注のほかに、字体、字義などに関する注も少数ある。S. 2729 は、國風・周南・関雎の序の終り近くから、同じく唐風・山有樛の二章まで129行を存し、P. 3383 は、大雅・旱麓の三章から同じく召旻五章まで96行を存する。S. 10 V. は、S. 10（毛詩および伝箋の残巻、國風・邶風・燕燕から同じく静女まで、97行を存する）の文字に対し、その裏面にあたる紙背の場所に、細字をもって音注を主とする注を記したものである。これら残巻の含む音注の数とその種類による内訳は次表の通りである³⁾。

S. 10 V. に関する数字は、今までに判読できた音注についてであり、未だ判読できぬ音注が若干ある。

本稿は、序論、資料、本論の3部より成る。今回は（上）として序論および資料の部までを掲載する。

北大文学部紀要

	反 切		直 音		如 字	声調注	合 計 (のべ数)
	種 類	のべ数	種 類	のべ数			
S. 2729	844	1101	14	14	2	3	1120
P. 3383	549	667	62	79	4	2	752
S. 10V.	96	101	37	39	1	1	142

本論で詳述するが、これら残巻はいずれも相似た系統に属しながらも互に別の“毛詩音” edition にもとづく写本である。正式の書名および撰者は不明、書写年代はいずれも唐代、音注に反映した音韻の状況による撰述の年代は、7世紀半ばより8世紀半ばに至る間に収まると見られる⁴⁾。

敦煌発見の音注資料⁵⁾の中からとくにこれらの残巻をまとめてとり上げるのは、“毛詩音”という内容の共通性によるのではない。これら残巻に含まれる反切が、その他の敦煌資料をも入れて、当時までの一般の反切資料に含まれる反切とは非常に異なる独特な原則によって構成されており、その故に音韻史の史料として特別の価値をもつと考えるからである(§9参照)。敦煌発見の毛詩音残巻としては、他にいま一種、レニングラードのアジア諸民族研究所所蔵の敦煌文書のうち Dx-1366 a 残巻がある。同研究所所蔵敦煌文書の目録⁶⁾および小川環樹教授が同研究所を訪れられた際の手記を示されたのによって見ると、本稿でとり上げる諸残巻と体裁の似たものであり、その含む反切もまた同様の原則から成っているように思われるが、詳細な研究を彼地の学者に期待したい。小川教授手記によれば、同残巻の反切はのべ80箇ほどである。

また、P. 2529 毛詩故訓伝残巻には、字旁に音注を施した部分がある⁷⁾が、羅振玉「鳴沙石室古籍叢残」(1917年)所収の写真によって調べたところでは、全部で10項ほどに過ぎず、反切1項を除きあとは直音である。また、S. 5705 毛詩故訓伝残巻にも、字旁に施した音注が11項あるが、王重民氏の指摘⁸⁾のとおり、それらは經典釈文の音注を抄写したものである。これら残巻の音注はいずれも、他の毛詩音残巻の音注のよ

うに特殊な構成の反切を多く含むものではないので、本稿では研究の対象としない。

以下の部分では、本稿全体の論述にとって必要と思われる予備的事項の説明や討論を行っておきたい。

注 § 1

(1) 音注は、文字の発音の指定を通じて、その解せられるべき意味を指定する場合が少なくない。つまり、一つの文字に二つの音があり、それぞれ異なった意味に対応しているとき、それらのうち一方の音に読むべきことを指定するのは、一方の意味に解すべきことの指定であることが多い。また、ある文字Xに対して、その通常の読音Aとはやや異なる音Bに発音すべきことが注されているとき、（それにはいろいろな原因がありうるがその一つとして）Bを通常の読音とする他の文字Yのもつ意味によって（すなわちXはYへのいわば仮借であるとして）解すべきことを指示したものと見られる場合がある。このような意味において、「毛詩音」はやはり「毛詩音義」的な性質を多分に含んでおり、したがって「毛詩音」は毛詩およびその伝箋への注釈として研究されるべき面をもっている。また、本稿で扱う毛詩音殘卷は、のちに校録文注に示す如く、その掲げる毛詩および伝箋の文字に関して、經典釈文や現行の毛詩注疏との間にかなりの異同を含んでいるから、校定の材料として、或はテキストの変遷を知る資料として、用いられることができる。これらの面については、本稿では殆ど立入ることをしない。適任者によって将来なされるであろう研究に対し、材料を提供することになれば幸である。

(2) Stein の将来した文書はロンドンの British Museum に、Pelliot の将来した文書はパリの Bibliothèque Nationale に、それぞれ蔵せられている。

(3) 「如字」とは、その文字が読まれるもっとも普通の音に読め、という意味の音注。「声調注」と記したのは、その文字の読まれるべき音を、声調によって指定したもの（例えば「匏有苦葉」の「軌」に対し「凡之上声」と注するとき）。「反切」「直音」については § 3 を参照。

音注の数は、資料部の音注総表に載せてあるものの数である。この他、とくに殘缺や汚損、写誤の多い S. 2729 において、被音注字のみあって音注の文字（反切の場合は上字・下字の双方）が缺けていたり判読できないもの、或は明らかに誤りがあるが校訂できないもの、が少数ある。反切や直音の種類というものは、反切の上字・下字、直音に用いられた文字の同じい音注を 1 種と数えたもので、被音注字は必ずしも同じくない。

(4) 本論で述べるが、これらの年代は残巻によって異なり、P.3383はS.2729に比べその反映する音韻体系の年代が新しい。またこれら残巻の反切には一種の層位の複合が認められ、その中の古い層は7世紀半ば以前の音韻体系を反映する可能性がある。

(5) これらとしては、切韻系韻書や經典釈文、玄奘一切經音義の残巻をのぞき、毛詩音の他に「礼記音」(S. 2053)「楚辭音」(P. 2494)「文選音」(P. 2833)が主なものである。

(6) М. И. Воробьева-Десятовская, И. С. Гуревич, Л. Н. Меньшиков, В. С. Спирин, С. А. Школяр; Описание Китайских Рукописей Дунь-хуанского Фонда Института Народов Азии, выпуск I, Москва 1963 pp. 605~606 参照。

(7) 王重民「敦煌古籍叙録」北京 1958 p. 29 参照。

(8) 王重民「敦煌古籍叙録」p. 35 参照。經典釈文と一致しないただ1つの例外は 𪛗 (周頌, 潜) に対する「音𪛗」という注である(釈文は「音𪛗」)が、これは被注字のつくり引かれて「𪛗」が「𪛗」に訛ったものであろう(両字は同音であるから差支えない)。

2. 切韻方言の音節構造と音韻体系

唐代における中國語の音声や音韻を論ずるには、「切韻」(601年成書)の反切に反映している方言の音韻体系を基準として、それとの異同やずれを問題にすることから出発するのが通例である¹⁾。敦煌毛詩音反切を研究するにもやはりこの方途がとられるので、切韻方言の音節構造と音韻体系について述べておく必要がある。なお、切韻方言は6世紀末に洛陽や鄴を中心とする河南省地方の方言を基礎として成り立っていた北方標準語であり、南京を中心とする南方標準音の要素が若干加味されていたといわれる²⁾。

2. 1 音 節 構 造

切韻方言の音節構造は

$$IMiMuVE / T \quad A \sim B$$

という式により一般的にあらわされる。³⁾ 但し音節によっては、*Mi*, *Mu*, *E*, *A*~*B*の各要素は存在しない(或はゼロである)ことがある。

以下、各要素について簡単に説明する。

I: Initial 声母。音節初頭にあらわれる子音。

M: Medial 介母。*I* と *V* の中間にあらわれる副母音。*M* の位置に立つ音韻としては拗介音 /-i-/、合口介音 /-u-/ およびそれらの結合 /-iu-/ があり、反切の構成を説明する便宜により /-i-/ を *Mi*、/-u-/ を *Mu* の記号であらわす。

V: Principal Vowel 主母音。音節の中核をなす母音。

E: Ending⁴⁾ 韻尾。音節末尾にあらわれる副母音および子音。

T: Tone 声調。音節全体の上にかかる高さ長さ等に関する一定の音調。

A~*B*: 重紐。*I* が幫組・見組、*Mi* を含み、*V* が前舌母音であるという三条件を同時に有する音節には、「重紐」と呼ばれる二種類の音節の区別があった。それらの中「韻鏡」などの韻図の4等欄に配置されている種類の音節をA類、3等欄に配置されている種類の音節をB類とよぼう。A類とB類の間の音的区別については、音声的な意味では、*Mi* における前舌的 [-i-] (A類): 中舌的 [-ɹ-] (B類)、*I* における口蓋化 (A類): 非口蓋化 (B類)、の二面にあわせ存した、と考える⁵⁾。但しその音韻論的な処理については更によく考えたい⁶⁾ ので、本稿では *A*, *B* の記号を音節のさいごに添えてその属する類をあらわす。

I を声母というに対し、*MiMuVE/T* を韻母という。

実際の音節にあてはめていえば、例えば「亀」の音 /kiuei^平 B/ を構成する各音韻ははじめてから順に *I Mi Mu V E T A*~*B* に該当する。「列」/liat^入/ では *Mu A*~*B* を欠き、「馬」/ma^上/ では *Mi Mu E A*~*B* を欠いている。

2.2 声 母

切韻方言の声母 *I* を音韻記号によって表に示す。これは Karlgren 氏の推定音⁷⁾ に対して小部分の改訂を加えたものに基いている。/ts/ 等は単一の破擦音音素をあらわす。各 *I* の音声は、その音韻記号を音声記号として見たものに略等しい。但し ' は口蓋化音を、. はそり舌音をあ

らわす。

各音素にはそれに該当する字母名を附す。字母名はいわゆる 36 字母の名称によるが、照穿牀審禪の諸母で韻図の 2 等欄にあらわれるものを莊初崇生俟、3 等にあらわれるものを章昌船書常として区別する。また喻母の 3 等を匣母に併せ、4 等は羊母とする。非敷奉微は幫滂並明に併せ区別しない。このようなとり扱いかいや字母名は李栄「切韻音系」のそれ⁸⁾に同じいが、娘母を泥母から区別する点だけが異なる。

これらの *I* 音素を、調音部位や調音方法にしたがい幫組等 8 つの組に分ける。李栄氏との違いは日羊の阿母を章組に加えたことにある。組の前には、唇音など伝統的な「五音」の枠による分類を掲げた⁹⁾。

表には掲げないが、これら *I* を気音や声の有無等により、次のように分類するのが習慣である。全清摩擦音は伝統的には全清音に入れられるが、いまとくに区別した。

全清音：無声無気音 幫端知精莊章見影

次清音：無声有気音 滂透徹清初昌溪

全濁音：有声音 並定澄從邪崇俟船常群匣¹⁰⁾

次濁音：鼻音，流音，有聲弱摩擦音 明泥来娘日羊疑

全清摩擦音：無声摩擦音 心生書曉

声 母 表

唇 音 { 幫組 幫 滂 並 明
 / p p' b m /

舌 音 { 端組 端 透 定 泥 来組 来
 / t t' d n / l /
 知組 知 徹 澄 娘
 / t' t' d' n' /

{ 精組 精 清 從 心 邪
 / ts ts' dz s z /

齒音	莊組	莊	初	崇	生	俟		
		/ts/	ts'	dz	s	z	/	
牙喉音	章組	章	昌	船	書	常	日	羊
		/ts/	ts'	dz	s	z	ʃ	j/
牙喉音	見組	見	溪	群	疑	影	曉	匣
		/k/	k'	g	ŋ	ʔ	h	ɦ/

2.3 韻母

切韻方言の韻母を音韻表記によって表に示す。但し *T* および *A~B* は省略し、*MiMuVE* だけを示す。切韻方言の *T* としては平・上・去・入の四声があり¹¹⁾、入声は内破音 /-p, -t, -k, -uk/ を *E* にもつ音節のみにあわれ、逆にこれらの音節が担う声調は入声に限られる。

韻母の音韻論的解釈は三根谷徹氏¹²⁾に大体よっている。同氏の解釈はもっとも compact な体系を示し、かつまた敦煌毛詩音反切の構成原則を知る上に極めて有用と考えるからである。同氏の解釈は Karlgren 氏の推定音¹³⁾にその後の修正説をとり入れた音価に基く。これらの韻母が音声として実現される場合には、構成する諸音素が互にかなり同化しあったかたちをとることが多い¹⁴⁾。表に示した解釈が三根谷氏と異なるのは次の2点である。

i) 之韻を脂韻開口から区別して /-iΛw/ としたこと。新たに *E* /-w/ を認めることになる。

ii) 蒸韻および職韻を *V* /Λ/ を含む韻母と *V* /e/ を含む韻母に二分したこと。

これらの改訂は音韻史上かなり重要な意味をもっており、その根拠については別稿で詳しく述べるはずである¹⁵⁾。なお、以上は本稿で必要とするかぎりの改訂であり、佳韻を /aw/ と見た方がよくはないか、清韻と昔韻の *V* を /a/ と見る余地はないか、等の問題は疑問のままに残してふれないことにする¹⁶⁾。

各韻母の音韻表記には、それに該当する韻目名を附す。韻目名は廣韻による。平声と入声の韻目名だけを掲げ、平声の韻目名はそれに対応する上・去声の韻目をも包括した意味に用いる¹⁷⁾。韻目名には開・合の分類を附す。一韻が開・合に関しどちらか一方の韻母しか含まない場合も、一貫して開・合の分類を記す。本稿では、*Mu* /-u-/ を含まない韻母（または音節）を開口、*Mu* /-u-/ を含む韻母（または音節）を合口、と定義する。但し、*E* として /-u, -uŋ, -uk, -m, -p/（これらを唇音 *E* と呼ぶ）をもつ韻母（または音節）は、規則的に *Mu* を含むことがなく、従って開口に属する筈であるが、のちに敦煌毛詩音反切の構成をしらべる便宜の上から、開・合に対する第3の類と特に見なして、唇音 *E* 属（唇音韻尾属）と呼ぶことにする。

韻母や音節を *Mi* /-i-/ の有無により直音類（*Mi* を含まないもの）、拗音類（*Mi* を含むもの）に分け、更にその内部を次のように分ける。

○直音類

I類；奥舌 *V* /a, ʌ/ を含む。I類韻母はいわゆる1等韻に属する。

II類；前舌 *V* のうち /a, ɐ/¹⁸⁾を含む。II類韻母はいわゆる2等韻に属する。

IV類；前舌 *V* のうち /e/ を含む。IV類韻母はいわゆる直音4等韻に属する。

（なお、名称上III類というのは存在しない）

○拗音類

C類；奥舌 *V* /a, ʌ/ を含む。A・B・AB類の如く *I* や *A~B* による類の細分を伴わない。

A類；前舌 *V* /a, e/ を含む、*I* が幫・見組（唇・牙喉音）に属し、重紐 *A* の特徴をもつもの。

B類；上と同じく、重紐 *B* の特徴をもつもの。

AB類；前舌 *V* /a, e/ を含むが、*I* が幫・見組でない（つまり舌・齒音である）もの。重紐 *A~B* の対立がない。

韻母表における韻母は、これらの韻母類によって組分けがなされている。

韻母表において、1つの韻母が2つの韻目に該当していることがある。その場合の分かれる条件は次の如くである。

/ien, iet/	$\begin{cases} I \text{ が莊組のとき；臻開，櫛開} \\ I \text{ が莊組でないとき；眞開，質開} \end{cases}$
/iuen, iuet/ ¹⁹⁾	$\begin{cases} B \text{ 類のとき，および } I \text{ が莊組のとき；眞合，質合} \\ A \text{ 類および } AB \text{ 類（莊組をのぞく）のとき；} \\ \text{諄合，術合} \end{cases}$
/ien, iek, iuek/	$\begin{cases} A \text{ 類および } AB \text{ 類のとき；清開，昔開，昔合} \\ B \text{ 類のときおよび } I \text{ が莊組のとき；蒸開，職開，職合} \end{cases}$

反対に、1つの韻目が2つの韻母を含んでいることもある。すなわち（但し、A・B・AB類の違いは韻母の違いに算えない。）：

I 類とC類；東，屋，歌開，歌合

II 類とAB類；麻開

II 類とB類；庚開，陌開，庚合，陌合

B類とC類；蒸開，職開（*I* が幫組のとき /ien B, iek B/, *I* が莊組のとき /ien, iek/, それ以外のとき /iæn, iæk/）

韻母表において一を引いた欄は、その位置に入るべき韻母がじっさいの語根において見出されないところの、音韻体系の“あきま”、\を引いた欄は、それら“あきま”の中、*Mu* と唇音 *E* との異化作用のためとして規則的に説明される部分である。

直 音 類

I 類

歌開	泰開	豪	寒開	曷開	唐開	鐸開	談	盍	冬	沃
a	ai	au	an	at	aŋ	ak	am	ap	auŋ	auk
歌合	泰合		桓合	末合	唐合	鐸合				
ua	uai	／	uan	uat	uaŋ	uak	／	／	／	／
	哈開	侯	痕開	沒開	登開	德開	覃	合	東	屋
一	Δi	Δu	Δn	Δt	Δŋ	Δk	Δm	Δp	Δuŋ	Δuk
模合	灰合		魂合	沒合	登合	德合				
uΔ	uΔi	／	uΔn	uΔt	uΔŋ	uΔk	／	／	／	／

II 類

麻開	夬開	肴	刪開	鎋開	庚開	陌開	銜	狎	江	覺
a	ai	au	an	at	aŋ	ak	am	ap	auŋ	auk
麻合	夬合		刪合	鎋合	庚合	陌合				
ua	uai	／	uan	uat	uaŋ	uak	／	／	／	／
佳開	皆開		山開	黠開	耕開	麥開	咸	洽		
e	ei	—	en	et	eŋ	ek	em	ep	—	—
佳合	皆合		山合	黠合	耕合	麥合				
ue	uei	／	uen	uet	ueŋ	uek	／	／	／	／

IV 類

	齊開	蕭	先開	屑開	青開	錫開	添	帖		
—	ei	eu	en	et	eŋ	ek	em	ep	—	—
	齊合		先合	屑合	青合	錫合				
—	uei	／	uen	uet	ueŋ	uek	／	／	／	／

敦煌毛詩音殘卷反切の研究（上）

拗 音 類

C 類

歌開	癢開		元開	月開	陽開	藥開	敵	業	鍾	燭	
ia	iai	—	ian	iat	iaŋ	iak	iam	iap	iaʊŋ	iauk	—
歌合	癢合		元合	月合	陽合	藥合					
iuə	iuai	\	iuən	iuat	iuəŋ	iuak	\	\	\	\	—
魚開	微開	尤	欣開	迄開	蒸開	職開	凡	乏	東	屋	之
iA	iAi	iAu	iAn	iAt	iAŋ	iAk	iAm	iAp	iAuŋ	iAuk	iAw
虞合	微合		文合	物合							
iuA	iuAi	\	iuAn	iuAt	—	—	\	\	\	\	—

A・B・AB 類

麻開	祭開	宵	仙開	薛開	庚開	陌開	鹽	葉			
ia	iai	iau	ian	iat	iaŋ	iak	iam	iap	—	—	—
	祭合		仙合	薛合	庚合	陌合					
—	iuai	\	iuən	iuat	iuəŋ	iuak	\	\	\	\	—
支開	脂開	蕭	眞開	質開	清開	昔開	侵	緝			
			臻開	櫛開	蒸開	職開					
ie	iei	ieu	ien	iet	ieŋ	iek	iem	iep	—	—	—
支合	脂合		諄合	術合	清合	昔合					
			眞合	質合	職合						
iue	iuei	\	iuən	iuət	iuəŋ	iuək	\	\	\	\	—

2. 4 声母と韻母の結合関係

声母と韻母の結合には、声母の組と韻母の類に関し次表に示す一定の選択がある。○はその結合があること、×はないこと、(○)は少数の場合にのみ例外的にあることを各意味する。＼は類の定義により当然結合のない部分である。

韻母類 \ 声母組	幫	端	来	知	精	莊	章	見
I, IV	○	○	○	×	○	×	×	○
II	○	(○)	○	○	×	○	×	○
A, B	○	＼	＼	＼	＼	＼	＼	○
AB	＼	(○)	○	○	○	○	○	＼
C	○	×	○	○	○	○	○	○

但し個別的の韻母についていえば、じっさいの声母との結合範囲が、その属する類に許容された範囲に比べて狭いことがある。例えば、C類韻母のうち微廢欣迄文物元月凡乏敵業の諸韻に属する韻母は幫組・見組とだけしか結合しない、一般に直音類韻母は邪母・群母と結合しない、等々である。

声母が幫組の場合には、韻母に開・合の対立が存在しない。これは唇を合せて調音される幫組 I の下で開・合兩韻母の音声的区別が困難であるのに起因するが、開・合の対立がないとはいえ、幫組 I に結合してあらわれる韻母が、音韻論的にみて開口であるか合口であるかが問題となる。この問題の十全な解決はかなり困難と思われるが、本稿では韻図でのとり扱いかいや開・合により韻が分れる場合の属し方の大勢などを参考にして、前舌 V を含む韻母（すなわち、II, IV, A, B の各類）の場合は開口、奥舌 V を含む韻母（すなわち I, C の各類）の場合は合口、と仮に扱っておく。じっさいの状況は更に E などの条件によってはいま少しこみ入っていたと思われる。

註 § 2

(1) 「切韻」（但し原本切韻は伝わらないからそれに代るものとしての「広韻」または「完本王韻」）にはその反映する方言における一応すべての音節の音が、反切によって示されているので、反切の研究を基礎とする音価推定により、その方言の音韻体系の全体を再構できる。これに比べ、音義などの注音資料では、それに含まれる反切はすべての音節を覆うことができないので、それ自体の中から完全な音韻体系を再構することは多少とも困難である。したがって、これらの反切を切韻方言の音韻体系にあてはめて解釈し、矛盾が生ずる点についてその矛盾を解消できるような調整を加えたものを、それぞれの資料が反映する音韻体系とみなすのである。敦煌毛詩音の場合もこの例にもれない。切韻方言の3,000を超える音節数に比べ、S.2729の反切でもその $\frac{1}{4}$ 弱を覆うことができるに過ぎない（同音をあらわすのに2種以上の反切が使われることがあるから、反切のあらわす音節数は反切の種別数より更に若干少ない。S.2729では約790、P.3383では約500である。）。

(2) 有坂秀世「隋代の支那方言」（有坂秀世「国語音韻史の研究」東京1957増補新版 pp.285～302所収）の見解による。

(3) この式は、河野六郎博士が提唱され、ひろく用いられている中国語の音節構造の一般式 IMVF/T を、切韻方言について若干 modify したものである。

(4) 韻尾はふつう F(Final) の記号で書かれるが、韻母もまた Final というので、混同を避けて改める。

(5) 介音の区別については、有坂—河野説による。有坂秀世「カールグレン氏の拗音説を評す」「国語音韻史の研究」増補新版 pp.327～357所収（もと1937～39）、河野六郎「朝鮮漢字音の一特質」（言語研究3 1939 pp.27～53）参照。但しB類介音はこれらの説ではより中舌的な $-i-$ と推定されているが、本稿の如き音価でも事実の説明に支障を来さぬと思う。介音の違いが声母口蓋化の違いを伴うことについては、唇音に関しては上記有坂論文 p.342、河野論文 p.46に、牙喉音に関しては河野論文 p.47に、それぞれ言及がある。声母口蓋化の差異を音韻論的に重視して、重紐を $\sqrt{j}/$ を含む声母（A類）と $\sqrt{j}/$ を含まない声母（B類）の区別と解釈した論文に、三根谷徹「韻鏡の三・四等について」（言語研究22/23, 1953, pp.56～74）がある。

(6) 私は、重紐の音韻論的区別を声母の上におくことについては三根谷氏の説に傾いているが、未だ考えが決まらないのは、口蓋化要素としての $\sqrt{j}/$ を析出するか、それを析出せず単純な口蓋化音素と非口蓋化音素の対立（例えば $/\acute{p}/$: $/p/$ ）とみるか、またいずれの場合にもせよ、重紐を含まぬ種類の音節（§2, 3でいう直音類およびC類）に対してこれら二系列の声母のいずれを配当するか。

という点である。

(7) Bernhard Karlgren “Etudes sur la phonologie chinoise” Stockholm 1915～1926, pp. 342～580 (華訳本, 高本漢著, 羅常培・李方桂・趙元任合訳「中国音韵学研究」長沙 1940, 上海 1948, 台北 1962, pp. 239～436)。

(8) 李栄「切韻音系」語言学専刊第4種(改訂重印本)北京 1956, p. 4 参照。

(9) 伝統的な五音の分類は, 羊母(喻母四等)を牙喉音に入れるなど点でここに掲げると完全には一致していない。

(10) 匣母は, 前述の如く, 通常次濁音とされる喻母三等(于母)の場合も含んでいる。

(11) これら四声の調値には, 入声が短促を特徴としたと考えられる以外は, 推定の困難な点が多い。

(12) 三根谷徹「中古漢語の韻母の体系」(言語研究 31, 1956, pp. 8～21)。同氏の解釈の大きな特徴は, 上古音に関する頼惟勤氏の説(「上古中国語の喉音韻尾について」お茶の水女子大学人文科学紀要 3, 1953, pp. 51～64)を中古音の解釈に用いて, 二系列の喉音韻尾 /-ŋ, -k/, /-uŋ, -uk/ を指定した点にある。なお, 現代諸方言で後者の韻尾を有する韻母の例として福州方言における -ouŋ, ouk など(藍丕秀「福州音系」国立台湾大学文史哲學報 5, 1953, pp. 241～331 など参照)の他, 近ごろの報告では揚州方言における -ouŋ, iouŋ (北京大学中国語言文学系語言教研室編「漢語方音字匯」北京, 1962 p. 7 参照)がある。

(13) Etudes. pp. 598～700, 華訳本 pp. 451～536。

(14) 例えば /ia-/ の結合は概ね [iä-] のごとくであったと考えられる。

(15) 「切韻における蒸職韻と之韻の音価」と題する別稿を用意している。

(16) 更に, 註(6)でふれた問題の解決いかんでは, 声母韻母を含めて音韻体系全般にかなりの組み替えが必要となる場合も予想されるが, 本稿の論述はそれによって実質的な変更を受けることがなく, ただそれに伴ない若干の表現を替えるだけで済むと思う。

(17) 例えば, 鍾韻は平声鍾韻の他に, 上声腫韻, 去声用韻をも併せ代表し, 入声燭韻は別に掲げる。泰韻など去声しかない韻はその去声の韻目を掲げる。

(18) /ɐ/ はその記号からすれば中舌 V であるが, 声母の分布(知組や莊組と結合すること)からみて /a/ と同じ特徴を示すので, 前舌 V の中に含める。二等韻母における /a/ と /ɐ/ が音声上どのように区別されていたかは, 難しい問題である。

(19) 真合, 質合と諄合, 術合 とがどのような基準で分けられているかは, 一見しては必ずしも明瞭に知られないが, 詳しく検べるとこのような分化條件が明らかとなる。拙稿「切韻系韻書の例外的反切の理解について」日本中国学会会報

14, 1962, pp. 180~196 参照。

3. 切韻反切の構成

敦煌毛詩音に含まれる反切（敦煌毛詩音反切と略称）の構成の特異性を説明するまえに、それと対置される一般的な反切の代表として、切韻系韻書¹⁾の反切（切韻反切と略称）の構成を概観しておこう。

まず反切とは何かといえ、ある1つの漢字の音を示すのに、他の2つの漢字の音を組合せて用いるやり方である。反切を受けとる者の側からいえば、読み方のすでに明らかな字音2つを手がかりとして、未知の字音1つを知るのである。反切の第1字を反切上字（略して上字）、第2字を反切下字（略して下字）、反切によって音を示される字を反切帰字（略して帰字）という。上字は声母が帰字と共通、下字は韻母が帰字と共通であるように選ばれ、上字声母と下字韻母とを加えたものとして、帰字の音をなす音節があらわされているのである。例えば廣韻では「岡」の音を示すのに「古郎切」という反切を用いるが、これは「古」/ku^上/の声母 /k/ と「郎」/aŋ^平/の韻母 /aŋ^平/の和として「岡」の音を /kaŋ^平/ とあらわしたものである。「切」とは反切のしるし、また「反」とも書き²⁾、省略されて書かれないこともある。反切と並ぶ別の標音法として直音があり、「甲音乙」の形式により、音を示される字（甲）と同音で読み方が明らかな字（乙）を用いるやり方である。直音は甲と同音の乙に適当な字がないと使えないから、一般性において反切に劣るけれども、適当な字がある場合には直接的で簡明な点で反切にまさる。敦煌毛詩音が反切の外に若干の直音を混じているのはそのためである。

さて切韻反切について見ると、上字は単に帰字と声母 *I* が一致すればよいというだけではない。拗介音 *Mi* についても一致するのが原則となっている。すなわち、帰字が *Mi* を含む場合には、下字が *Mi* を含

むのは勿論、上字もまた *Mi* を含み、帰字が *Mi* を含まない場合は上字もまた *Mi* を含まない、という傾向が基だつよいのである。再び廣韻の反切を引けば、さきの「岡」の拗音にあたる「薑」/kiaŋ^平/ をあらわす反切「居良切」では、下字に *Mi* を含む「良」/liang^平/ を用いるだけでなく、上字にも *Mi* を含む「居」/kia^平/ を用いるのである。

かくて、切韻反切の上字は帰字と *IMi* を一致させるのを原則とするが、上字の *Mu* 以下の要素に立つ音についても、帰字との一致というかたちではないが、一定の選択が加えられていると観察される。すなわち、それらの要素には一見どのような性質の音でも自由に等しく立つことができそうに思われるが、事実はそれと甚だ異なるのである。各要素ごとに選択の状況を略述しよう³⁾。

Mu: 帰字の開・合にかかわらず共通して同じ上字が使われるが、それらの上字は殆どみな開口である。但し、模韻 /uΔ/ に属する上字は例外で、合口であるにもかかわらず、開口の帰字をあらわす反切にもひろく用いられている⁴⁾。

V: 帰字の *V* の性質にかかわらず、奥舌 *V* を含む上字が多く用いられる。すなわち、帰字が直音の場合にはⅠ類に属する上字が、帰字が拗音の場合にはⅡ類に属する上字⁵⁾ が、それぞれ多く用いられる。

E: 帰字の *E* の性質にかかわらず、ゼロあるいは /-ŋ, -k, -w/ (すなわち非円唇の奥舌音) を *E* にもつ上字が多く用いられる。唇音 *E* 属の上字は概して使用が少なく、ことに /-m, -p/ をもつ上字の使用は稀である。

T: 平・上・入三声を *T* とする上字はいずれも多く用いられているが、去声を *T* とする上字はあまり用いられない傾向がある。

A~B: *A*類または*B*類の帰字をあらわす反切には、*A~B* の対立をもたないⅢ類の上字の用いられることが多い。これは、奥舌 *V* を含む上字を多用する現象と関聯している。

下字の *I* についても選択がある。下字を選びうる音的範囲は上字の場合に比べ狭いので（すなわち偏字と同じ韻母をもつ字の範囲に限られる）、必ずしもその選択方針をつらぬくことができない場合が少なくないと思われ、したがって統計上の数値からその選択方針を逆に推知する作業はとくに慎重を要するが、気音や声の有無に関しては、全清音の *I* がもっとも多く用いられるのに対し次清音の *I* はあまり用いられない、などの現象にはやはりそれに対応する音的な選択がはたらいていたと認めてよいであろう。声母の組についてみれば、見組や米組などが多く用いられる傾向、偏字の *I* と同じ組あるいは調音の近い組が用いられる傾向、の2つが交錯しているといえるであろう。但しこれらは、偏字の声母組や韻母類によってかなり異なる様相を呈する。

切韻反切の中には、これまでに概観してきたのとは異なりむしろ敦煌毛詩音反切や後述する慧琳音義反切に近い構成を有するものも若干混じているが、それらは比較的少数であり⁶⁾、上述の構成による反切が多数を占める。本稿で切韻反切の構造をいうときはこの主体をなす反切によるのである。六朝以来唐代までの反切資料についてみると、慧琳音義などわずかな例外をのぞいては、それらの主体をなす反切の構成は切韻反切と大同小異であるように見受けられ⁷⁾、また敦煌毛詩音反切等に似た構成の反切を部分的に含む点も切韻反切の場合と同様である（それを含む比率は資料により多少がある）。

注 § 3

(1) 原本「切韻」はその後たびたびの部分的修訂を経て、「広韻」（1008年）に至る。これらを総称して「切韻系韻書」という。原本切韻は失われ、今日完全なテキストとして残っている edition は「広韻」および「王仁昫刊謬補缺切韻」（宋瀧跋本、いわゆる完本王韻）であり、その他の edition は部分的に残っているものがあるにすぎない。原本切韻の反切は、これらの修訂版において、その面目を大きくは変えることなく引き継がれたと見られるので、今日残っているこれら edition の反切を、一応原本切韻の反切の代用とみなして、取扱うことができる。

(2) 「反」「切」の字義については、王力「漢語音韻学」(1957 北京) 第十四節「反切」、藤堂明保「中国語音韻論」(1957 東京) p. 84 など参照。

(3) 以下述べるところは、陸志韋「古反切是怎样構造的」(中国語文126, 1963 年第5期, pp. 349~385, 以下「陸氏論文」と略称)の論述を基礎とし、それに拙稿「陸志韋教授『古反切是怎样構造的』を読む」(中国語学 140, 1964 4-5, pp. 20~33)やその後の私見による修正を加えたものである。

(4) 陸氏論文 p. 358 では、この事実にもとずき、模韻の Karlgren 氏音価 $-uo$ を $-o$ に訂正している。私は、模韻の切韻音価は或は $/-uau/$ であって、非円唇の韻尾 $/-u/$ のために、介音 $/-u/$ による円唇性が音声面につよくあらわれなかったのではないかと、この仮説を抱いている。

(5) 但し、 I が舌・歯音の場合には、前舌 V を含む AB 類に属する上字の使用もかなり多い。

(6) 例えば、陸氏論文によれば、完本王韻において、Ⅱ類帰字をあらわす反切547のうちⅡ類上字を用いたもの33、Ⅳ類帰字をあらわす反切291のうちⅣ類上字を用いたもの14、に過ぎない。

(7) 陸氏論文では、六朝の音注家たちの反切を調査して、それらが基本的に切韻反切と同様の構成をもつことが示されている。陸氏論文 pp. 366~385。

4. 敦煌毛詩音反切の構成

本稿でとり上げる敦煌毛詩音反切の構成を略述すると、そのもっとも大きな特徴は、上字が帰字と $IMiMuV A \sim B$ の広範囲にわたり一致するのが原則と認められる点にある。下字が帰字と $MiMuVE/T A \sim B$ を一致させるのは切韻反切に同じいから、上字と下字が重複してあらわす要素が非常に多いことになる。以下、上字と帰字が一致する状況を各要素ごとに概観しよう²⁾。 Mi の一致は切韻反切と同じであるから省略する。

Mu ; 上字の開・合は帰字と一致するのを原則とする。すなわち、 Mu を含まない帰字には Mu を含まない上字、 Mu を含む帰字には Mu を含む上字が、各用いられる。模韻に属する上字もこの原則にしたがい合口の帰字をあらわす反切に専用される。唇音 E 属の帰字では、その韻母全体のもつ音的特質(直・拗、 V の広・狭、唇音 E の種類)を条件として、専ら開口の上字をとる場合、専ら合口の上字をとる場

合、兩者を混えてとる場合がある。また唇音 *E* 属の字が上字として用いられる際にも、同様の条件により、専ら合口の帰字に対して用いられる場合とそうでない場合との違いがある。

V: 上字 *V* は帰字 *V* に一致するのを原則とする。但しその一致は他の要素におけるような個々の音素についての一致ではなく、一定の *V* グループについての一致である。*V* グループとしては、直音の場合には /ɑ, ʌ/, /a, ɐ/ /e/ の3グループ、拗音の場合には /ɑ, ʌ/, /a, ɐ/ の2グループがあり、上字 *V* は帰字 *V* と同じグループに属するのが原則である。但し拗音の場合、かかる一致が見られるのは *I* が幫組・見組（唇・牙喉音）のときに限られ、その他の組（舌音・齒音）のときにはとくに一致が図られているとは観察されない。

ここに述べた *V* の一致を次に述べる *A*~*B* の一致と併せて見るならば、敦煌毛詩音反切は、（拗音で舌音・齒音 *I* の場合をのぞき）さきの韻母表における *I*, *II*, *IV*, *A*, *B*, *C* の各韻母類に関して、上字が帰字に一致するのを原則として構成されている、ということになる。

A~*B*: 上字は帰字と *A*~*B* の特徴を一致させるのを原則とする。すなわち、*A*類の帰字に対しては*A*類の上字を、*B*類の帰字に対しては*B*類の上字を、原則として用いている。

上に述べてきた上字-帰字間にみられる音的一致の原則は、例えば次の反切の上に集中的に具現されている。対照のため、それと同音の帰字をあらわす切韻反切を併せ掲げよう。

上 字	下 字	帰 字
「遼」/giuei ^平 B/	「員」/ʁiuan ^平 B/	→「𪛗」/giuan ^平 B/
(S. 2729, 117 行)		
「巨」/giʌ ^上 /	「員」/ʁiuan ^平 B/	→「樞」/giuan ^平 B/
(廣韻, 仙韻)		

上字の *E* および *T*、下字の *I* に関しては、切韻反切について述べたのにやや似た選択の傾向がある。

なお、これは切韻反切についても略同様にあてはまることであるが、敦煌毛詩音反切の下字について若干の補足的説明を加えよう。下字は帰字と韻母すなわち *MiMuVE/T A~B* を一致させるのであるが、*A~B* の一致というのは、帰字の *A~B* に合せて *A* 類または *B* 類の下字を用いるという場合だけを指すのではない。*AB* 類の韻母には、その結合する舌音・歯音 *I* の性質によって、音声上 *A* 類の韻母に近い特徴を含むもの、*B* 類の韻母に近い特徴を含むもの、(さまざまな程度において) それらの中間的なもの、がある。*A* 類または *B* 類の帰字に対して *AB* 類の下字が用いられている場合、上記の観点から韻母の音声的特徴の近似によると解しうるかぎりには、それもやはり *A~B* の一致と見なすのである。かかる場合を含めての下字・帰字の *A~B* 一致に関して、敦煌毛詩音反切は切韻反切に比べやはり一層精密であると観察される。

また、幫組 *I* をもつ帰字が幫組以外の *I* をもつ下字をとるとき、帰字の音韻論的な開・合にかかわらず、下字の開・合について一定の原則はない。すなわち、開口の下字も合口の下字も混じて用いられている。これは、幫組 *I* をもつ音節の韻母が音声上開・合の中間的な特色を有する傾向があったためと考えられる。また、幫組以外の *I* をもつ帰字が幫組 *I* をもつ下字をとるとき、その帰字は開口である場合も合口である場合もある。これも上記と同じ理由から理解することができる。

注 § 4

(1) S. 10 V. の反切は、反切数が少ない上に切韻反切式の反切を混ざる割合がやや多いので、以下に述べるところは、S. 2729, P. 3383 の反切から帰納したものである。これら両種の残巻の反切から帰納される構成原則は、殆ど同じであるといってよい。両残巻とも切韻反切式の反切を少数含むけれども、その割合は極めて小さい。

(2) 詳しくは資料部の反切上字表、および本論での論述を見られたい。

5. 反切の口唱

上述したように、切韻反切、敦煌毛詩音反切のいずれにあっても、上字韻母、下字声母の選定に、各要素ごとに一定の原則ないし傾向がみとめられる。これはいったい何故であろうか。上字韻母、下字声母は帰字の音を求める際には捨て去られる不用な部分であるのに、それらの部分にかなりやかましい選択がなされているのは、かならず理由のあることでなければならない。

この疑問に対しては、反切とは口唱によって解釈される（帰字の音を求め出す）ものであった、との想定に立って答えうるであろう。つまり上字と下字をじっさいに口で連唱して、それらをやがて一音節に融合し合わせたものが求める帰字の音値となる、反切とは本来そのような効果をめざしたものだ¹⁾、と考えるのである。この前提に立って見るならば、反切の口唱に際して上字と下字の融合をできるだけ滑らかに実現するためには、上字、下字の音ぜんたいの音声学的性質をよく吟味しておく必要があったのだ、と了解せられる。

反切の口唱的性格を前提として切韻反切の構成を説明しようとした論文に、陸志韋「古反切是怎样構造的」²⁾がある。具体的な内容に関しては異論をはさむ余地が少くないけれども、その基本的着想において甚だ注目すべき論文と思われる。ところが陸氏論文への批評として書かれた施文濤「關於漢語音韻研究的幾個問題——与陸志韋先生商榷³⁾」では、清末の学者陳澧の意見に拠って、反切の口唱的性格の説につよく反対している⁴⁾。陳澧はその著「切韻考」の中で、「切語之法非連讀二字而成一音也」と断じ、その理由として、反切が果して口唱によって解釈されるものならば、上字の韻尾はゼロでなければならない、下字の声母は喉音（影，曉，匣，羊の諸母，これらはゼロ的性質をもつといえる）でなければならない筈だ、という⁵⁾。しかしながら、反切の口唱を前提しないかぎり、上字韻母、下字声母に対し明瞭な音的選択の加えられている理

由を説明できないであろう。施文濤氏もこの点について積極的な見解を述べているわけではない。

ところで、反切の口唱といい上字・下字の融合といっても、それがどのような過程として行われていたのであろうか。これは想像するより他ないが、恐らく次のようであったろう。まず上字と下字の音を緊密につづけて発音し、それを繰り返しながら、上字韻母、下字声母にあたる部分の音声の調音をゆるめ、それと共にそれらの間に存する音節境界のはっきりした分節を次第にぼかしてゆく。やがてこれらゆるめられた調音をとり去って、上字声母と下字韻母を直接に結び合せ、一音節に発音する。このようにして唱え出された音が、反切の示す帰字の音として扱われた、と想像する。心理的な側面からいうならば、上字・下字をくり返し唱えるうちに、上字声母と下字韻母の聴覚映像にもとづいて、唱え出されるべき帰字の音の音声表象が形成され、つぎにそれが音声として実現せられる、という過程であったと考えられる。上字・下字を連唱する回数は、反切口唱に慣れるにしたがって減ずることができ、さらに音読を黙読におきかえるのと併せて、反切の文字を一見するなり殆ど瞬時に帰字の音を口にすることのできる域に達するのも不可能ではなかったろう。しかし上述の過程がその基礎にあることには変りがない。反切の口唱ということをごくこのように見るならば、上字韻尾や下字声母がゼロまたはゼロ的なものでなければならぬ必要のない（そうであることが有利な条件である場合はあるが）ことが了解されるであろう。

註 § 5

(1) 反切はやがて韻図や等韻学的概念を用いて理解されるようになるが、それは二次的に後から発達した方式と考える。

(2) § 3 註(3)参照。

(3) 中国語文128, 1964年第1期, pp. 1~18.

(4) 同論文 p. 18.

(5) 「切韻考」(「音韻学叢書」成都1957 所収本) 卷六, 十二丁。

王力「漢語音韻」(北京 1963) pp. 37~38にも、恐らく陳澧に拠って、同様の意見が述べられている。橋本万太郎氏の注意によりこれを知った。

6. 反切の唱え易さ

上述の見地から見ると、反切の口唱が円滑に遂行されること——つまり反切の唱え易さ——を支配する主要な条件として、次の二つがあったと思われる。第一は、口唱にあたってとり除かれる部分としての上字韻母と下字声母が、なるべくとり除かれ易い音的性質をもつこと、第二は、口唱にあたって結び合わされる部分である上字声母と下字韻母とが、なるべく互に結び合わされ易い音的性質をもつということである。まず第一の条件から説明を加えよう。

上字韻母、下字声母には、その音声学的性質によって、その調音をゆるめてとり除くことが比較的困難なものと、比較的容易なものとの違いがあった、と思われる。閉鎖のかたい音は閉鎖の柔かい音に比べて、その調音をとり除きにくいであろう。円唇や張り唇など唇の積極的なかまえを伴う音は、然らざる音に比べてその調音をとり除きにくいであろう。また舌の感覚の敏感な部分で調音される音は、その鈍感な部分で調音される音に比べて、とり除く力が加えられたときそれに敏感に感應して抵抗するであろう。音色の上からいって、するどい音色や多量の騒音を伴うことによって耳だつ音は、聴覚映像がそれだけはっきりしているために、上字声母と下字韻母との結び合を中間にあって妨害する程度が高かったであろう。上字韻母、下字声母が、これらの意味においてとり除き易い音であるほど、その反切は唱え易く、とり除きにくい音であるほど、その反切は唱えにくいと感ぜられたであろう。

第二の条件について説明する。音韻的にみた場合には、上字声母、下字韻母はそれぞれ帰字声母、帰字韻母と等しくおかれているのが原則であるけれども、音声的にいうならば、それらが互に全く等しいことはありえない。なぜならば、それらが互に音韻的環境を異にする以上（音韻的環境が全く等しければ、上字、下字ともに帰字と全く同音になって、反切は意味をなさなくなる）、音韻的環境に支配されるものである音声

は、多少とも異なった姿をとらざるをえないからである。したがって、反切口唱に際して上字声母と下字韻母とが結び合わされるときには、それらは多少とも音声的な改変を受けた上で、それぞれ帰字声母、帰字韻母として収まることになる。必要とされる音声的改変の幅が小さいほど、上字声母と下字韻母との結びつきが容易であり、反切はそれだけ唱え易いと感じられたであろう。またその際、上字声母を調音するかまえをあまり変えずに、そのまま帰字の音を唱えにかかることができるのも反切の唱え易さを増したであろう。それでは、上字声母、下字韻母を音声的に帰字声母、帰字韻母にそれぞれ近ずけるにはどうすればよいか。それらのおかれる音韻的環境を帰字と（全く等しくならない範囲で）なるべく共通であるようにすればよい。つまり、上字声母については、帰字韻母の中に含まれ帰字声母に一定の音声的特徴を与えている要素を、上字韻母もまた同じく含むようにするならば、その特徴に関して上字声母は帰字声母に等しくなるわけで、上字韻母がこのような要素を多く含むほど、上字声母は音声的に帰字声母に接近してゆく。下字韻母については、下字声母の調音が帰字声母に近いほど、下字韻母は音声的に帰字韻母に接近してゆく。

また第二の条件は、同時に次の面からも反切の唱え易さを高めるものであった。上述のように、上字声母を音声的に帰字声母に近ずけるには、上字韻母が帰字韻母と共通の要素を含むようにすればよかった。ところで、上字韻母が帰字韻母と共通に含む要素は、下字韻母もまたそれを含むから、上字韻母におけるそのような要素は、反切の口唱に際して実際は除去されてしまうのではなく、下字韻母におけるそれと同じ要素の上に重ね合せられて、帰字韻母へと伝えられることになる。たとえていえば、上字韻母におけるかかる要素は、反切口唱において上字声母を下字韻母につなぐ‘のり代’の役目をするわけであり、‘のり代’が広くて純粋に除去される部分が小さいほど、反切はそれだけ唱え易く感じられたと思われる。

7. 唱え易さから見た切韻反切と敦煌毛詩音反切

反切の唱え易さを支配する二つの條件に照らして眺めると、切韻反切では、第一の條件を利用することによって反切の唱え易さを獲ようとした面が大きい。上字韻母に *Mu* を含まないものを多く用いること、奥舌 *V* を含むものを多く用いること、*E* としてゼロや */-ŋ, -k -w, /* のとき奥舌性の音を含むものを多く用いること、下字声母として見組や来母の使用が多いこと、次清音の使用が少ないこと、これらはすべて、反切口唱に際しとり除くのが容易な性質の音を好み、とり除きにくい性質の音をなるべく避けるという選択志向のあらわれとして理解することが可能である⁷¹。切韻反切が第二の條件を利用している点としては、上字韻母の直・拗を帰字韻母に一致させていることがある。この一致によって、口蓋化の有・無の相対的な大別に関して、上字声母が帰字声母と同じ音声の特徴をもつように図られているわけである。声母の含む音声的諸特徴のうちで、音色ならびに調音の変化よりみて、口蓋化はもっとも著しい特徴であるから、とくにこの点について上字声母と帰字声母との一致が必要と認められたのであろう。下字声母として帰字声母と同じ声母組に属するものを用いる傾向がある程度認められる⁷² のも、第二の條件による反切の唱え易さを狙った点と解される。

敦煌毛詩音反切では、第二の條件を利用することによって反切の唱え易さを獲ようとした面が大きい。本論でいま一度詳しく述べるが、上字韻母が *V* および *A~B* の類別に関して帰字韻母に一致する原則は、それらを條件として生じている口蓋化の程度の差異について、上字声母の音声を帰字声母に合せようと図ったものに他ならない。上字韻母が開・合に関して帰字韻母に一致する原則は、唇音化の有無について上字声母を帰字声母に合せようと図ったものに他ならない。上字・帰字の開・合一致において、唇音 *E* 属字の一部が合口的性格を示すのは、唇音 *E* の同化作用により、介音にあたる位置に一種の円唇的調音の生ず

ることがあったためである、と考える。*E* や *T* に関しての一致が図られていないのは、これらの要素が声母の音声的ニュアンスに影響する度合いが、*Mi*、*Mu* や *V* に比べて低かったためと解される。これらの要素については、第一の条件の側から選択の加えられた点が見出される。

第一の条件を利用した方法は、いわば消極的な面から反切の唱え易さを獲ようとしたものであり、第二の条件を利用した方法は、積極的な面から反切の唱え易さを獲ようとしたものである。したがって、より高度の唱え易さは、切韻反切よりも敦煌毛詩音反切の側において達成されていた、といえるであろう。切韻系韻書などの反切の中には、一部ではあるが敦煌毛詩音に似た反切も混じて用いられている。これらは、より唱え易い反切を作ろうとの志向が個別の場合について作用したことによる、と解せられるが、敦煌毛詩音反切は、そのような個別の場合の経験から一定の原則を引き出して、反切一般にそれを適用して作られたものであろう。その原則化がどのような人びとによって行われまた伝承されたか、これは興味ある問題であるけれども、現在のところそれを解く手がかりはない。このような反切が今のところ敦煌毛詩音反切だけに見出されるのは何故か。韻文である毛詩は特に音読が重んぜられてやかましかったと考えうるから、そのためとくに毛詩の音注家の一派の手でかかる反切が発達させられた、という可能性はあるが、或は俗間で更にひろく用いられていたものが単なる偶然から毛詩音にだけ遺っているのかも知れない。また、これと同時代あるいは以後の時代でも、反切資料の大多数は依然として切韻式の反切を主体とし、今日遺る資料でみれば敦煌毛詩音式の反切があまり普及しなかったのは何故か。恐らく、切韻式反切が六朝以来の永い伝統によって正統的な反切と見なされており、新しい工夫を加えた反切は、正統的反切に見られぬ文字を多く使って目ざわりな異端として、排斥される空気があったのではなかろうか。正統的反切の唱えにくさは、反切そのものを変えるよりは、反切解釈の補助手段としての韻図や等韻学的概念の利用を発達させて補ったのではない

かと思われる。

註 § 7

(1) 陸氏論文に対する私の批評論文（§ 3 註(3)）の中で、この点に関しより具体的に述べてある。

(2) 陸氏論文 pp. 362 右欄に、I 類歸字をあらわす反切についてこの点の指摘がある。

8. 慧琳反切との比較

反切構成の原則に敦煌毛詩音反切と共通する点の多い反切としては、慧琳「一切経音義」（784～807撰）の反切と、徐鍇「説文解字繫傳」（いわゆる小徐本説文）の反切とがある。後者の反切は10世紀南唐の朱翱の撰になるものだが、詳しい研究が未だなされていない¹⁾。ここでは、前者の反切について、敦煌毛詩音反切との簡単な比較を行っておく。

慧琳音義に含まれる大量の反切は、黃淬伯「慧琳音義反切攷」²⁾で整理が加えられている。それによって見ると、慧琳反切では、上字韻母が *Mi*、*Mu*、*V*（の類）、*A*～*B* を歸字と一致させる段階よりも更に進んで個々の *V* およびさらに *E* に関しても一致の図られる傾向がつよく、その結果として、歸字と *T* だけが異なる文字を上字にあてた反切が非常に多く見られる³⁾。河野六郎博士が唐韻（上去声を含む）と入声鐸韻にあたる部分の反切について統計をとられた結果では⁴⁾、(A) 上字が歸字と *T* だけが異なりあとは全く同音であるもの；25.3%，(B) 上字が歸字と *E* /-ŋ/：/-k/ の点でのみ異なりあと全く同音であるもの；36.4%，であり、(B) における *E* の違いを声調に関する平上去：入の違いと見なすならば、じつに反切の6割以上が、歸字と声調だけ違う文字を上字に用いていることになる。これは、慧琳音義反切の全般についても、ほぼ同様に認められる現象である。

歸字と *T* だけ異なる上字を用いた反切は、唱え易さの点では甚だすぐれたものであったろう。上字声母は音声的に歸字声母と極めて近くな

るわけであるし、また、上字をまず唱えておいて、その音を平上去入の相配関係によって下字の示す声調へと転読する、という反切の唱え方も拓かれたわけである。しかし他面では、上字を選ぶ音的範囲が局限されることによって、誰もがその音を知ることのできる比較的易しい文字を上字に得られない場合が増してくる。また、一つの声母をあらわすに一定した少数の上字が用いられるということは、その文字になじむことを通じて、反切の唱え易さを確保するやはり一つの条件であったと思われるから、慧琳反切のように上字の種類が極端にふえるのは、この意味でもマイナスの要因であったろう。これらの点を考慮に入れるならば、敦煌毛詩音反切が上字韻母をそこまで帰字韻母に一致させる途をとらなかったのは、方法的な未発達というよりも、却って意識された適切な抑制であったのかも知れない⁵⁾。

敦煌毛詩音反切では、上記 (A) (B) 型の反切を原則化して作ることをしないばかりでなく、たまたまそういう反切が生じるような場合には、上字をとり替えることによって意識的にそれを避けたと思われる徴候がある(本論参照)。その結果として、敦煌毛詩音反切の中には (A) (B) 型の反切は非常に少数であり、ことに (A) 型はごく少ない。恐らく、これらの型の反切では下字の機能が実質的には帰字の声調を示すだけに退化してしまっているのを、反切として不自然だと考えてそれを避けたのであろう。

註 § 8

(1) 研究として張世禄「朱韞反切考」(説文月刊 4, 1944) があるが未見。小徐本反切を見わたしたところでは、敦煌毛詩音反切とも慧琳反切とも違う独自の点があるようである。

(2) 国立中央研究院歴史語言研究所專刊之六、上海 1931。

(3) 慧琳反切の上字が帰字と等位、開・合を一致させることまでについては、Y. R. Chao "Distinctions within Ancient Chinese" HJAS 5-3/4. 1941 pp. 203~233, pp. 207~208 に指摘されている。河野六郎博士は、 $\frac{3}{4}$ 次掲(4)の論文でさらにすすんで、上字に帰字と T のみ異なるものが多いのを示された。

(4) 河野六郎「慧琳衆經音義の反切の特色」(東京教育大学中国文化研究会

報 5-1, 通卷11号, 1955 pp. 85~88) p. 86 参照。

(5) 慧琳反切が (A) (B) 型を多く用いるもっとも大きな理由は、或は反切の「早づくり」に便利であったためかと思われる。帛字の音にもとづく簡単な手順により、反切の上字を決めることができるからである。慧琳音義の含む龐大な数の反切を作成するにあたり、この面の長所が重視されたのはありうることである。

9. 敦煌毛詩音反切の音韻史的価値

すでに述べたように、敦煌毛詩音反切は非常にすぐれた性能を有する反切であり、反切法の発達史の中に重要な位置を与えられるべきものと考えられる。また、このような反切を作ることが可能となった背景として、等位や開・合などに相当する等韻学的な抽象観念のかなりな成熟が存したであろうことが推定され、この意味でも看過できぬ反切である。これらは敦煌毛詩音反切のいわば音韻学史的な価値であるが、本稿では、この面についてこれ以上の分析を行う用意がない。

敦煌毛詩音反切は音韻学史的に興味ある反切であるに止まらず、音韻史を再構する史料として、独特の大きい価値をもっている。すなわち、上字韻母と帛字韻母とが多くの要素にわたって互に一致するよう反切が構成されているのを逆に利用して、音価に疑問のある一部の韻母について、その音価を推定する重要な手がかりの得られる場合がある。例えば、*V* が前舌であるか奥舌であるか、の点で音価に疑問のある拗音韻母に関しては、幫・見組声母とそれが結合した場合に、上字－帛字の韻母類一致の原則の中で、A類またはB類としての行動をとるか、それともC類としての行動をとるかを、敦煌毛詩音反切について調べればよい。もし前者であるならば *V* は前舌、後者であるならば *V* は後舌である。この方法は、*V* の類別だけでなく、A～B, 開・合などの区別についても同様に適用できる。また、唇音 *E* 属の韻母が開・合いずれの側に立つかを調べることにより、同一の *V* グループの中における *V* の広狭の違いを推定できる場合がある。¹⁾ 敦煌毛詩音反切が反映する音韻体系は切韻方

言のそれにかなり近いものであるから、このようにして得られた音価の知見は、唐代音韻史の段階を示すものとして価値をもつだけでなく、切韻方言における音価に関する困難な問題を解くのに寄与できる場合が少くない。慧琳反切ではその反映する音韻体系で *V* の合流が広汎に生じ、たとえばC類韻母は大部分B類韻母となっているために、拗音韻母における *V* の前・奥については、反切の上からその区別を知る手がかりが失われている。このような区別をよく保存している点でも、敦煌毛詩音反切の存在は貴重である。

敦煌毛詩音反切の構成における諸種の原則や傾向の背後には、それらを必要とし或は妥当とする音声的な原因が、かならず存在したと考えられる。このような原因の解明を通じて、反切の反映する方言における音声的な現象を、かなり微細な点にまでわたって推定できる場合がある。例えば、幫組・見組声母をもつ拗音節が、反切構成の原則の上から *A・B・C* 三類にはっきり分れることは、これら声母の音声的ニュアンスが、*V* の前・奥および *A~B* を条件として異なっていたことを示すもので、それは理論的には一応予想されるところとはいえ、じっさいに反切の構成から証明できるのは、興味の深いことである。また、反切構成の原則に外れた例外的な反切が若干存在するが、それらには、切韻反切など伝統的構成の反切が何らかの原因で混った場合の他に、音声学的にそれを必要とする理由がとくにあって、そのために例外的な構成がなされていると解せられる場合がある。このような例外的反切の説明を通じてもそれが反映する方言の音声的事実に迫りうる可能性がある。

反切構成の原則や傾向を音価や音声の推定に役立てることは、切韻反切についても可能であり、この面の研究は一層開発される必要がある。切韻反切と敦煌毛詩音反切とでは、構成原則の違いに応じて、この面から照らし出されることがらの範囲が必ずしも同じくないわけであるが、総じていうならば、敦煌毛詩音反切にあっては、その多面にわたる厳格な原則性のゆえに、より多くの点について一層確実な結果を期待す

ることができる、と言えるであろう。

註 § 9

(1) 本論で述べるように、これらの方法によって、例えば之韻や蒸職韻、覃合韻などの音価を推定し、或は確かめることができる。

10. 文 献

本稿でとり上げる毛詩音殘卷に関する従来の文献を挙げておく。これらはいずれも書誌学的な面を主とした紹介や研究であり、音韻史的な研究には殆ど及んでいない。

S. 2729

- ① Lionel Giles ; Dated Manuscripts in the Stein Collection,
(Bulltin of the School of Oriental Studies London Institution IX
1937. pp. 1~25) p.23.
- ② Lionel Giles ; Descriptive Catalogue of the Chinese Manuscripts from Tunhuang in the British Museum, London, 1957. p. 255.
- ③ 王重民「敦煌古籍叙録」北京, 1958 pp. 42~49 (1939年執筆).
- ④ 「敦煌遺書総目索引」北京, 1962. p. 165.

P. 3383

- ① 小島祐馬「毛詩音義殘卷」(小島「敦煌遺書所見録」(四)支那学 6-3, 1930. pp. 83~90 所収).
- ② 王重民「毛詩音」(王重民「巴黎敦煌殘卷叙録第一輯」上海, 1936. 4丁~6丁, また「敦煌古籍叙録」pp. 36~38所収).
- ③ 劉詩孫「敦煌唐写本晋徐邈毛詩音考」真知学報 5-1
(「敦煌古籍叙録」pp. 38~42に節録)(原本未見).
- ④ 神田喜一郎「敦煌秘籍留真」京都, 1938. 上巻 No.8 図版 1.
- ⑤ 周祖謨「唐本毛詩音撰人考」(周祖謨「漢語音韻論文集」上海, 1957. pp. 1~3. 図版 5 もと 1942).

⑥ 神田喜一郎「敦煌秘籍留真新編」台北，1947. 下卷，図版 pp-115~120.

⑦ 「敦煌遺書総目索引」ibid. p.286.

S. 10 V.

① 王重民「敦煌古籍叙録」ibid. pp. 31~33. (1938年執筆).

② L. Giles ; Descriptive Catalogue. ibid. p. 230.

第2部 資 料

S. 2729 残 卷

一 原本写真、校録文ならびに校註

本残巻の原本写真と、それを基に必要な校訂を加えて作成した校録文、ならびに校訂箇所やその理由等を記した校註を掲げる。原本写真は、British Museum より東洋文庫に贈られたマイクロフィルムからの複製である。校註には、現在の毛詩とその伝箋の通行本、および「經典釈文」との間にみられる用字の違いを併せ記した。



37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58

民汪... 8
將... 也
... 觀
... 更... 晚
... 不... 與... 不...
... 未... 仰... 有... 德... 非...
... 哉... 財... 茶... 茶... 真... 孟... 湯... 丈...
... 心... 武... 二... 捕... 閱... 司... 司... 南... 離... 賈... 馬...
... 堅... 泰... 萬... 旌... 率... 興... 家... 豫... 而... 偷...
... 夢... 聞... 伶... 侯... 之... 無... 組... 當... 翟... 屋... 角... 楮...
... 寧... 遠... 之... 子... 彈... 郭... 胞... 閣... 寺... 散... 赤... 條... 仁...
... 近... 之... 太... 娶... 力... 市... 錢... 于... 榆... 舍... 散... 南... 寧... 昭...
... 通... 瑞... 錦... 鐵... 許... 宮... 七... 歡... 說... 應... 卿... 宴... 四...
... 一... 理... 稅... 偏... 補... 趙... 林... 事... 甄... 我... 已... 都... 擲... 偏... 僱... 七... 不...
... 妹... 春... 城... 隅... 畜... 檢... 頭... 月... 辰... 煒... 畢... 七... 各... 聖... 牛... 台... 二...
... 歸... 第... 陶... 新... 畫... 納... 儀... 此... 瀾... 宴... 甄... 姚... 慶... 五... 蔭...

[illegible]

鄭讀衣第七

1129 1130 1131 1132 1133 1134 1135 1136 1137 1138 1139 1140 1141 1142 1143 1144 1145 1146 1147 1148 1149 1150 1151 1152 1153 1154 1155 1156 1157 1158 1159 1160 1161 1162 1163 1164 1165 1166 1167 1168 1169 1170 1171 1172 1173 1174 1175 1176 1177 1178 1179 1180 1181 1182 1183 1184 1185 1186 1187 1188 1189 1190 1191 1192 1193 1194 1195 1196 1197 1198 1199 1200 1201 1202 1203 1204 1205 1206 1207 1208 1209 1210 1211 1212 1213 1214 1215 1216 1217 1218 1219 1220 1221 1222 1223 1224 1225 1226 1227 1228 1229 1230 1231 1232 1233 1234 1235 1236 1237 1238 1239 1240 1241 1242 1243 1244 1245 1246 1247 1248 1249 1250 1251 1252 1253 1254 1255 1256 1257 1258 1259 1260 1261 1262 1263 1264 1265 1266 1267 1268 1269 1270 1271 1272 1273 1274 1275 1276 1277 1278 1279 1280 1281 1282 1283 1284 1285 1286 1287 1288 1289 1290 1291 1292 1293 1294 1295 1296 1297 1298 1299 1300 1301 1302 1303 1304 1305 1306 1307 1308 1309 1310 1311 1312 1313 1314 1315 1316 1317 1318 1319 1320 1321 1322 1323 1324 1325 1326 1327 1328 1329 1330 1331 1332 1333 1334 1335 1336 1337 1338 1339 1340 1341 1342 1343 1344 1345 1346 1347 1348 1349 1350 1351 1352 1353 1354 1355 1356 1357 1358 1359 1360 1361 1362 1363 1364 1365 1366 1367 1368 1369 1370 1371 1372 1373 1374 1375 1376 1377 1378 1379 1380 1381 1382 1383 1384 1385 1386 1387 1388 1389 1390 1391 1392 1393 1394 1395 1396 1397 1398 1399 1400 1401 1402 1403 1404 1405 1406 1407 1408 1409 1410 1411 1412 1413 1414 1415 1416 1417 1418 1419 1420 1421 1422 1423 1424 1425 1426 1427 1428 1429 1430 1431 1432 1433 1434 1435 1436 1437 1438 1439 1440 1441 1442 1443 1444 1445 1446 1447 1448 1449 1450 1451 1452 1453 1454 1455 1456 1457 1458 1459 1460 1461 1462 1463 1464 1465 1466 1467 1468 1469 1470 1471 1472 1473 1474 1475 1476 1477 1478 1479 1480 1481 1482 1483 1484 1485 1486 1487 1488 1489 1490 1491 1492 1493 1494 1495 1496 1497 1498 1499 1500 1501 1502 1503 1504 1505 1506 1507 1508 1509 1510 1511 1512 1513 1514 1515 1516 1517 1518 1519 1520 1521 1522 1523 1524 1525 1526 1527 1528 1529 1530 1531 1532 1533 1534 1535 1536 1537 1538 1539 1540 1541 1542 1543 1544 1545 1546 1547 1548 1549 1550 1551 1552 1553 1554 1555 1556 1557 1558 1559 1560 1561 1562 1563 1564 1565 1566 1567 1568 1569 1570 1571 1572 1573 1574 1575 1576 1577 1578 1579 1580 1581 1582 1583 1584 1585 1586 1587 1588 1589 1590 1591 1592 1593 1594 1595 1596 1597 1598 1599 1600 1601 1602 1603 1604 1605 1606 1607 1608 1609 1610 1611 1612 1613 1614 1615 1616 1617 1618 1619 1620 1621 1622 1623 1624 1625 1626 1627 1628 1629 1630 1631 1632 1633 1634 1635 1636 1637 1638 1639 1640 1641 1642 1643 1644 1645 1646 1647 1648 1649 1650 1651 1652 1653 1654 1655 1656 1657 1658 1659 1660 1661 1662 1663 1664 1665 1666 1667 1668 1669 1670 1671 1672 1673 1674 1675 1676 1677 1678 1679 1680 1681 1682 1683 1684 1685 1686 1687 1688 1689 1690 1691 1692 1693 1694 1695 1696 1697 1698 1699 1700 1701 1702 1703 1704 1705 1706 1707 1708 1709 1710 1711 1712 1713 1714 1715 1716 1717 1718 1719 1720 1721 1722 1723 1724 1725 1726 1727 1728 1729 1730 1731 1732 1733 1734 1735 1736 1737 1738 1739 1740 1741 1742 1743 1744 1745 1746 1747 1748 1749 1750 1751 1752 1753 1754 1755 1756 1757 1758 1759 1760 1761 1762 1763 1764 1765 1766 1767 1768 1769 1770 1771 1772 1773 1774 1775 1776 1777 1778 1779 1780 1781 1782 1783 1784 1785 1786 1787 1788 1789 1790 1791 1792 1793 1794 1795 1796 1797 1798 1799 1800 1801 1802 1803 1804 1805 1806 1807 1808 1809 1810 1811 1812 1813 1814 1815 1816 1817 1818 1819 1820 1821 1822 1823 1824 1825 1826 1827 1828 1829 1830 1831 1832 1833 1834 1835 1836 1837 1838 1839 1840 1841 1842 1843 1844 1845 1846 1847 1848 1849 1850 1851 1852 1853 1854 1855 1856 1857 1858 1859 1860 1861 1862 1863 1864 1865 1866 1867 1868 1869 1870 1871 1872 1873 1874 1875 1876 1877 1878 1879 1880 1881 1882 1883 1884 1885 1886 1887 1888 1889 1890 1891 1892 1893 1894 1895 1896 1897 1898 1899 1900 1901 1902 1903 1904 1905 1906 1907 1908 1909 1910 1911 1912 1913 1914 1915 1916 1917 1918 1919 1920 1921 1922 1923 1924 1925 1926 1927 1928 1929 1930 1931 1932 1933 1934 1935 1936 1937 1938 1939 1940 1941 1942 1943 1944 1945 1946 1947

有學第八
 子一
 會夫
 還廠好
 根植
 併著
 閣路分
 輝堂
 已度析英圖明
 審則莫公詢主案
 樣惟易象的筆基術後生捐
 重之文翰析極異上維第號機門集
 阻仆失安肅份署似驛鐵銀
 為課觀名樂都性果顯准各駐而派權博
 單鄭驪就清心
 提雪角年六亥第
 榮錦馬無收三供保陷
 出云選毛項元貴
 掘渠名墮兒者趣番
 林堪宋儲柳年
 道從行費寶石點
 泥是開路世手缺
 富轉論國素資
 其名震赫伯撫為
 自色東下二年邑計

校錄文並校註

校錄文並校註凡例

- 原影片上字形模糊或爛缺較甚之字，以□標之。
- 原影片上雖缺全字，但能推知其處確有其字者，以□補之。
- 原影片上未能識讀之字，或雖明有誤但未能訂讀之字，以？代之。
- 殘卷原文多用當時之俗字，小字注文中出現者例以正字改錄（今時亦慣用者如「礼」等未改）、大字經傳箋文中出現者，盡量仍之未改。
- 殘卷原文之字形訛亂者甚多，如点画多少不正，偏旁「扌」木」「ナ」殆不分之類。此類訛字例以正字轉錄，不加校註。
- 殘卷原文例不標毛詩篇名，今在（ ）內補之，以便檢閱。
- 所加校註中云「原」者，指殘卷照片之原文。
- 校註中云「阮本」，指阮元校刻十三經注疏毛詩正義所載之經文及傳箋文。今用一九五七年中華書局本。
- 校註中云「積文」，指陸德明經典積文所收毛詩音義。用商務印書館叢書集成初篇景印之抱經堂本。
- 校註中引用被加校註之字，即以「—」代之。
- 東洋文庫金子良太氏現滯英國，特往大英博物館親查原卷，就原字模糊難認之處細加推案，或臨摹字形，以示我共達三十余條，校註中時稱「金子氏云」引用以外，參考之處頗不少，茲記感謝。

（關雎）

王者放驕側元岐宜？⁽¹⁾

關雎第一

3 鳩牛犢二好到速？⁽¹⁾市？⁽²⁾問下怨耦五參創差楚蓉⁽⁴⁾

(1) 金子氏云“左右行各似有三字”。左行第一字似「鄭」，然則右行第一字當是「毛」，俱暫存疑。按積文云「速音求」毛云匹也本亦作仇音同鄭云怨耦曰仇，右行下二字當是相當於「音求」之反切。左行以常母「市」為切上字，當是讀

「逮」為「讎」之故也。廣韻「讎」下云「匹也仇也、市流切」。左行第三字似「流」、亦存疑。

- (2) 金子氏云「此處有一字、字形模糊」、臨摹之字形似「龜」亦似「幽」、存疑。
(3) 阮本積文俱作「開」。
(4) 阮本積文俱作「荇」、積文「本亦作」。

4 左宰右救 荑茶葉之狙 側皆展轉 張荑之報樂
(1) 賀右救 荑茶葉之狙 側皆展轉 張荑之報樂
(2) 荑茶葉之狙 側皆展轉 張荑之報樂
(3) 荑茶葉之狙 側皆展轉 張荑之報樂
(4) 荑茶葉之狙 側皆展轉 張荑之報樂
(5) 荑茶葉之狙 側皆展轉 張荑之報樂

- (1) 阮本積文俱作「接余」、積文「本或作——非」。
(2) 此字隱僻、似不宜用、疑字有誤、暫仍之。
(3) 阮本同、積文作「菹」、云「字又作」。
(4) 阮本積文俱作「寤」。
(5) 阮本積文俱作「輟」、積文「本亦作」。

5 覃音澣胡濯 根施羊千絺勒綸卿 自前浸 子于橫 亂古
(1) 覃音澣胡濯 根施羊千絺勒綸卿 自前浸 子于橫 亂古
(2) 覃音澣胡濯 根施羊千絺勒綸卿 自前浸 子于橫 亂古
(3) 覃音澣胡濯 根施羊千絺勒綸卿 自前浸 子于橫 亂古
(4) 覃音澣胡濯 根施羊千絺勒綸卿 自前浸 子于橫 亂古

- (1) 原作「覃」、則与注中「覃」同字、今提積文「本亦作——」改。積文阮本俱作「覃」。
(2) 阮本積文俱不見此字、按二章箋云「古者王后織玄紵」、疑此卷所提之本「玄」作「——」、因此處亦有「絺」「綸」二字、故誤入此乎。然「玄」行作「玄紵」、与阮本同、或疑「——」本是「玄」下之注義字、而誤作被注音之字、存疑。
(3) 原作効韻「孝」、与皓韻「皂」不合、故訂「——」。
(4) 阮本積文俱作「濯」。

6 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因
(1) 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因
(2) 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因
(3) 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因
(4) 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因
(5) 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因
(6) 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因
(7) 嗜更 諧搏丸藁木存遠 開亡 糞刈言癢 渡郭斲石 漢煮汝真 獸因

- (1) 原作精母「走」、与定母「搏」不合、故訂「——」。
(2) 阮本同、積文作「叢」、云「俗作——」。
(3) 原似「杏」、当是「——」之訛。
(4) 阮本同、積文作「艾」、云「本亦作——」。
(5) 原作「獲」、今提阮本改。下文「——煮」不誤。
(6) 原作澄母「直」、与章母「煮」不合、故訂「——」。
(7) 積文同、阮本作「厭」。

7 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說
(1) 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說
(2) 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說
(3) 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說
(4) 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說
(5) 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說
(6) 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說
(7) 玄紵當紘 紘綻盈梅衣應 適石告篤 薄汙汪緯 黹攔反辱 說

- (1) 原似從「幸」、当是「——」之訛。
(2) 原作常母「成」、与書母「適」不合、下字「石」亦常母、故訂「——」。
(3) 此恐是「專」、存疑。積文「諸詮之音而專反」。

(卷耳)

8 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂
(1) 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂
(2) 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂
(3) 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂
(4) 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂
(5) 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂
(6) 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂
(7) 文當呼緣 通害割 何甫清 秦卷 險設 貶傾 筐曲 狂荅 歷筐 舂

(1) 原作庚韻二等「生」。「清」積文云「如字、沈音淨」、按「如字」指清韻清母之音、「音淨」指勁韻從母之音。右字「秦」是從母，此處反切蓋是相當於後一音者，故訂「生」為勁韻「性」。二等「生」不応切三等「清」亦其旁證也。P.三三八三殘卷第四十二行「清」下亦有「秦性」反。

(2) 原似「九」、亦似「凡」、存疑。

(3) 原亦似「免」、「免」、「」音同、暫為「」。

(4) 阮本積文俱作「頃」。

9

裴易盈⁽¹⁾ 跋⁽¹⁾ 寅彼征周行 恒陟張崔存⁽²⁾ 懷化⁽²⁾ 蹟濁使⁽²⁾ 史⁽²⁾ 離⁽²⁾ □□

(1) 即「盈」字。
(2) 原作一等「瓊」、与二等「應」「蹟」不合、故訂「」。

10

疊盧勞⁽¹⁾ 郎⁽²⁾ 贖⁽³⁾ 宏祖⁽⁴⁾ 余⁽⁴⁾ 瘡⁽⁴⁾ 都⁽⁴⁾ 痛⁽⁴⁾ 于⁽⁴⁾ 妃⁽⁴⁾ 忤⁽⁴⁾ 况⁽⁴⁾ 穆⁽⁴⁾ 兼⁽⁴⁾ 妃⁽⁴⁾ 逮⁽⁴⁾ 唐⁽⁴⁾ 嫉⁽⁴⁾ 從⁽⁴⁾ 妬⁽⁴⁾ 路⁽⁴⁾

(1) 積文同、阮本作「觥」。
(2) 原作莊母「爪」、与見母「贖」不合、故訂「」。原卷「」皆作「爪」、下文不毎註記。

(3) 阮本同、積文作「確」、云「本亦作」。
(4) 阮本積文俱作「吁」。

11

藁⁽¹⁾ 力⁽²⁾ 憂⁽³⁾ 亡⁽³⁾ 樂⁽³⁾ 只⁽³⁾ 是⁽³⁾ 綏⁽⁴⁾ 荷⁽⁵⁾ 幣⁽⁵⁾ 因⁽⁵⁾ 僉⁽⁵⁾ 支⁽⁵⁾ 訖⁽⁵⁾ 生⁽⁵⁾ 宣⁽⁵⁾ 容⁽⁵⁾ 蟻⁽⁵⁾

(1) 阮本積文俱作「藁」。按積文「藁」下云「本亦作藁」、次項「藁」下云「本又作」、此行「一藁」二字當是誤換者、而「藁」當訂「藁」也。今暫仍之。

(2) 參看註(1)。

(3) 原作明母「亡」、与章母「只」不合、故訂「」。

(4) 金子氏云「此處成缺口」。

(5) 積文同、阮本作「藁」。

(桃天)

(鬼置)

12

息振⁽¹⁾ 忍⁽²⁾ 揖⁽²⁾ 側⁽²⁾ 尺⁽²⁾ 桃⁽²⁾ 天⁽²⁾ 英⁽²⁾ 鰥⁽²⁾ 瓜⁽²⁾ 黃⁽²⁾ 扶⁽²⁾ 葵⁽²⁾ 側⁽²⁾ 置⁽²⁾ 耶⁽²⁾ 稼⁽²⁾ 竹⁽²⁾

(1) 阮本同、積文作「饒」、云「本亦作」。原從「角」誤。
(2) 原有汚損、當是「」。參看七十三行「較」下「」字。

13

打⁽¹⁾ 竹⁽²⁾ 耕⁽²⁾ 畀⁽²⁾ 工⁽²⁾ 杙⁽²⁾ 羊⁽²⁾ 赴⁽²⁾ 吉⁽²⁾ 剛⁽²⁾ 扞⁽²⁾ 恒⁽²⁾ 禦⁽²⁾ 言⁽²⁾ 難⁽²⁾ 乃⁽²⁾ 施⁽²⁾ 式⁽²⁾ 遼⁽²⁾ 追⁽²⁾ 權⁽²⁾ 斷⁽²⁾

(1) 阮本積文俱作「丁」。

25 弗勿翦子菱(1)
淺子(2) 滿敗布(3)
遇過(4) 憇例說(5)
銳拔八彭狀(行露)
十因過英(5)
入昕(5)
斤香

(1) 阮本积文俱作「蒞」。此下有注。

(2) 此字由影片難認、金子氏云「明是「列」」。「憇」當讀祭韻、故訂「一」。

(3) 原作端母「東」、与書母「說」不合、故訂「一」。

(4) 阮本积文俱作「厭」。

(5) 原從「目」非。

26

謂爵(1) 雀穿姝謂女仁獄(2)
音(1) 煮(2) 瓜(3)
味中救說(4)
文鳥口礼紆側始掌墉(4)
鍾(3)

(1) 阮本作「雀」。

(2) 阮本积文俱作「墉」、恐「一」或是「墉」之誤、今暫仍之。

(3) 金子氏云「成缺口、全不可識」。

(4) 积文同、阮本作「純」。

(羔羊)

(股其靈)

27

訟從五(1) 佗唐厄委英(2)
支(3) 蹤足(3)
容緘(2) 况縫扶五綵祖股應(3)
雷

(1) 阮本作「純」、积文作「它」、积文「本又作他」。

(2) 积文同、阮本作「蛇」。

(3) 原作「縱」、今依积文「字亦作一」改。阮本积文俱作「從」。

(標有梅)

(小星)

28

盧奮甫暇行(1) 標脾小目止(2)
羊墮徒(3) 迨筐(4)
堅(5) 氣(5) 香(5) 扶(5) 嘒(5) 彼(5) 血(5) 喝(5) 中(5)

(1) 原從「目」非。

(2) 阮本作「以」。

(3) 阮本积文俱作「隋」。

(4) 此下有音注。

(5) 阮本积文俱作「著」。

(江有汜)

29

肅宵遙(1) 息(1) 定力參陰山与昂(1)
鮑(1) 衾(1) 綺与稠(1) 毛直流汜(2) 詳沱唐何

(1) 原作「昂」誤。

(2) 原作「泡」誤。

(野有死麋)

30 渚真山道唐嘯星蹙(1)子死(2)麋(3)倫(4)惡(5)汪殺例(6)樸(7)蒲(8)蘇(9)茅(10)

- (1) 原作職韻「即」、与嘯韻「嘯」不合、故訂「一」。
- (2) 原作宵韻「天」、与屋韻「蹙」不合、故訂「一」。
- (3) 阮本同、积文作「蹙」、积文「本亦作一」。
- (4) 阮本积文俱作「樸」。

(何彼穠矣)

31 純徒脱外通感(1)銳(2)東使(3)老(4)萌(5)扶(6)樓(7)辱(8)厭(9)因(10)翟(11)續(12)胡(13)憤(14)

- (1) 原作四等A類「吉」、与一等「感」不合、故訂「一」。
- (2) 「一」敢韻字、与感韻「感」不合、疑是感韻「默」之誤、今暫仍之。
- (3) 此下当有音注。
- (4) 阮本同、积文作「繪」、云「本又作一」。
- (5) 原作見母「故」、与匣母「續」不合、下字「憤」亦見母、故訂「一」。

(騶虞)

32 綏祖工唐棟唐愛榆須羊成緡武綸律袁扶蒐色則王放于(1)

- (1) 此一項当在「唐棟」之前、暫仍之。

33 彼茁側劣畋退皆壹發方(1)犯(2)八(3)牝(4)忍(5)縱(6)工(7)都栢舟第三

- (1) 阮本积文俱作「犯」。
- (2) 原從「丰」誤。阮本积文俱從「豕」、积文云「字又作一」。
- (3) 阮本积文俱作「擲」、积文「本又作一」。
- (4) 阮本积文俱作「栢」、积文「字又作一」。
- (5) 原脫此字、当補。

(栢舟)

34 汎彼數徹巾仁度唐洛據御(1)卷(2)免(3)逮(4)愛(5)選(6)充(7)儼(8)儉(9)悄(10)

- (1) 原作清母「七」、与見母「據」不合、故訂「一」。
- (2) 阮本积文俱作「棣」、积文「本或作一」。

(綠衣)

35 小七慍威(1)侮(2)亡(3)梧(4)墜(5)脾(6)拊(7)武(8)送(9)徒(10)虧(11)為(12)憤(13)續(14)古(15)綠(16)毛(17)如(18)字(19)上(20)僭(21)

- (1) 阮本积文俱作「寤」。
- (2) 阮本积文俱作「辟」、积文「本又作一」。

36 念嬖(1)補綠(1)閒皆鞞已織(1)眞俾并說于(2)淒(2)今燕(2)見(2)嬖爲京

(1) 积文同、阮本作「間」。
(2) 原作「乙」，當訂「一」。此蓋是涉一章傳文「燕燕駘也」(积文云「駘本又作乙」)而誤者。

37 差(1)楚離(1)池直(1)憤(1)扶涕(1)礼天(1)頤(1)之(1)結(1)亢(1)郎(1)竚(1)直(1)下(1)上(1)兩(1)成(1)感激(1)歷(1)

(1) 原此項重出、今刪一。
(2) 阮本积文俱作「頤」。
(3) 积文同、阮本作「佇」。

38 氏(1)任(1)毛(1)平(1)鄉(1)去(1)心(1)塞(1)則(1)以(1)勗(1)玉(1)州(1)吁(1)于(1)凶(1)顧(1)戶(1)猶(1)曾(1)才(1)冒(1)報(1)莫(1)畜(1)六(1)辛(1)

(1) 原作「民」誤。
(2) 原作「呼」。

39 恤(1)諱(1)浪(1)向(1)洛(1)嘆(1)敖(1)到(1)五(1)悼(1)唐(1)且(1)蠹(1)孟(1)且(1)噎(1)宴(1)欽(1)肯(1)肱(1)黜(1)擊(1)歷(1)

(1) 「一」一等、「諱」三等、疑「一」或為「略」之誤、今暫仍之。
(2) 阮本积文俱作「笑」、积文「本又作一俗字也」。
(3) 原從「山」非。
(4) 阮本积文俱作「咳」。
(5) 原作「繫」誤。

40 將(1)亮(1)子(1)馮(1)水(1)弊(1)邑(1)袂(1)鐺(1)郎(1)太(1)城(1)漕(1)勞(1)才(1)仲(1)勅(1)爰(1)喪(1)浪(1)還(1)

(1) 此上原有切語、前行未重出、今刪之。
(2) 阮本作「敵」。
(3) 阮本积文俱作「鏜」。

41 旬(1)契(1)啓(1)數(1)朔(1)約(1)因子(1)偕(1)諧(1)嗟(1)洵(1)縣(1)血(1)信(1)鄉(1)毛(1)息(1)振(1)凱(1)康(1)慰(1)貴(1)

(1) 原似「耕」「耕」存疑。
(2) 原似「式」、存疑。
(3) 原作「颯」、蓋涉「一風」之「風」而訛也。

42 彼棘京樂夏郎天(1)英釁容浚須(2)睨刑院板華好老呼旅

- (1) 阮本积文俱作「棘」、积文「俗作」。
- (2) 原作精母「即」、与来母「樂」不合、故訂「」。

43 數雙泄(1)世奮訊息(2)自貽羊阻(3)呂側作翳(4)令燕迭結挺臧郎宰

- (1) 原似「舊」非。
- (2) 原作「忝」、廣韻云「」之俗体。
- (3) 积文同、阮本作「詒」。
- (4) 阮本积文俱作「繫」。

(匏有苦葉)

44 不忒征(1)濟有箋由膝息則揭卿賢与不甫瀾婢驚

- (1) 此項当在「臧」之前、暫仍之。

45 小羊假訝不濡辱軌(1)范凡之牡厚莫漬秦由(2)卑卓離(2)威旭玉暉迨

- (1) 阮本积文俱作「軌」。
- (2) 「」去声、「離」平声、此疑是「恭」之誤、暫仍之。

(谷風)

46 改唐未泮普仰(1)我否甫備俛忍名譴輕葑妃菲數芴亡根莖

- (1) 阮本积文俱作「印」、积文「本或作」。
- (2) 此二字似從「」、当是「」之訛。阮本积文俱作「黽勉」、积文「黽本亦作」。

47 耕下畿勲我裁(1)纔財音茶都齊礼宴(2)公顯涇形濁角湜(2)成

- (1) 此項原作「財纔音」、按此係鄭箋「送我裁於門内」中「裁」字之注文、「纔」当謂其義、「財」当謂其音者、故訂如此。
- (2) 阮本积文俱作「爾」。

48 汙真我屑星以捕蓬閱血匍匐(1)北蒲惱香(2)羅市賈工售又

49 蔽并覬京毒螫式蓄勅以御呂言洸剛潰胡貽羊肆羊世羊

- (1) 金子氏云“明是「器」”。
- (2) 阮本积文俱作「詒」。

(式微) (旄丘)

50 塹香黎零寓元旄莫率色與羊蒙武璫蘇而倫湯(1)

- (1) 积文同、阮本作「瑱」。
- (2) 阮本积文俱作「榆」。

(簡兮)

51

稊詳蘭限伶丁歷俱々元轡兵組宗簫羊翟田歷泓角緒章(1)

- (1) 阮本积文俱作「簡」、积文「或作——是草名非也」。
- (2) 阮本同、积文作「冷」、积文「字亦作——」。

- (3) 「——」語韻字、与虞韻「俱」不合、疑是「矩」之誤、暫仍之。
- (4) 原作溪母「丘」、与幫母「轡」不合、故訂「——」。
- (5) 原從「艸」、当誤。

52

淳(1)殊辱周礼染羽以朱界并鞞于胞彭閭呼温寺時一散桑榛側仁(2)

- (1) 阮本作「厚」。按此卷撰者以「——」為是、引冬官鍾氏文為証。
- (2) 原從「玉」、当誤。阮本积文俱從「火」。积文「字亦作——」。

(泉水)

53

苓歷慙兵淇(1)其變力聊零錢慈于禰年舍較蒲暈行(3)

- (1) 原作「湛」誤。

- (2) 「其」原作「甚」誤。疑此「其」始作「淇其」、後轉写間隨「淇」誤作「湛」、
- 「其」亦誤作「甚」、遂成「湛甚」、「甚」似「湛」之音讀、似通也。後人復知其譌誤、但未敢改字、只在「甚」字右旁行間書「祁」以訂之、則「湛」当讀為「祁」音之意、「湛」既当讀「祁」、其為「淇」之誤不必書也。後又轉写人並書「祁」、「甚」在「湛」下也。今「湛」「甚」訂作「淇」「其」、而「祁」

「其」並視為「淇」之音讀。

- (3) 原字写誤、其右旁書正字以訂之。

(北門)

54 遺(1) 垂側瑕(1) 行害(1) 毛何蓋反歎(1) 湯股斤應鄉(1) 向襄郡

(1) 原字重複、今刪一。

55 一埤(1) 𣶒(1) 稅(1) 東偏(1) 補(1) 譴(1) 根(1) 革(1) 事(2) 敦(2) 毛都溫(3) 擲(3) 直(4) 偏(4) 催(5) 雷存(5) 鄭(5)

(1) 阮本積文俱從「彳」。積文「凡偏字從彳偏字從人後皆放此」。

(2) 此上原有「熟」、當是書誤「一」者、今刪之。

(3) 阮本同。積文作「擣」、積文「与」同。

(4) 阮本從「彳」。

(北風)

56 祖(1) 携(1) 蟹(1) 雨(1) 雪(1) 云(1) 雱(2) 普(2) 黃(2) 邪(2) 祥(2) 既(2) 亟(2) 己(2) 子(2) 徐(2) 諸(2) 罪(2) 敷(2) 彤(3)

(靜女)

(1) 阮本積文俱作「攜」。

(2) 此上原有一字、蓋字誤「一」者、今刪之。

(3) 原作「彤」誤。

57 徒(1) 姝(1) 春城隅(1) 于(1) 畜(1) 香(1) 搔(1) 素(1) 踟(1) 躑(1) 須(1) 直(1) 月(1) 辰(1) 為(1) 娠(1) 非(1) 煒(1) 子(2) 說(2) 懌(2) 毛容雪(2) 羊石二(2)

(1) 原脫此字、今補。

(2) 原脫此字、今補。積文云「本又作悅」。

(新臺)

58 二歸(1) 莢(1) 田(1) 洵(1) 須(1) 新臺納(1) 伋(1) 京(1) 泚(1) 千(1) 瀾(1) 眠(1) 宴(1) 燕(1) 婉(1) 因(2) 晚(2) 居(3) 其(3) 蔭(3)

(1) 阮本積文俱作「燕」。

(2) 阮本積文俱作「蔭」。

(3) 阮本積文俱從「竹」。

(子乘舟)

59 直(1) 鮮(1) 毛(1) 息(1) 淺(1) 涎(1) 洒(1) 浼(1) 下(1) 莫(1) 罪(1) 反(1) 不(1) 殄(1) 毛(1) 廷(1) 典(1) 下(1) 人(1) 嫁(1) 乘(1) 舟(1) 由(1) 支(1) 景(1) 景(1) 陰(1) 賣(1)

(1) 原作羊母「余」。被切字「景」為見母或影母(積文「如字、或音影」。下字

「景」梗韻三等見母、不能与羊母結合。「余」字当有誤。疑影母「英」之誤、或疑見母「金」之誤（則下字「景」当訂作「影」）、難定。今暫闕之。下字暫仍之。此項不列音注總表。

60 有害

毛何蓋
鄭何割

(1) 鄺栢舟第四卷三

(3) 共恭伯蚤字今早
髡徒兩髻

(柏舟)

(1) 阮本积文俱作「柏」。

(2) 原脱此字、当補。

(3) 原徙「百」、当是俗字。

61

莫味蒙櫛側纒又生彼二反
總工拂勿敷冠綏辱死矢商靡它
音他諒

(1) 原作夔韻「侮」、与隊韻「昧」不合、当是「一」或「佩」之誤、今暫訂為「一」。

(2) 原作「縱」誤。阮本积文俱作「纒」。

(3) 此「晋」氏不詳何人。

(4) 此二反实是同音、按积文「色蟹反又色綺反」、疑「生彼」之「彼」或是「蟹」等字之誤、今暫仍之。

(5) 原作「綏」誤。

(6) 阮本同、积本作「亮」、云「本亦作一」。

(牆有茨)

(君子偕老)

62

尚茨前桑疾藂茨蒺藂古襄抽勅偕老更笄經
栗蒺藂豆襄抽偕老諧分六珈皆編髮

(1) 阮本同、积文作「藂」。

(2) 此下当有音注。

(3) 原作「編」、蓋涉下文而誤者、疑本是「遐」、暫闕之。
(4) 此二字原誤倒、以レ号訂之。

63

綿上并取祖步搖委英它唐易鼓瑳采何鬢髮
危它唐易鼓瑳采何鬢髮忍屑星鬢髮

(1) 阮本作「最」。

(2) 原似上声「紹」、与平声「搖」不合、故訂「一」。

(3) 阮本积文俱作「佗」。

(4) 阮本积文俱作「玼」、积文「王肅云……本或作一」。

(5) 原似「我」誤。

(6) 原作匪母「云」、与章母「鬢」不合、故訂「一」。
(7) 此二字原誤倒、今正之。

64

上庭帝天(1)
下皮義帝(1) 帝天(2) 歷先(3)
(1) 義帝 帝天 歷先 緇側 救緇 列息 袞扶 穀胡 穀袞 延舒 延慶 六子 檀張 廟

(1) 此二反原誤換、今正之。

(2) 原作「哲」誤。

(3) 原作「穀」、當誤。

(4) 原字難認、蓋是「一」之訛字。

(5) 原作「祥」誤。

(6) 原從「糸」、當是從「足」之誤。

(桑中)

(鶉之奔奔)

65

媛于倚琴(1) 沫之(2) 蒙弋羊葑妃鶉之殊奔々甫疆良已其居誤俱

(1) 原作「沫」。

(2) 此項當在「沫」之前。

(定之方中)

66

定帝方中為狄(1) 歷田漕在攘(2) 羊而于熒局(3) 廬力揆 發準極力

(1) 此下當有「中」字之音注。原此下有「作」、蓋「章」定之方中、作于楚宮之「作」誤書於此、此係序文不當有、故刪之。

(2) 原脫此字、今補。

(3) 此上原有誤寫之字、字旁加三点以標之。今刪。

67

榛側椅(1) 英染此(2) 虛起夾皆蠶在(3) 誅水信瓜說東稼稽山昧

(1) 原作明母「莫」、与影母「椅」不合、故訂「一」。

(2) 阮本积文俱作「漆」。

(3) 原從「金」、當非。积文作「儻」、云「又作一」。

(蟻蜋)

(相鼠)(干旄)

68

郎牝蟻計(1) 蟻都(2) 動虹臍箋不過垂子勁旄莫浚須之旃然

(1) 原「丁」作「都」、「都」作「丁」。「都」一等、「蟻」四等。「丁」四等、「蟻」一等。此卷切語中以一等字切四等字、或以四等字切一等字之例少見、「都」「丁」當是誤換者。

(2) 此下當有音注。

69 純類生并(1) 至銜昇至(2) 旃羊組宗驂馬南旌將析歷先祝毛之六鄭當(3) 作歸(載馳)

- (1) 原作「卑」、当非。
- (2) 阮本积文俱作「旃」。
- (3) 「當作」原誤倒、今正之。

70 唁迎(1) 變跋蒲不闕兵(1) 翼庾麻以療零穉直一槩剛(2) 尅愛雄控于送苦

- (1) 原作溪母「丘」、与幫母「闕」不合、故訂「一」。
- (2) 原作見母「告」、此処「控」当是溪母、故訂「一」。

71 求援于(1) 衛淇澳第五(1) 澳衣入相息(2) 綠力猗(2) 宜英限回王(3) 荔(洪奥)

- (1) 阮本积文俱作「奥」。「一」恐是涉「淇」而誤者、暫仍之。
- (2) 原從「彡」誤。
- (3) 阮本积文俱作「荔」。

72 窓蕭疋(1) 匪數(2) 尾采瑟乙生(3) 憫下喧暉(4) 玲京水良側(4) 謖况瑋(4) 璠息瑩

- (1) 积文同、阮本作「篇」。
- (2) 阮本积文俱作「磔」。
- (3) 阮本积文俱作「喧」。
- (4) 阮本作「莊」。

73 為(1) 兄(1) 會(1) 古(1) 弁(1) 變縫扶(1) 用(1) 璫(1) 各(1) 簀(1) 爭(1) 綽(1) 昌(1) 猗(1) 英(1) 綺(1) 重(1) 直(1) 戲(1) 寄(1) 較(1) 瓜(1) 諠(1)

- (1) 阮本积文俱從「白」。
- (2) 积文同、阮本作「倚」。
- (3) 原作明母「莫」、与影母「猗」不合、故訂「一」。
- (4) 此項当在「戲」之前、暫仍之。

74 約(1) 香(2) 施(2) 考盤(2) 安(2) 蒲(2) 過(2) 苦(2) 軸(2) 田(2) 歷(2) 古(2) 於(2) 嬖(2) 詣(2) 其(2) 頤(2) 勲(2) 衣(2) 氣(2) 應(2) 婆(2) 迴(2)

- (1) 阮本积文俱作「榮」。
- (2) 阮本积文俱作「弛」。此下当有注。

75 檐昌(1)
廉佼(1)
卯皆(1)
禪當(2)
寒太(2)
湯著(2)
慮張(2)
柔第(3)
田(3)
膚于(4)
凝脂(4)
水宜(5)
螭(5)
勞在(6)
齋(6)

- (1) 积文同、阮本作「後」。
(2) 阮本积文俱作「大」。
(3) 阮本积文俱作「莫」。
(4) 原從「彡」非。
(5) 原作章母「旨」、与疑母「凝」不合、故訂「一」。
(6) 阮本作「螭」。

76 疾(1)
頸祇形反(1)
蝸割何(1)
瓠犀(1)
星(1)
辯(1)
芑(1)
芑(2)

- (1) 阮本积文俱作「辯」。
(2) 以下与 77 行「說于」至 78 行「敷」重複、今刪之。

77 蟻(1)
首(1)
慈首(1)
頽僧謂(1)
蜻(1)
七倩清(1)
口輔(1)
房(1)
盼普(2)
說于(2)
毛束銳(2)
鄭當(2)

- (1) 原作「湊」誤。
(2) 阮本同、积文作「盼」。

78 驕(1)
卿方(2)
鑣數(3)
狄第(4)
勿方(4)
扇汗(4)
且何(5)
葵并(5)
後罷(5)
買彭(5)
朝直(5)
洋(5)
良以(5)

- (1) 原作疑母「御」、与溪母「驕」不合、故訂「一」。
(2) 原作「憤」誤。此項当在「鑣」之前、暫仍之。
(3) 阮本作「翟」。
(4) 原作「第」誤。
(5) 阮本作「蔽」。

- (5) 阮本作「蔽」。

79 活(1)
古(1)
晟工(1)
藏(1)
火(1)
鱣張(1)
連鮪(1)
榮發(1)
補(1)
葭皆(1)
莢湯(1)
揭(1)
巾(1)
夔(1)
迎有(2)

- (1) 原作四等群母「覺」、与三等匣母「鮪」不合、当是「一」之誤。
(2) 阮本作「孽」、积文作「孽」。

80 竭(1)
起郎(2)
謁(2)
各(2)
瓦(2)
武壯(3)
側(3)
恨(3)
庾(3)
妃普(4)
背(4)
綯(4)
五(4)
洸(4)
盈(4)
虫(4)
之尺(5)
布貿(5)
莫(5)
候我(5)
愆(5)

- (1) 原作精母「即」、与来母「銘」不合、故訂「一」。
(2) 原作並母「凡」、与疑母「訖」不合、故訂「一」。
(3) 原作「杜」誤。
(4) 原作「泯」誤。

- (5) 阮本同、积文作「佚」。

81

綺將子坵京垣于復步泣涕天連々延力爾筮成咎其著式
(1)焉將良坵毀垣煩茂步泣涕禮連々延力爾筮世咎其著
(2) (3) (4) (5) (6) 脂沃威

(1) 原似「鳥」，當是「一」。

(2) 原字或疑是「穀」、「一」、「穀」音同。

(3) 原從「彳」誤。

(4) 參看影片63行「步」與84行15行「涉」之字体。

(5) 原字從「竹」。

(6) 阮本積文俱作「漣」。

82

甚飢南鵲鳩忽隕閭湯々失漸廉帷悲榮童鍾爽丈山裕鍾庾罔極其
(1) (2) (3) (4)

(1) 原作「其」誤。

(2) 原作匣母四等「榮」、與匣母三等「帷」不合，故訂「一」。

(3) 此項當在「爽」之前，暫仍之。

(4) 原作見母「庚」、與羊母「裕」不合，故訂「一」。

(竹竿)

83

朝遙至喜泮拘恭綰祖宴翳晏々厄懇肯側欵管簞々歷釣叫丁
(1) (2) (3) (4)

(1) 原從「木」誤。

(2) 原作麥韻「厄」、與霰韻「宴」不合，故訂「一」。

(3) 原作見母「見」、與影母「晏」不合，故訂「一」。

(4) 原作「蠻」誤。

(芫蘭)

84

殺例雛乃檜古楫慈權根孝丸胡懂徒觴傑悸季瑞悲驪尸言杏
(1) (2)

(1) 阮本積文俱作「芫」、積文「本亦作一」。

(2) 阮本積文俱作「童」。

85

苔韓古瓜狎徐沆之恒狹行跂輕竭兮認傑歌交純軫忍戟京箇
(1) (2) (3) (4)

(河廣)

(伯兮)

(1) 阮本積文俱作「疆」。

(2) 阮本積文俱作「杭」。

(3) 阮本積文俱作「桀」。

(4) 「一」見母一等、「傑」群母三等、疑「一」当有誤、今暫仍之。下字「傑」与「傑」同音、恐「一」或是「音」之誤、存疑。此項不載音注總表。

(有狐) (木瓜)

86 由從牙莫適丁杲⁽¹⁾剛甘厭因得設袁背蒲癰代則殺例綏息瓊營

(1) 原誤作「果」、右旁以小字書「一」而訂之。

87 玖音久苴子橘規抽盈 王黍離第六 卷四

(黍離)

88 仿惶蒲鎬恒靡⁽¹⁾苗搖招稱旻武穗句醉噎翳于時之成畜香產生恬

(君子于役)

(1) 阮本积文俱作「彷徨」。
(2) 积本同、阮本作「堪」。

(君子陽陽)

89 括胡桀⁽¹⁾括括古杙力羊簧光陶⁽²⁾招翺高靈徒翳宴屯戍東激歷湍官

(揚之水)

(1) 原作「傑」、則「傑」「桀」「奇」同為群母、字当有誤。今闕之。
(2) 阮本同、积文作「籛」、云「俗作」。

(中谷有蓷)

90 迅須彼其居忌箋⁽¹⁾予還句有推土曠旱黑乾剛⁽³⁾崔章⁽⁴⁾居安女叱鄒慨肯嘆

(1) 原字上有「マ」、恐是「通」之訛体、今暫為「一」。

(2) 阮本积文俱作「薶」。

(3) 阮本积文俱作「離」、积文「爾雅又作」。
(4) 「一」一等、「菸」三等、疑是「衣」或「央」之誤。暫仍之。

(兔爰)

91 干脩息流反礼謂⁽¹⁾脩⁽²⁾癸⁽³⁾菟爰于構古不樂⁽⁴⁾五躁⁽⁵⁾祖蹙六訛戈五罕蒲疊容

(1) 原作「癸」誤。

(2) 阮本积文俱作「兔」。

(3) 阮本同。积文作「操」、云「今作」与定本異与箋義合」。

(4) 原「威足」誤為二字。

(5) 阮本积文俱作「叱」、积文「本亦作」。

〔葛藟〕

92 罍拘藟力(1) 澍荒遠于(1) 顧工浹(1) 繩王又無(2) 又或誤(2) 潛純隙險人昆(2) 采

〔采葛〕

- (1) 阮本作「顧」。
- (2) 积文同、阮本作「濂」。

〔大車〕

93 蕭星檻(1) 下(2) 蠶昌葵湯(3) 鵠章維(4) 績(5) 憤(6) 吟(7) 土(8) 瑞莫昆(9) 反(10) 說文云瑞經色禾之

- (1) 原作「盈」、今拠說文訂「一」。

〔丘中有麻〕

94 瑞經勑(1) 了經(2) 有麻堯(3) 客堯(4) 施式(5) 伺息(6) 閑(7) 下(8) 鄭縑衣第七

- (1) 阮本作「頤」、积文作「頤」。
- (2) 阮本积文俱作「敵」、积文「本亦作一」。
- (3) 此下当有音注。
- (4) 原從「𠂔」誤。
- (5) 积文同、阮本作「間」。
- (6) 原作「續」誤。

〔縑衣〕

95 縑側(1) 弊予(2) 扶館(3) 乱(4) 采(5) 餐蘇(6) 温(7) 受采(8) 代飲(9) 英食(10) 詳(11) 好(12) 黑(13) 改

- (1) 阮本积文俱作「敵」、积文「本又作一」。

- (2) 原此下抹「脾」三字、蓋是涉上文「側」而書誤者。今刪之。
- (3) 阮本同、积文作「食」。
- (4) 原作「愛」誤。
- (5) 原作船母「食」、与清母「采」不合、故訂「一」。

〔将仲子〕

96 造(1) 才(2) 席(3) 詳(4) 將七(5) 不勝(6) 商(7) 叔(8) 祝(9) 例(10) 驟(11) 土(12) 段(13) 同(14) 折(15) 章(16) 樹

- (1) 此処字体參看40行68行117行「才」字。
- (2) 阮本积文俱作「席」。
- (3) 原此上有「好」、蓋誤写「一」而衍者、今刪之。
- (4) 原作影母「乙」、与清母「将」不合、故訂「一」。
- (5) 原作「榮」誤。
- (6) 此項当在次行「檀」之前、暫仍之。
- (7) 原似透母「土」、与崇母「驟」不合、故訂「一」。
- (8) 原從「𠂔」、蓋涉下文「折」而誤者。

97 杞羌唐疆忍而繕成鎧肯淘太蓋乘證藪走蘇檀唐
(叔于田) (大叔于田)

- (1) 积文同、阮本作「覲」。
(2) 此下有音注。
(3) 阮本积文俱作「大」。此項当在「洵」之前、暫仍之。

98 楊先補將七犴掣夾皆射忌居磬啓控送苦騁勒發方乘
歷搏各羊丑掣洽射忌意磬定啓控送苦騁勒發方乘
(1)
原作「乙」誤。

99 鵠補驪白馳嫚盲癡罕黑釋棚憑抑鬯亮發高竟影
補驪白馳嫚盲癡罕黑釋棚憑抑鬯亮發高竟影
(1)
(2)
(3)

(清人)

- (1) 积文同、阮本作「慢」。
(2) 此處原有「親」、字右加三点以抹之、今刪。
(3) 原作見母「景」、則与「竟」「巾」同母、故訂「」。

100 翺五翔辭旁八率律二矛侯英厄廐驕喬妖累荷多恒
翺五翔辭旁八率律二矛侯英厄廐驕喬妖累荷多恒
(1)
(2)
(3)

- (1) 阮本作「帥」。
(2) 原從「丰」、当誤。
(3) 原作「何」、当誤。

(羔裘)

(遵大路)

101 矜奇在軸直陶唐抽流濡辱晏翳見摻執斬祛據起
矜奇在軸直陶唐抽流濡辱晏翳見摻執斬祛據起
(1)

- (1) 原似從「木」誤。

(女曰鷄鳴)

102 摻攬敢快世惠汪寔感我醜昌好黑相警中燭
摻攬敢快世惠汪寔感我醜昌好黑相警中燭
(1)
(2)
(3)
(4)
(5)

- (1) 阮本积文俱作「摻」。
(2) 原似漾韻「放」、与審韻「惡」不合、故訂「」。
(3) 「醜」积文云「市由反……鄭音為醜」、廣韻亦有尤韻常母(相當於积文市由反)有韻昌母(相當於积文音醜)二音。「」尤韻字、但上字「昌」為昌母、疑「」或為有韻「酉」之誤。今暫仍之。
(4) 原作幫母「布」、与見母「警」不合、故訂「」。

(5) 积文同、阮本作「爛」。

103 郎(1) 旦弋(2) 羊(3) 鳧旁(2) 于繳之(3) 肴行徹直珩下(3) 庚(2) 璜(3) 胡(4) 瑀(4) 光(4) 瑀(4)

(1) 原作「戈」誤。

(2) 阮本同、积文作「繁」、云「本亦作一」。

(3) 此上原有「希行」、「希」蓋是誤書「肴」者、今刪之。

(4) 此処先誤書一字(金子氏云「恐是「洗」」、其右以小字書「一」訂之。

(有女同車)

(山有扶蘇)

104 姜(1) 瑀(2) 云儲(2) 余(2) 請妻(2) 細千(2) 堇(2) 基(2) 將(2) 七(2) 蘇(2) 桑(2) 荷(2) 恒(2) 夫(2) 旁(2) 于(2)

(1) 原似「力」或似「刀」(金子氏云「是「力」」、蓋是「反」之誤。存疑。

(2) 阮本积文俱作「謹」。

(3) 原作清母三等「妾」、与心母一等「蘇」不合、故訂「一」。

(4) 阮本积文俱作「扶」。

(擇分)

105 渠(1) 居(2) 其(2) 胡(2) 感(2) 狂(2) 且(2) 余(2) 橋(2) 奇(2) 妖(2) 狡(2) 皆(2) 擗(2) 洛(2) 湯(2) 倡(2) 尺(2) 而(2) 和(2) 胡(2)

(1) 积文同、阮本作「喬」。

(2) 原作羊母「赤」、与群母「橋」不合、故訂「一」。

(3) 原作唐韻「昂」、与巧韻「狡」不合、故訂「一」。

(4) 原從「」誤。

(校童)

(褰裳)

(丰)

106 稿(1) 老其(1) 漂遙(1) 篇(1) 擅(1) 戰(1) 壯(1) 側(1) 餐(1) 采(1) 丹(1) 褻(1) 恣(1) 利(1) 行(1) 孟(1) 漆(1) 側(1) 洧(1) 榮(1) 丰(1) 敷(1)

(1) 原似「藁」。

(2) 此下当有音注。

(東門之墀)

(風雨)

107 堂(1) 毛(1) 郎(1) 鄭(1) 當(1) 町(1) 天(1) 茅(1) 蒙(1) 菟(1) 色(1) 流(1) 踐(1) 淺(1) 噉(1) 唐(1) 淒(1) 兮(1) 嗒(1) 更(1) 蒲(1)

(1) 原似「塌」、廣韻無此字、恐字有誤。按毛傳云「踐淺也」、疑此項「淺」非是反切下字、而是訓義也。此項不載音注總表。

(2) 阮本积文俱作「陷」、积文「本又作啖亦作一」。

(子衿)

108

彫膠皆(1)着膠(2)流勒(3)晦呼(2)奇學校(2)行衣純尹(2)瑞辱(2)充綬(2)石挑(2)土達(2)

(1) 原作暗韻「老」、与看韻「膠」不合、故訂「」。[「膠」廣韻又在去声效韻、亦有訂「孝」之可能。但此處「膠」与平声「瀟」[「膠」押韻、当讀為平声看韻。

(2) 阮本同、积文作「硬」、云「本又作」。

(3) 原作元韻「元」、与獮韻「瑞」不合、故訂「」。

(揚之水)(出其東門)

(野有蔓草)

109

割湯(1)終鮮(1)淺息(1)子亶(1)亡縞(1)剛綦(2)求(2)枯(2)救我(3)員(3)音閭(3)伊闕(3)毛常(3)奢(3)蔓草(3)

(1) 原作溪母「渴」、与舌音「達」不合、故訂「」。

(2) 阮本作「畜」。

(3) 此項当在「情」之前、暫仍之。

(溱洧)

110

亡溱(1)桓徒(1)婉威(1)邂行(1)逅(1)遘(1)攘(1)而(1)渙(1)呼(1)蘭(1)聲(1)訐(1)于(1)瀏(1)力(1)誼(1)求(1)

(1) 阮本同、积文作「遘」、云「本亦作」。

(2) 原作「許」誤。

(3) 阮本积文俱作「廷」。此揚之水一章字、当在前行「子」之前、暫仍之。

(4) 原似群母「狂」、則与「誼」「求」同是群母、故訂「」。

(鷄鳴)

111

齊鷄鳴第八(2)

夜警(3)纒(3)生(4)同(4)夢(4)風(4)亡(4)且(4)明(4)為(4)且(4)野(4)反(4)或(4)誤(4)會(4)

(1) 原脱此字、当補。

(2) 此處原有「姜」、疑「卷五」之訛、或疑下文「警」之反切上字誤写於此、今刪之。

(3) 此字恐是「姜」、存疑。

(4) 原作「周」非。

(還)

112

且(1)七野(1)徐(1)予(1)毛(1)以(1)吕(1)反(1)朝(1)會(1)張(1)遙(1)於(1)夫(1)旁(1)還(1)松(1)豚(1)艷(1)好(1)如(1)於(1)猛(1)乃(1)捷(1)慈(1)並(1)排(1)

(1) 原似「羽」、不詳何意。

(2) 阮本作「乎」。

118

119

120

(2) ? ? (1)

射
夜食
出
正
成之選
須毛
掾須
反兂 (3)
鄉
貫

- (1) 原似「七」、存疑。
(2) 疑是「祥」、存疑。
(3) 原作元韻「元」、与獨韻「選」不合、故訂「一」。

(葛腰)

- 122 偏并狹行隘厄巧苦趨促齋
(1) 徧淺夾賅買厄巧苦趨促齋

- (1) 阮本积文俱作「限」、积文「本或作」。
(2) 原作從母「從」、「趨」积文「七須反徐七喻反」、廣韻「七逾切」、俱為清母、故訂「一」。

- 123 要因襟色京提々田宛阮辟房帝天
(1) 逢淺京提々田宛阮辟房帝天

(汾沮洳)

- 124 其姜耗莫盾損徒行胡賣詳葛石息昭
(1) 其姜耗莫盾損徒行胡賣詳葛石息昭
(2) 其姜耗莫盾損徒行胡賣詳葛石息昭
(3) 其姜耗莫盾損徒行胡賣詳葛石息昭
(4) 其姜耗莫盾損徒行胡賣詳葛石息昭
(5) 其姜耗莫盾損徒行胡賣詳葛石息昭

- (1) 「其」字為「彼其」之「其」。按90行「彼其」之「其」音「居忌」、此字疑是「忌」或「意」、今暫存疑。
(2) 原作「遁」。箋文此上有「趙」、「遁」蓋是涉「趙」而誤者。
(3) 原從「一」、當誤。
(4) 阮本积文俱作「曷」。
(5) 原作「照」、當誤。

(陟岵)

(十畝之間)

(伐檀)

- 125 古旃然己羌間々下艱徐泄々羊坎
(1) 古旃然己羌間々下艱徐泄々羊坎

- 126 餐采輻甫億力淪洵丘素飧
(1) 餐采輻甫億力淪洵丘素飧

(碩鼠)

- 127 咏為號胡
(1) 咏為號胡
(2) 刀胡
(3) 唐蟋蟀第十

- (1) 以积文補。阮本作「永」、积文「本亦作永」。

- (2) 原作震韻「刃」、与豪韻「號」不合、故訂「」。
 (3) 原作「蟬」誤。

(蟋蟀)

(山有樞)

128

其居已瞿_具 蒸
 蹶_具 京
 衛_具 陷
 高_具 土
 樞_具 烏
 洒_具

129

- (1) 以阮本积文補、积文「本亦作苑」。

苑⁽¹⁾ 威
 愉 毛
 容
 朱
 拷
 ?
 扭
 掣
 穩
 於
 埽
 ? 素

二 音 注 総 表

表 例

1. S.2729 残巻に含まれる音注（反切及び直音その他）を、切韻方言の音韻体系に従って作った表の中に配置して示す。これは、切韻方言の音韻体系と本残巻反切の反映する方言の音韻体系との一致やずれの状況をしらべるための作業であるが、結果的にみて両者は一致共通する点が基が多いので、概略的には本残巻反切の音韻体系による声韻別の反切一覧表として利用することができる。

2. 表の枠どりは次の如くである。

2. 1 横欄には、切韻方言の韻母を、平、上、去、入の相配関係によってその順に並べる。

2. 2 縦欄には、切韻方言の声母を並べる。重紐A～Bの区別は韻母によらず、声母をあらわす字母にA、Bの小字を附して示す。声母組の排列順序は、韻母が拗音類の場合には、伝統的な順序を大巾に変更してある。帰字声母の異なるにつれて下字が替ってゆく状況を見やすくするためである。

3. 各表の排列順序は、韻母類に従い、Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、A・B・AB、Cの順とする。各類内部の順は「攝」、開・合、韻目の順による。蒸開、職開韻はB類とC類に分属するのであるが、本表では一表にまとめて、A・B・AB類のおわりに置く。

4. 表に反切を配置する際の原則は次の如くである。

4. 1 反切は上字、下字、（一格あけて）帰字の順で掲げ、その反切（上字および下字）があらわれる原文の行数を、帰字のあとに数字で記す。帰字が2つ以上並んでいるのは、上字、下字が共通で帰字だけが異なる反切の場合である。

4. 2 反切の文字はすべて校録文に掲げたものに拠る。（印刷の都合

で字体に若干差異を生じた場合がある)。但し、**□ □** の枠中に文字や・?を含む場合はその枠を省略し、それらを含まぬ場合はその枠を保存する(**□** は **□** に併せる)。

4.3 表中に反切を配置する場所は、帛字の音が切韻方言の音韻体系において占める位置に従う。その位置は廣韻反切にもとづいて知る。

4.4 4.3の原則に従い反切を配置する際に、上字声母や下字韻母が帛字の置かれる位置の示す声母や韻母に一致しない場合が、ときに生じてくる。このような場合、欄外にその旨を註記する。上記の如き不一致は、切韻方言の音韻体系と本残卷反切の反映する音韻体系とのずれ、例外的構成をもつ反切の存在、という2種の原因から主に生じている。唇音字に關聯して起る開・合の不一致は註記しない。

4.5 次の場合には4.3の原則に従がわない。帛字の切韻音と、上字声母あるいは下字韻母とが一致せず、しかもその原因が上記2種によるのでない場合がある。例えば「総」(廣韻「總」に作る)の切韻音は /tsaŋ 上/ (上声董韻精母) であるが、本残卷ではそれに対し3度まで「祖工」という反切を注している。「工」は /kaŋ 平/ (平声東韻工類見母) であるから、帛字と下字とは声調が一致しない。しかしこれを以て本残卷反切の反映する音韻体系で平声と上声の間に混乱が生じていたとするのは、音韻史的にみて甚だ無理といわねばならない。また、反切構成の例外性によると見ることもできない。この反切のあらわす音は、切韻方言の音韻体系に投影して見ても、帛字の廣韻反切が示すとは異なる /tsaŋ 平/ であったと考えざるをえない。このようなケースに該当する反切は少くないが、それらは、協韻(他の押韻字と韻を合せる)のための読みかえ、意味上他の文字に仮借されたものとして解釈されるのに伴う読みかえ、という2つの事情から説明できるものが多く、その他は、切韻方言と本残卷反切の反映する方言との間の、文字の個別的な読音の違いであった、として理解されるものと見なしうるであろう。これらの場合には、本残卷反切があらわしたと思われる音に従って、反切の位

置を決定する。それに関しとくに問題があるときは欄外に註記する。歸字の左上に°印をつけて、その位置が廣韻反切が示すとは異なることを標示する。一々の場合について異読の行なわれた原因に関する考証を記すことは省く。

5. 直音その他の音注を配置する方針も、反切の場合に倣う。これらは〔 〕に入れて反切と区別する。

6. 本残巻が「徐」と称して引く徐邈「毛詩音」の反切および直音は、用字を替えずにそのまま引いたと思われる（本論参照）ので、行数をあらわす数字の後に「徐」と記して区別する。

7. 該当する表のない韻は、平・上・去・入の各声調にわたって音注例が一つも見出されないものである。

I 類

通 攝

韻母 声母	東	董	送	屋
並				蒲卜 樸 30
端 定	徒東 僅 19 徒冬(1) °懂 84	都動 蝨 68		
精 從 心	祖工 °總 27 32 61 從 33 存東 藪 6	祖動 總 83		蘇木 棟 30
溪 匣			苦送 控 70 98	胡穀 穀 64

(1) 「冬」廣韻在冬韻。

	冬		宋	沃
定	徒冬 彤 57			
見				古篤 告 7 74

遇 攝

	模	姥	暮
幫 並 明			本故 圃 ¹¹⁴ 蓬故 捕 ⁴⁸ 謨布 °莫 ¹¹⁴
端 定	東胡 闍 ¹⁰⁹ 同都 瘡 ¹⁰ 荼 ⁴⁷		東路 妬 ¹⁰
精 心	桑胡 蘇 ¹⁰⁴	宗戶 組 ^{51 69}	
見 影 曉 匣	工胡 眾 ⁷⁹ 汪姑 汙 ⁷ 洪姑 壺 ¹¹³	工戶 罍 ¹³ °願 ³⁸ 賈 ⁴⁸ °頤 ⁹² 荒古 潯 ⁹² 洪古 謁 ¹²⁵	汪故 惡 ^{30 102}

蟹 攝

	哈開	海開	代開
定		唐改 迨 46	唐愛 逮 10 34 °棣 32
来	郎才 駭 68		
清 從	倉才 偲 117 [財] 裁 47		倉代 °采 95
見 溪	肯来 ° 閭 120	康改 凱 41 豈 120	剛慨 漑 19 剛愛 槩 70 肯代 欬 39 嘅 90 鎧 97

			秦開
透			湯蓋 太 97
匣			何蓋 害 54 60

	仄合	賄合	隊合
滂 並 明	木杯 枚 16 木来 鋤 117	莫罪 洩 59	普背 妃 80 蒲輩 背 86 蒙誨 昧 61 °沫 65 莫代 痲 86
端 透	都雷 敦 55 土雷 推 90		
来	盧回 疊 10 靄 28		
精 清 從	祖回 催 56 存雷 崔 9 °催 55	念罪 °酒 59	
見 影 曉 匣	烏回 猥 71		古續 憤 35 呼憤 晦 108 胡憤 續 31 93 潰 49

			泰合
透			通外 °脫 81
精			祖會 寂 63
見			古外 會 73

臻 攝

	痕 開	很 開	恨 開	沒 開
溪		肯很 懇 83		

	魂 合	混 合	慁 合	沒 合
幫 明	甫門 奔 65 莫昆 璫 93	甫袞 脊 9		
端 透 定	都溫 敦 55 土孫 享 93 徒論 純 31	徒損 盾 124		
心	蘇溫 °餐 95			
見 曉	古門 昆 92 鰥 116 呼溫 閏 52			古忽 鶻 82

山 攝

	寒 開	旱 開	翰 開	曷 開
端 透 定 泥	當寒 禪 75 湯丹 歎 54 他干 嘆 91 唐丹 檀 97	唐旱 檀 97	當捍 旦 111 乃旦 難 13	當達 恒 117 湯割 達 109 闕 113
來			郎旦 孃 103	
清 心	采安 °榮 95 采丹 餐 106 126	桑旱 散 52		
見 曉 匣	剛寒 干 13 乾 90	黑旱 嘆 90 罕 99	恒旦 扞 13 何旦 汗 78	何割 °害 8 54 60 竭 76

	桓 合	緩 合	換 合	末 合
幫 滂 並 明	蒲安 盤 74		普半 泮 46 蒲半 °泮 83	蒲末 °發 79 蒲末 茂 25 軟 53 蒲括 跋 70 莫撥 林 16
端 透 定	吐官 湍 89 徒丸 搏 6 徒桓 搏 110		都乱 斷 14 通乱 祿 8 °綠 35 同乱 段 96	東活 掇 14
來				盧括 捋 14
清			忿乱 纛 20	
見 溪 曉 匣	胡官 丸 84	苦管 款 83 胡管 潁 5	古乱 價 5 館 95 呼乱 渙 110	古活 活 79 檜 84 括 89 火活 濊 79 胡括 估 89

効 攝

	豪	皓	号
幫 明	莫褒 施 50 68 莫高 髦 61 耗 124	補道 鴛 99	莫報 芑 4 冒 38
端 透 定 泥	當勞 忉 116 土高 攷 99 挑 108 滔 120 慆 128 徒高 翻 89 乃高 狷 112		唐到 °道 30 悼 39 陶 101 徒到 蘊 89
來		郎道 潦 22	郎到 勞 10
精 從 心	才勞 漕 40 在勞 漕 66 °螭 75 素勞 搔 57	祖老 藻 22 前考 皂 5 才老 造 96 桑老 掃 62	祖到 躁 91 素□ 埽 129
見 溪 疑 曉 匣	五高 翺 100 胡刀 號 127	剛老 杲 86 苦老 °橋 105 槁 106 呼老 好 42 黑老 好 95 102 〔如字〕 好 112 恒老 鎬 87	剛到 縞 109 五到 °敖 39 □到 好 3 胡到 號 113

果 攝

	歌 開	寄 開	箇 開
透	〔他〕 它 61		湯賀 °太 75
定	唐何 俺 27 沱 29		
泥	它 63	乃可 °攤 84	
精			宰賀 左 4
清	采何 嗟 63 72		
匣	恒多 荷 100 104		

	戈 合	果 合	過 合
幫			補佐 播 118
並	蒲何 瞞 19		
定		徒果 墮 28	
心		蘇火 環 50	
溪	苦戈 邁 74		
疑	五戈 訛 91		
匣			胡卧 和 105

宕 攝

	唐開	蕩開	宕開	鐸開
透 定	太郎 °鐸 40 大當 棠 24 大郎 堂 107	太朗 °蕩 115		湯洛 鐸 105 唐洛 度 34
來				郎各 樂 42 120 °璫 73 絡 8
精 心	宰郎 臧 43	僧朗 賴 77	僧浪 喪 40	
疑 匣	我剛 °仰 46 恒剛 行 9 沈 85 恒郎 亢 37 胡剛 行 124			

	唐合	蕩合	宕合	鐸合
幫 滂 並	普黃 旁 56 蒲光 仿 88			補各 搏 98 蒲作 薄 118
見 溪 匣	剛黃 沈 49 胡光 簧 89 璜 103			苦郭 鞞 119 胡郭 濩 6 穫 116

流 攝

	侯	厚	候
明		莫厚 牡 45	莫候 質 80
透	湯侯 偷 50		
心		蘇走 藪 97	
見	古侯 購 85	古厚 筍 118	古豆 觀 20 葦 62
疑		五口 耦 3 80	構 91
影	烏侯 樞 128		
匣			胡遯 逅 110

曾 攝

	登開	等開	嶢開	德開
並				蒲北 匐 48
從	才登 曾 38			
心				桑則 塞 39

咸 攝

	覃	感	勘	合
端 定	都南 耽 82 〔覃〕 覃 5	徒感 寢 60		徒苔 沓 85
精 清 從	采南 瞢 69 在 南 蠟 67	祖感 寢 102		
見 匣		古統(1) 感 31 胡感 齒 105		

(1) 「統」敢韻字、參看校錄文註。

	談	敢	闕	盍
端 透 定		當敢 統 7 當□ 統 113 湯敢 葵 79 93 唐敢 嗽 107		
來		郎敢 攪 102		

II 類

江 攝

	江	講	絳	覺
明	萌邦 彪 31			
知 澄				竹角 稼 12 憧角 濁 47 117
生				雙捉 數 43
見 影 匣	懷江 降 21			瓜岳 較 73 瓜□ 桄 26 泓角 渥 51

蟹 攝

	佳 開	蟹 開	卦 開
並		彭買 罷 78	
疑 影 匣	顏佳 涯 22	厄買 °陰 122	厄賣 陰 59 行懈 遯 110

	皆 開	駭 開	怪 開
明	孟皆 霾 59		
莊	側皆 齋 24		
見	更諧 咍 6 107 借 62 ? 諧 借 41		

			夬 開
幫			布邁 敗 25

	皆 合	駭 合	怪 合
澄	濁懷 °隕 9		
曉	化懷 虺 9		

山 攝

	刪 開	潯 開	諫 開	鎋 開
明			盲辨(1) 嫚 99	
見 影 匣		下板 個 72	皆晏 潤 19 厄諫 晏 83	行瞎 掌 53

(1) 「辨」禡韻字。

	山 開	產 開	禡 開	黠 開
滂 並			普寬 盼 77 彭寬 癖 76	彭八 拔 25
生		生駸 產 88		
見 匣	皆蠻(1) 崩 110 下娘 °間 3 開 94 125	皆限 葡 51	皆寬 開 36	庚八 結 18

(1) 「蠻」刪韻字。

	刪 合	潯 合	諫 合	鎋 合
見 疑 匣		華板 曉 42	瓜患 信 67 𪛗 117 瓦患 𪛗 80	

	山 合	產 合	禡 合	黠 合
見	瓜頑(1) 鰥 12 118			

(1) 「頑」廣韵在刪韻，完本王韻在山韻。

効 攝

	肴	巧	效
並 明	彭交 °胞 52 蒙交 茅 107	萌飽 昂 29	
澄			根孝 濯 5 19 權 84
見 溪 疑 匣	皆肴 膠 108 客交 曉 94 行交 肴 103	皆卯 佼 75 皆昂 狡 105	皆孝 覺 4 苦孝 巧 122 五孝 樂 91 行孝 校 108

假 攝

	麻開	馬開	禡開
幫	八杷 犯 33		
見 疑 匣	皆遐 薛 33 皆牙 薛 79 皆? 珈 62 行家 瑕 54		皆訝 假 45 顏嫁 訝 18 行嫁 暇 28 下 59

梗 攝

	庚 開	梗 開	映 開	陌 開
幫 滂 明	八耕 ⁽¹⁾ °旁 ⁽¹⁾ ₁₀₀ 派彭 烹 ₂₃ 麻庚 蟲 ₇₀			
澄	宅庚 °堂 ₁₀₇			
匣	下庚 珩 ₁₀₃ 衡 ₁₁₅		下孟 行 ₁₀₆	

(1) 「旁」唐韻字，此處義與「騖」通，故讀庚韻。但下字「耕」是耕韻字。

	耕 開	耿 開	諍 開	麥 開
並 明	麻庚 ⁽²⁾ 氓 ₈₀	排梗 ⁽¹⁾ °並 ⁽¹⁾ ₁₁₂		
知 澄 莊	竹耕 °打 ₁₃			根革 °謫 ₅₅ 謫 ₁₁₄ 爭革 簪 ₇₃
影 匣	厄耕 °英 ⁽³⁾ ₂₇ 100 下耕 莖 ₄₇			晏革 搯 ₁₁₅

(1) 「並」迴韻Ⅳ類字，此處義與「儚」通，故讀耿韻。但下字「梗」是梗韻字。

(2) 「庚」庚韻字。

(3) 「英」庚韻B類字，此處讀音與《說文》所引沈重音「於耕反」相合，故置於此。

	庚 合	梗 合	映 合	陌 合
見 匣	瓜宏(1) 鱗 ₁₀ [橫] °衡 ₁₁₅ 徐			

(1) 「宏」耕韻字。

	耕 合	耿 合	諍 合	麥 合
匣	懷泓 紘 ₇			

咸 攝

	咸	鹽	陷	洽
初 生		生斬 參 ₁₀₁		差洽 扱 ₁₄
見 匣				皆洽 夾 _{19 67} 98 行夾 狹 _{85 122}

	銜	檻	鑑	狎
生	生銜 參 ₆₉			
見 匣		下斬 ⁽¹⁾ 檻 ₉₃		瓜狎 甲 ₈₅ 胡甲 °甲 ₈₅ 餘

(1) 「斬」鹽韻字。

IV 類

蟹 攝

	齊 開	青 開	霽
幫 明		眠陞 °彌 58	補脂 嬖 36 74
端 透 定 泥	田兮 題 17 莢 58 °第 75 提 123	天礼 涕 37 81 庭礼 第 120 年礼 禰 53 °兩 119	丁計 蟻 68 天帝 締 64 123 廷帝 娣 18 庭帝 °驛 20 豔 64
來	零兮 黎 50		
精 清 從 心	即黎 齋 24 千兮 姜 5 淒 36 107 星兮 犀 76	箋礼 濟 119 千礼 泚 58 °瑤 63 前礼 齊 47	箋脂 濟 44 隣 63 千細 妻 104 前脂 °茨 62
見 溪 影	經兮 筭 62 牽兮 溪 19 燕兮 翳 43		宴計 噎 39 翳 89

	齊 合	青 合	霽 合
曉 匣	螢圭 携 56		血惠 噎 28

山 攝

	先開	銑開	霰開	屑開
幫 滂		疋珍 °篇 72	補見 °偏 55	
透 定		天典 °珍 59 廷典 珍 59	庭見 奠 23 廷見 °田 116	定結 姪 18 徒結 迭 35 挺結 迭 43
清 心			清見 倩 77 星見 先 23	星結 屑 48 63
見 溪 影 匣	經賢 狎 113 〔賢〕 °開 125 徐	 燕顯 宴 47 58 刑顯 眼 42	 翳見 燕 36 宴 83 °晏 101	經切 結 14 啓結 契 41 挈 113 翳結 噎 66 刑結 嶺 14 形結 韻 37

	先合	銑合	霰合	屑合
曉			血縣 °洵 41	

効 攝

	蕭	篠	嘯
端			丁叫 釣 83
來	零彫 聊 53		零弔 療 70
心 見	星彫 蕭 93 瀟 108	經了 皎 94	星弔 嘯 80

梗 攝

	青 開	迴 開	徑 開	錫 開
並	韓經 萍 ²²	韓冷 併 ¹¹³		
端 透 定 泥		天鼎 町 ¹⁰⁷	帝徑 定 ^{17 66}	丁歷 適 ⁸⁶ 天歷 趨 ²⁰ 窶 ⁸³ 田歷 翟 ⁵¹ 狄 ⁶⁶ °軸 ⁷⁴ 年歷 恣 ¹⁶
來	歷丁 苓 ^{8 53} 伶 ⁵¹ 令 ¹¹⁷			
清 心	七頸(1) 蜻 ⁷⁷			先歷 暫 ⁶⁴ 析 ^{69 116} 惕 ⁹⁸
見 溪 匣	雞形 涇 ⁴⁷ 稽經 鉗 ²³		啓定 馨 ⁹⁸	經歷 激 ^{37 89} 擊 ³⁹

(1) 「頸」清韻A類字。

	青 合	迴 合	徑 合	錫 合
溪 匣	玄局 熒 ⁶⁶	口迴 褰 ⁷⁴		

咸 攝

	添	忝	榛	帖
定		田玷 簞 ¹¹⁹		
精			祖念 僭 ³⁶	

A・B・AB類

止 攝

	支 開	紙 開	眞 開
幫 A 並 A 明 A	頻移 埤 55	并婢 俾 36 民婢 滂 44	方避 °蔽 24
溪 A			輕智 肢 85
章 書 羊	式支 施 13 式移 施 94 盈支 蚰 27	之是 只 11	征跋 賓 9 伎 44 盈跋 易 68 115 120 羊跋 施 5 盈跋 易 9
從			秦智 漬 45
澄	直離 池 37		
來	力馳 驪 99 119		
初 生	楚宜 差 3 37	生綺 絳 61 纒 111 生彼 絳 61	
群 B 影 B 曉 B	□宜 °岐 1 英宜 椅 67 猗 71	琴綺 綺 23 °倚 65 英綺 猗 73	歆寄 戲 73
並 B 明 B		苗彼 靡 88	皮義 被 15 19 崖 64

	脂 開	旨 開	至 開
幫 A 並 A			并至 界 52 69 頻至 紕 69
曉 A			喜至 °咍 83
章 書 常 羊	式脂 鵬 18 薈 81 石尸 °祁 20	商旨 矢 61	□二 攀 3 盈二 肄 16
精 從	疾尸 齋 76		即利 恣 106
徹 澄	勅梨 絳 5		直致 穉 70
見 B	巾師 飢 16		京器 覲 49
幫 B 並 B		扶鄰 仇 90	兵翼 轡 51 恣 53 閼 70

	支 合	紙 合	寘 合
曉 A	僕規 饑 ⁸⁴		
常	尚吹 捶 ¹¹⁹		純恚 瑞 ⁸⁴
見 B 溪 B 影 B 曉 B	京爲 嬌 ³⁶ 丘爲 虧 ³⁵ 英危 委 ^{27 63}	京毀 塊 ⁸¹ 兄委 燬 ¹⁷	

	脂 合	旨 合	至 合
群 A		堯癸 揆 ⁶⁶	其季 悻 ⁸⁴
章 船 日	章維 崔 ⁹⁰ 鵠 ⁹³ 辱隹 綏 ⁶¹	食水 °唯 ¹¹⁸	
精 心 邪	足綏 催 ¹¹⁵ 苟□ 綏 ¹¹ 息隹 綏 ⁸⁶		旬醉 °說 ⁷⁷ °穗 ⁸⁸
來	力隹 纍 ¹¹	力癸 藁 ¹¹ 力水 諫 ⁶⁷ 藁 ⁹²	
生			色類 率 ⁵⁰
群 B 匣 B	權追 遼 ¹³ 榮悲 帷 ⁸²	榮軌 鮪 ⁷⁹ 洧 ¹⁰⁶	

蟹 攝

	(祭 開平)		祭 開
幫 A 並 A 明 A			并袂 蔽 ⁴⁹ 孽 ⁷⁸ 脾袂 弊 ⁴⁰ 95 脾世 敝 ¹¹³ 民世 袂 ¹⁰²
疑 A			魚制 藝 ¹¹⁵
常 羊	成兮 ⁽¹⁾ 移 ³²		成世 筮 ⁸¹ 羊世 泄 ⁴³ 125 肄 ⁴⁹
莊 生			側例 °祭 ⁹⁶ 色例 °殺 ³⁰ 84 86
溪 B			卿例 憩 ²⁵ 揭 ⁴⁴

(1) 「移」廣韻在齊韻，由韻圖上之位置可知實為祭韻之平聲，故置此。下字「兮」齊韻Ⅳ類字。

			祭 合
昌 書 羊			昌稅 °龜 ⁹³ 束銳 說 ²⁵ 67 77 稅 ³¹ 稅 ⁵⁵ 容歲 叢 ⁴²
見 B			京衛 蹶 ¹²³

臻 攝

	眞 開臻開	軫 開	震 開	質 開櫛開
幫 A 並 A 明 A	并民 濱 22 脾賓 蘋 21	脾忍 牝 33 68 名忍 僂 46		
影 A	伊仁 閨 109			
章 書 日 羊	? 眞(1) 信 41	征忍 °振 12 之忍 贅 63 軫 85	而振 °忍 97	盈栗 洪 80
清 從 心	慈珍 °漆 77		息振 信 41 息吝 訊 43	此栗 漆 67 從七 緘 10 茨栗 蔌 62 息栗 膝 44
莊 生	側仁 葵 12 榛 52 67 臻 54 漆 106 生臻 詵 11			側乙 櫛 61 生乙 瑟 72
群 B	奇巾 矜 101			
明 B	武斌 緝 32 武巾 旻 88			

	眞合 諄合	軫合 準合	震合 稕合	質合 術合
見 A	規旬 均 18			規事 橘 87
章 船 常	食純 涓 92 殊脣 淳 52 鶉 65	朱尹 純 108		
精 心 邪	須旬 洵 58 松苟 循 21 紉 22		須俊 浚 42 68 迅 90	足恤 卒 39
来	律旬 綸 32 律洵 淪 126			
生				色律 率 100
見 B 溪 B 匣 B	几倫 麤 30 丘倫 困 126		榮閏 隕 82	

(前頁) (1) 此反与积文「毛音申」相当，「申」書母，故置此。

山 攝

	仙 開	獮 開	線 開	薛 開
幫 A 並 A	并綿 編 63	并淺 編 122		并減 𪔐 21 扶減 𪔐 118 徐
見 A 溪 A			輕戰 𪔐 46	勁列 𪔐 68
章 書 常 羊	之然 旃 68 125 舒延 °延 64 盈梅 綫 7		成戰 繕 97 擅 106	章設 折 96 114
精 從 心	息延 鮮 59	子淺 翦 25 息淺 鮮 59 109	慈箭 餞 53	息列 紐 64
知 澄	張連 鱸 79	張輦 展 4	張扇 襴 64	直列 徹 103
来	力延 連 81			
見 B 溪 B 群 B 疑 B	綺焉 愆 81		迎變 𪔐 70	巾竭 揭 79 京竭 𪔐 116 奇? 𪔐 89 迎竭 𪔐 79
並 B			皮變 弁 73	

	仙 合	獮 合	線 合	薛 合
見 A 曉 A	曉緣 僂 ¹¹³			拘悅 ° 𪛗 ⁹²
昌 書 常 日 羊	姝專 穿 ²⁶ 垂專 遄 ^{54 68} 辱? 擱 ⁷	辱充 璠 ¹⁰⁸		東悅 說 ⁵⁷ 容血 ⁽¹⁾ 閱 ⁴⁸ 容雪 說 ⁵⁷
心 邪	旬僂 還 ⁴¹ 旬緣 還 ⁹⁰ 松緣 還 ¹¹²	須充 選 ^{34 121}	須掾 選 ¹²¹	
知				中劣 𪛗 ²¹ 𪛗 ⁹¹
来		力轉 變 ⁵³		
莊				側劣 茁 ³³
見 B 群 B 匣 B	達員 𪛗 ¹¹⁷	九免 卷 ³⁴ ? 勉 卷 ⁸	于万 ⁽²⁾ 媛 ⁶⁵	

(1) 「血」屑韻IV類字。

(2) 「万」願韻C類字。

効 攝

	宵	小	笑
幫 A	方遙 °表 17		
滂 A	篇遙 漂 ₁₀₆		
並 A		脾小 標 28	
群 A	祇遙 翹 15		
影 A	因遙 喂 20 要 ₁₂₃		因妙 約 41
章		之查 ⁽¹⁾ 沼 19	
羊	羊招 搖 63 88 陶 89	羊小 驪 45	
清		七小 悄 35	
心	息遙 宵 29		
知	張遙 朝 83 112		
澄	直遙 朝 78		
見 B	京妖 喬 ₁₀₀ 驕 ₁₁₆		
溪 B	卿喬 °驕 78		
群 B	奇妖 橋 15 105		
影 B	英驕 天 12 42		
幫 B	方苗 鑣 78		
	彼驕 蕉 ₁₀₀		

(1) 「查」篠韻Ⅳ類字。

假 擲

	麻 開	馬 開	禡 開
章 船 常		章社 赭 51 常奢 闍109	食夜 射121
精 清	子耶 置 12	七野 且111 112	

梗 攝

	清 開	靜 開	勁 開	昔 開
幫 A 並 A		賓領 屏 ¹¹³		脾益 壁 ³⁵ 房辟 辟 ¹²³
群 A	祇形 ⁽¹⁾ 頸 ⁷⁶			
章 書 常 羊	之成 正 ¹²¹ 尚征 盛 ^{23 24}	墅整 °頸 ⁷⁶		式石 適 ⁷ 爽 ²⁴ 齧 ⁴⁹ 舒石 °憚 ⁵⁷ 羊石 戮 ⁶ 憚 ⁵⁷ 閑 ¹²⁰
精 從 心	將盈 旌 ⁶⁹		秦性 °清 ⁸	息石 易 ¹⁴ 葛 ¹²⁴
徹 澄	勅貞 頰 ¹⁷ 勅盈 經 ⁹⁴	勅領 駢 ⁹⁸		直惜 擲 ⁵⁵

(1) 「形」青韻Ⅳ類字。

	清 合	靜 合	勁 合	昔 合
群 A 影 A	葵營 瓊 ⁸⁶ 因營 帶 ¹¹			

	庚開	梗開	映開	陌開
見 B		巾影 傲 34 °竟 99 警 102 □影 警 111		京逆 戟 85
溪 B				卿逆 綸 5
疑 B			宜敬 迎 24	

	庚合	梗合	映合	陌合
匣 B	爲兄 瑩 73 113	爲柄 咏 127	爲命 泳 15	

流 攝

	幽	黝	幼
見 A	兼虬 穆 10	吉酉(1) 赴 13	

(1) 「酉」有韻 C 類字。

深 攝

	侵	寢	沁	緝
影 A				因十 °狀 25
昌 船 日	[平声] 任 38	食甚 甚 82 而□ 衽 14	而煬 絰 22 [去声] 任 38	尺十 °蟄 12
精 從			子煬 浸 5	慈立 °楫 84
莊 初 生	創今 參 3 山陰 參 29			側立 °揖 12
見 B 溪 B 群 B 影 B	綺金 衾 29 奇金 衿 108		英禁 飲 95	京及 攸 58 欽急 潛 23 英入 浥 25

咸 攝

	鹽	琰	豔	葉
影 A			因豔 𪛗 6 厭 86 112	因輒 厭 31
昌 書	昌廉 檐 75			尸涉 轅 84
精 從	即廉 漸 82			苴葉 萎 4 慈接 捷 112
來				力涉 獮 115
疑 B 曉 B		宜險 儼 (1) 34 宜險 𨾏 92 戲貶 險 8		

(1) 「儼」廣韻在儼韻，今依完本王韻置於此。

曾 攝

	蒸 開	拯 開	證 開	職 開
章 船 書 常 羊	商承 勝 96		食證 勝 18 乘 97 114	眞識 織 36 威力 寔 29 湜 47 羊力 杙 13 89 弋 65 103
知				張力 陟 9
生				山力 穉 67
見 群 疑 影	京水 衿 72 宜水 凝 75			京色 寐 42 襪 123 己力 亟 56 其力 極 66 82 116 央力 億 126 於□ 憶 129
幫 B 並 B	悲憑 棚 99 皮水 馮 40			

				職 合
曉 B 匣 B				況逼 絨 27 榮逼 域 15

C 類

通 攝

	東		送	屋
章 書	支嵩 螽 11			之六 祝 69 升祝 叔 96
精				子六 覺 30 64 91
徹 澄	勅中 忡 20 40			勅六 蓄 49 直六 軸 74 101
崇				士縮 °驟 96
見 影 曉				己六 鞠 18 36 116 衣六 澳 71 香六 畜 38 57 88 愒 48
幫 並 明	扶雄 凡 70 亡風 夢 111			甫目 輻 126

	鍾	腫	用	燭
章 昌 常 日 羊	春容 置 91 殊鍾 °童 82 辱容 襪 31 踰鍾 埔 26 庚鍾 裕 82			朱辱 屬 69
精 從 心 邪	足容 蹤 27 °從 115 宣容 蚣 11 旬從 訟 27	宣勇 竦 15	聚用 從 118	詳欲 蕢 124
澄	直龍 重 73			
来				力足 綠 71 〔如字〕 綠 35
見 影 曉	機凶 共 21 〔恭〕 共 60		威共 離 45	凶玉 昂 38 暉玉 旭 45
滂 並 明	妃風 ⁽¹⁾ 葑 46 65 敷容 丰 106 武容 °蒙 50		扶用 縫 27 73	

(1) 「風」東韻C類字。

止 攝

	之 開	止 開	志 開
章 昌 常 羊	尺之 蚩 80 成之 時 88 羊之 貽 43 49 °已 ₁₁₄	眞耳 沚 19 48 盈耳 苜 14 羊止 呂 28	尺志 鱸 19 時志 °寺 52
心 邪		息里 臬 22 詳子 汜 29	息吏 伺 94 詳吏 °食 95 °席 96
莊 生 俟	側狸 紂 26 緇 95	 繩 ⁽¹⁾ 使 涖 92	色吏 使 9
見 溪 群	 〔其〕 淇 53 〔祁 ⁽²⁾ 〕 淇 53 求基 葵 ₁₀₉	羌己 杞 97 杞 ₁₂₅	居忌 °其 90 居意 °忌 98 姜? °其 ₁₂₄

(1) 「繩」船母字。

(2) 「祁」脂韻開口B類字。

	微開	尾開	未開
見 群 影 曉	勲衣 畿 47 頤 74	姜壹 幾117	應氣 衣 7 74 香氣 壑 28 50

	微合	尾合	未合
影 曉 匣	勲歸 緯 7	勲鬼 虺 39 于尾 燁 57	雍貴 慰 41
滂 明	敷非 霏 56	敷尾 菲 46 匪 72 亡斐 賁109	

遇 攝

	魚 開	語 開	御 開
章 書 日 羊	式諸 °徐 56 羊諸 與 50 煥 69	眞汝 煮 6 落 30 仁煮 °女 26 〔汝〕 °攔 8 羊煮 予 112 以呂 予 112	仁恕 茹 34
精 清 心 邪	子余 且 56 105 112徐 苴 87 七余 阻 10 息余 蟬 12 祥余 °邪 56	詳呂 饒 118	
知 澄	直諸 蔭 59 直余 儲 104	直呂 竚 37	張慮 著 75 治據 著 113
來	力諸 廬 66		
莊	側居 道 4	側呂 阻 43	
見 溪 群 疑 影	姜於 琚 104 起居 虛 67 其居 蔭 58 渠 105 安居 菸 90	姜許 宮 23 言巨 禦 13 言呂 °御 49	己御 據 34 °居 128 起據 °祛 101 其據 蔭 114

	虞合	麌合	遇合
昌 書 常 日 羊	春朱 姝 57 純朱 父 85 辱朱 濡 45 101 羊須 綸 32 容朱 綸 129	 容主 愈 16	東樹 戌 89
清			促論 °趨 122
澄	重須 禍 29 直須 跼 57		
來	龍朱 蕤 16		
初 生	窓于 蕤 72		朔樹 數 41
見 溪 群 疑 曉 匣	恭于 拘 83 曲踰 駟 118 元于 虞 1 隅 57 况于 忬 10 凶于 吁 38 訐 110	 郡羽 窶 54 元距(1) 俱 51 云矩 瑀 104	恭具 屨 115 瞿 128 ? 具 瞿 114 起論 駟 118 徐 元句 寓 50 云付 雨 56
非 敷 並 明	方于 拊 15 封于 膚 75 妃于 瘠 10 旁于 鳧 103 夫 104 112	 妃武 拊 35 房舞 輔 77 亡甫 侮 35	

(1) 「距」語韻字。

蟹 攝

			癡 開
疑			言癡 刈 6

			癡 合
幫 並			方呋 °發 33 98 扶癡 呋 31

臻 攝

	欣 開	隱 開	歛 開	迄 開
見 影 曉	應斤 殷 54 香斤 听 25 欣 117	基隱 董 104 應謹 °殷 27		

	文 合	吻 合	問 合	物 合
影 匣	[云] 員 109		威問 溫 35 于郡 韓 52	
幫 滂 並 明	敷文 憤 78 扶文 賁 12 墳 16	扶粉 憤 37	甫問 奮 28 亡蕘 聞 6 亡? 汶 120	方勿 第 78 敷勿 拂 61 亡弗 芴 46

山 攝

	元 開	阮 開	願 開	月 開
見 溪				居謁 桀 ¹¹⁷ 徐 起謁 竭 80 85

	元 合	阮 合	願 合	月 合
見 影		威阮 婉 21 110 宛 ¹²³ 威□ 宛 ¹²⁹ 因晚 婉 58 暉晚 °喧 72		俱鉞 厥 21
曉 匣	況袁 設 72 86 于元 援 71 于煩 垣 81 爰 91		于万 遠 92	
幫 並	甫袁 蕃 ¹¹⁴ 扶袁 繫 18 番 28 蕃 32 拌 64 樊 ¹¹⁴			
明		亡反 婉 22	亡販 蔓 11 110	

宕 攝

	陽 開	養 開	漾 開	藥 開
章				掌勺 灼 26 之若 繳 103 嵯 115
昌			尺尚 倡 105	昌約 綽 73
書	失羊 湯 82			
常		成兩 上 37		
日	而羊 攘 66 讓 110			
羊	以良 洋 78			羊略 躍 20 簫 51
精	子良 將 81		子亮 將 40	[雀] 爵 26
清	七祥 將 96			
	七羊 將 98 104			
心	息良 湘 23		息亮 相 71	
邪	辭羊 翔 100			
徹			勅亮 邕 99	
來			力匠 兩 18 力尚 諒 62 兩 115	
莊	側良 莊 72		側亮 壯 80 106	
生		山丈 爽 82		
見	己良 彊 65			
曉			[向] 鄉 54	向洛(1) 諫 39 香約 諫 74

(1) 「洛」鐸韻 I 類字。

	陽 合	養 合	漾 合	藥 合
溪 群 影 匣	曲狂 筐 8	求往 °誣 ₁₁₀	于放 王 1 32	威縛 °沃 81
並	扶方 仿 ₁₂₀			

流 攝

	尤	有	宥
章 昌 常 羊	支由 舟 59 昌酋 °龍 102 市由 離 48 市? °速 3	石首 綬 108 羊首 牖 24 莠 116	市又 售 48 盈秀 柚 87
從 心 邪	從由 酋 86 息流 脩 91		息救 琇 72 詳秀 褻 51
知 徹 澄 娘	卓流 輸 45 勑由 抽 62 勑流 抽 101 瘳 108 直流 °調 16 禍 29	 拏丑 扭 98 拏□ 扭 129	中救 咄 26 喝 28
來	力周 瀏 110		
莊 生	側流 騶 1 色流 蒐 32 107		側救 綯 64 山又 瘦 17
見 群 曉 匣	□牛 鳩 3 于鳩 誦 36	[久] 玖 87 其久 咎 81	朽救 慄 109 于救 右 4
幫 並 明	 薄不 茱 14 蒲不 學 91 莫侯(1) 矛 86 100	甫久 否 8 46 不 44	 步茂(2) 復 81

(1) 「侯」侯韻 I 類字。

(2) 「茂」侯韻 I 類字。

咸 攝

	凡	范	梵	乏
幫 並		〔范〕 帆 45 〔凡之〕 帆 45 上声	敷 釁 汎 34	

三 反 切 上 字 表

表 例

1. S.2729 残巻にあらわれる反切上字を、その韻母類により分類し、それを更に声母ごとに分けて表示する。

2. 同じ韻母類に属し、同じ声母をもつ上字は、開口、唇音 E 属、合口の順で並べ、更にそれら内部の順序は廣韻の韻目順、および声調の順による。

3. 舌・齒音声母の下では、A B 類の上字と C 類の上字とは母字の韻母類との関聯において使い分けがないので、これらは同一の表に掲げる。上字排列の順序は、開口、唇音 E 属、合口それぞれの内部で A B 類、C 類の順とする。

4. 上字韻母の表記は以下の如くする。

4. 1 上字韻母は韻目（原則として平声および入声の韻目名を用いる）、開・合、声調の三者によって表記する。例えば、「唐開上」とは「唐韻開口上声」（すなわち蕩開韻）の意味である。

4. 2 唇音 E 属は開・合の欄を空欄とすることによりそれを示す。

4. 3 幫組上字の開・合は記さない。

4. 4 鍾・燭韻は本残巻反切の反映する方言では /iuaŋ, iuaŋk/ であったと推定される（本論参照）ので、本表はそれに合せて合口として扱かう。

4. 5 上字が声調の異なる又讀を有するとき、主要な讀音と思われる方の声調を記す。例えば「下」は上声と去声の二音を有するが、廣韻における語義記載の簡繁の差、小韻中にあらわれる順序の差、切韻反切における反切下字としての使用の有無、などにより、上声の音が「下」の主要な讀音であったと判定される。かかる判定が難しい場合は二つの声調を併記する。

5. 下字声母を36字母により示す。幫組帰字をあらわす反切に幫組以外の下字が用いられた場合、その開・合を声母の直後に附記する。下字声母を記すのは、下字における声母の選択が帰字声母との關聯に於てどのようにあらわれているかを窺う材料に供するためである。

6. 帰字韻母の表記は以下に記す以外の点では上字韻母のそれに準ずる。

6. 1 帰字韻母とは、反切総表においてその帰字が置かれた欄に該当する韻母をさす。

6. 2 但し、次の反切における帰字は、その反切があらわしたじっさいの音にしたがって、その韻母を以下のように変更する。

反 切	音注総表	反切上字表
莫侯 矛 86 100	C 類 尤 韻	I 類 侯韻 (侯 平)
歩茂 復 81	C 類 有 韻	I 類 侯韻 (侯 去)
于万 媛 65	B 類 線韻合口	C 類 願韻合口 (元合去)

6. 3 帰字の韻母類は、上字のそれに異なる場合に限って記す。それらは上字－帰字の韻母類一致の原則に対する例外である。但し、舌・齒音声母の下におけるA B類とC類の違いに関する上字と帰字の不一致は記さない。

6. 4 蒸開、職開 韻の見組声母をもつ帰字に対する上字には、C類の場合とB類の場合があり、これは本残巻反切の反映する方言で見組声母の下における蒸開、職開 韻が /iΔŋ, iΔk/ (C類), /ieŋ, iek/ (B類) に分れていたことを反映する (本論参照)。したがって蒸開、職開 韻の帰字は上字の韻母類に合せてC類またはB類とみなす。

6. 5 帰字韻母の排列順は表例2. および3. に準ずるが、唇音 E 属内部での順序は、上字のとり方に関し開口に近いものから合口に近いものへと並べる。

7. 上字と下字が同じ反切が残巻中で延べ何回用いられているかを

反切延べ数として帰字韻母の後に附載する。但しそれが1回の場合は省略し、2回以上の場合だけ掲げる。

8. 本残巻が「徐」として引く徐邈「毛詩音」の反切に該当する項は、右端に「徐」と記して区別した。

I 類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
幫	補-模 上	明	末	入	2
		精合	戈	去	
		見開	鐸	入	
		定	豪	上	
		疑開	齊	去	
滂	普-模 上	見開	先	去	2
		明	夬	去	
		見合	模	去	
並	蓬-東 平	見合	模	去	2
		幫	屋	入	
		幫	灰	去	
端	蒲-模 平	影開	桓	平	2
		幫	桓	去	
		明	末	入	
		見合	末	入	
		見合	戈	平	
端	精開 幫	見合	唐	平	2
		精開	鐸	入	
		幫	德	入	

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
明	蒙-東 平	曉合	灰	去	2
		見	肴	平	
		幫	灰	平	
		來開	灰	平	
端	謨-模 平	幫	模	去	2
		見	豪	平	
		幫	豪	平	
		幫	豪	去	
端	莫-鐸 入	匣	侯	平	2
		匣	侯	上	
		匣	侯	去	
		從合	灰	上	
端	當-唐開平	定開	灰	去	2
		見合	魂	平	
		幫	末	入	
端	當-唐開平	匣	寒開平		2
		匣	寒開去		
		匣	寒開入		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		定 見 ／ 来	曷開入 談 上 談 上 豪 平		
	東- 東 平	匣 来 匣	模合平 模合去 末合入		
	都- 模合平	泥 定 来 影 来	覃 平 東 上 灰合平 魂合平 桓合去		
透	太- 泰開去	来 来	唐開平 唐開上		
	他- 歌開平	見	寒開平		
	湯- 唐開平	見 端 見 匣 来 見 匣	泰開去 寒開平 曷開入 歌開去 鐸開入 談 上 侯 平	2 2	
	通- 東 平	疑 来	泰合去 桓合去		2

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	土- 模合上	見 来 心	豪 平 灰合平 魂合平		4
	吐- 模合上	見	桓合平		
定	大- 泰開去	端 来	唐開平 唐開平		
	唐- 唐開平	見 影 端 匣 匣 来 見 端	哈開上 哈開去 寒開平 寒開上 歌開平 鐸開入 談 上 豪 去	3 3 3	
	同- 東 平	端 来	模合平 桓合去		2
	徒- 模合平	見 端 見 端 端 端 端 来	豪 平 豪 去 覃 上 合 入 東 平 東 平 冬 平 魂合平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		心 匣 匣 見 見	魂合上 桓合平 桓合平 戈合上 屑開入 IV		
泥	乃- 哈開上	端 溪 見	寒開去 歌開上 豪 平		
来	郎- 唐開平	從 端 見 見 定 端	哈開平 寒開去 鐸開入 談 上 豪 上 豪 去	4	
	盧- 模合平	匣 見	灰合平 末合入	2	
精	宰- 哈開上	匣 来	歌開去 唐開平		
	宗- 冬 平	匣	模合上	2	
	祖- 模合上	来 端 見 見 定	豪 上 豪 去 覃 上 東 平 東 上	4	

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		匣 匣 泥	灰合平 泰合去 添 去 IV		
清	采- 哈開上	影 端 匣 泥	寒開平 寒開平 歌開平 覃 平	2 2	
	倉- 唐開平	從 定	哈開平 哈開去		
	忿- 東 平	從 来	灰合上 桓合去		
從	才- 哈開平	端 来 来	登開平 豪 平 豪 上		
	在- 哈開上	泥 来	覃 平 豪 平	2	
	存- 魂合平	端 来	東 平 灰合平	2	
心	桑- 唐開平	匣 精 来 匣	寒開上 德開入 豪 上 模合平		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	僧- 登開平	来 来	唐開上 唐開去		
	蘇- 模合平	精 明 影 見	侯 上 屋 入 魂合平 戈合上		
	素- 模合去	来 /	豪 平 豪 去		
見	剛- 唐開平	溪 影 匣 来 端 匣	哈開去 哈開去 寒開平 豪 上 豪 去 唐合平	2	
	工- 東 平	匣 匣	模合平 模合上	4	
	古- 模合上	端 匣 匣 定 端 匣 疑	覃 上 侯 平 侯 上 侯 去 沃 入 灰合去 泰合去	3 2	

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		明 曉 来 匣	魂合平 没合入 桓合去 末合入	2 2 3	
	溪	康- 唐開平	見 哈開上	2	
		肯- 登開上	来 定 匣	哈開平 哈開去 痕開上	3
		口- 侯開上	匣	青合上 IV	
		苦- 模合上	来 心 見 見 見 曉	豪 上 東 去 桓合上 戈合平 鐸合入 肴 上 II	2 2
	疑	我- 歌開上	見	唐開平	
		五- 模合上	見 端 溪 見 曉	豪 平 豪 去 侯 上 戈合平 肴 去 II	2
	影	安- 寒開平	見	魚開平 C	

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	烏一 模合平	匣 匣	侯 平 灰合平		
	汪一 唐合平	見 見	模合平 模合去		2
曉	黑一 德開入	匣 来	寒開上 豪 上		2 2
	呼一 模合平	来 見 影 来	豪 上 灰合去 魂合平 桓合去		
	火一 戈合上	匣	末合入		
	荒一 唐合平	見	模合上		
匣	何一 歌開平	見 端 見	泰開去 寒開去 曷開入		2 4
	恒一 登開平	端 端 見 来 来	寒開去 歌開平 唐開平 唐開平 豪 上		2 2
	洪一 東 上	見 見	模合平 模合上		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	胡一 模合平	見 端 端 見 見 見 見 見 見 見 疑 見 見 見	唐開平 豪 平 豪 去 覃 上 侯 去 屋 入 灰合去 桓合平 桓合上 末合入 戈合去 唐合平 鐸合入 狎 入 Ⅱ徐		3 2 2

II 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
精	八- 點 入	並 見開	麻 平 庚 平		
滂	派- 佳 去	並	庚 平		
並	排- 皆 平	見開	耕 上		
	彭- 庚 平	明 匣開 幫 見	佳 上 刪 去 黠 入 肴 平		
明	麻- 麻 平	見開 見開	庚 平 耕 平		
	盲- 庚 平	並	刪 去		
	孟- 庚 去	見開	皆 平		
	萌- 耕 平	幫 幫	肴 上 江 平		
知	卓- 覺 入	来	尤 平 C		
澄	根- 庚開平	見 曉	麦開入 肴 去	2 3	
	宅- 陌開入	見	庚開平		
	懂- 江 去	見	覺 入	2	

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	濁- 覺 入	匣	皆合平		
娘	孃- 麻開平	徹 ／	尤 上 C 尤 上 C		
莊	爭- 耕開平	見	麦開入		
初	差- 麻開去	匣	洽開入		
	窓- 江 平	匣	虞合平 C		
生	山- 山開平	澄 来 影 匣	陽開上 C 職開入 AB 侵 平 AB 尤 去 C		
	生- 庚開平	莊 莊 匣 幫 溪 莊 影	山開上 咸 上 銜 平 支開上 AB 支開上 AB 2 臻開平 AB 質開入 AB		
	雙- 江 平	莊	覺 入		
	朔- 覺 入	常	虞合去 C		
見	皆- 皆開平	影 明	刪開去 山開平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		匣 匣 匣 疑 ／ 疑 匣 匣 明 明 曉	山開上 山開去 麻開平 麻開平 麻開平 麻開去 洽 入 肴 平 肴 上 肴 上 肴 去		3
	更- 庚開平去 庚- 庚開平	匣 幫	皆開平 黠開入		3
	瓜- 麻合平	匣 ／ 疑 匣 疑 匣	狎 入 覺 入 覺 入 刪合去 山合平 庚合平		2 2
溪	客- 陌開入	見	肴 平		
疑	顏- 刪開平	見 見	佳開平 麻開去		
	瓦- 麻合上	匣	刪合去		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
影	晏- 刪開去	見	麥開入		
	厄- 麥開入	明 明 見 見	佳開上 佳開去 刪開去 庚開平		2
	泓- 耕合平	見	覺 入		
曉	化- 麻合去	匣	皆合平		
匣	下- 麻開上	幫 見 見 明 見 莊	刪開上 山開平 庚開平 庚開去 耕開平 咸 上		3 2
	行- 庚開平	見 曉 見 見 見 見 曉	佳開去 鎋開入 麻開平 麻開去 洽 入 肴 平 肴 去		2 2
	懷- 皆合平	見 影	江 平 耕合平		
	華 - 麻合平	幫	刪合上		

IV 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
幫	韓一 齊 平	見開 来	青 平 青 上		
	眠一 先 平	並	齊 上		
端	帝一 齊開去	見	青開去		2
	丁一 青開平	見 来 見	齊開去 錫開入 蕭 去		
透	天一 先開平	来	齊開上		2
		端	齊開去		2
		端	先開上		
		端 来	青開上 錫開入		2
定	田一 先開平	匣	齊開平		4
		来	錫開入		3
	庭一 青開平	端	添 上		
		来 端 見	齊開上 齊開去 先開去		2
	廷一 青開平	端 端 来	齊開去 先開上 先開去		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	挺一 青開上	見	屑開入		
	定一 青開去	見	屑開入		
泥	年一 先開平	来 来	齊開上 錫開入		2
来	零一 青開平	匣 端 端	齊開平 蕭 平 蕭 去		
	歷一 錫開入	端	青開平		4
精	箋一 先開平	来 疑	齊開上 齊開去		2
清	千一 先開平	匣	齊開平		3
		来 心	齊開上 齊開去		2
從	前一 先開平	来 疑 溪	齊開上 齊開去 豪 上 I		
心	先一 先開平	来	錫 入		4
	星一 青開平	匣 見	齊開平 先開去		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		見 端 端	屑開入 蕭 平 蕭 去		2 2
見	雞一 齊開平	匣	青開平		
	經一 青開平	匣 匣 清 来 来	齊開平 先開平 屑開入 錫開入 蕭 上		3
	兼一 添開平	群	幽 平 A		
溪	啓一 齊開上	見 定	屑開入 清開去		2
	牽一 先開平	匣	齊開平		
影	霧一 齊開去	見 見	先開去 屑開入		3
	燕一 先開平去	匣 曉	齊開平 先開上		2
	宴一 先開去	見	齊開去		2
曉	血一 屑合入	匣 匣	齊合去 先合去		
匣	替一 齊開平	見	青開平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	刑一 青開平	曉 見	先開上 屑開入		
	形一 青開平	見	屑開入		
	玄一 先合平	見	青合平		
	螢一 青合平	見	齊合平		

A 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
幫	并- 清 平	並 章 明 明 明 清 明	支 上 脂 去 祭 去 真 平 仙 平 仙 上 薛 入		2 2
	賓- 真 平	来	清 上		
滂	疋- 質 入	定	先 上 IV		
	篇- 仙 平	羊	宵 平		
並	脾- 支 平	明 書 幫 日 影 心	祭 去 祭 去 真 平 真 上 昔 入 宵 上		2 2
	頻- 真 平	羊 章	支 平 脂 去		
明	民- 真 平	並 書	支 去 祭 去		
	名- 清 平	日	真 上		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
見	吉- 質開入	羊	幽 上		
	勁- 清開去	来	薛開入		
	規- 支合平	邪 来	諄合平 術合入		
溪	輕- 清開平	知 章	支開去 仙開去		
群	祇- 支開平	匣 羊	清開平 宵 平		
	葵- 脂合平	羊	清合平		
	堯- 清合平	見	脂合上		
影	伊- 脂開平	日	真開平		
	因- 真開平	羊 明 羊 章 常 羊 明	宵 平 宵 去 鹽 去 葉 入 緝 入 清合平 元合上 C	2 3	
曉	曉- 支合平	羊	仙合平		
	僊- 仙合平	見	支合平		

B 類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
幫	悲- 支 平	並	蒸 平		
	彼- 支 上	見	宵 平		
	兵- 庚 平	見	脂 去		3
並	皮- 支 平	疑 幫 幫	支 去 仙 去 蒸 平		3
明	苗- 宵 平	幫	支 上		
見	几- 脂開上	来	真合平		
	巾- 真開平	生	脂開平		
		群	薛開入		
		影	庚開上		3
	京- 庚開平	溪	脂開去		
		群	薛開入		
		疑	陌開入		
		幫	蒸開平		
		生	職開入		2
		影	宵 平		2
		群	緝 入		
		匣	支合平		
		曉	支合上		
		匣	祭合去		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
溪	卿一 庚開平	来 疑 群	祭開去 陌開入 宵 平		2
	綺一 支開上	影 見	仙開平 侵 平		
	欽一 侵 平	見	緝 入		
群	奇一 支開平	見 ／ 影 見	真開平 薛開入 宵 平 侵 平		2
	琴一 侵 平	溪	支開上		2
	達一 脂合平	匣	仙合平		
	權一 仙合平	知	脂合平		
疑	宜一 支開平	見 幫 群 曉	庚開去 蒸開平 鹽 上 鹽 上		
	迎一 庚開平	幫 群	仙開去 薛開入		
影	英一 庚開平	疑 溪	支開平 支開上		2

声母	上 字	下字	婦字	婦字	反切 延べ 数
	上字韻母	声母	韻母	類	
		見 見 日 疑	宵 平 侵 去 緝 入 支合平		2 2
曉	戲— 支開去	幫	鹽 上		
	歆— 侵 平	見	支開去		
	兄— 庚合平	影	支合上		
匣	爲— 支合平	曉 幫 明	庚合平 庚合上 庚合去		2
	榮— 庚合平	幫 見 日 幫	脂合平 脂合上 真合去 職合去		2

C 類 (唇・牙喉音)

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延數
幫	甫一 虞 上	明	屋 入		3
		見	尤 上		
		明	文 去		
		匣合	元 平		I
		明	魂 平		
		見合	魂 上		
	方一 陽 平	匣合	虞 平		2
		並	廢 去		
		明	物 入		
		並	支 去	A	A
		羊	宵 平	A	
		明	宵 平	B	
	封一 鍾 平	匣合	虞 平		
滂	妃一 微 平	幫	鍾 平		2
		匣合	虞 平		
		明	虞 上		
	敷一 虞 平	羊合	鍾 平		2
		幫	微 平		
		明	微 上		
		明	文 平		
		明	物 入		
		見	凡 去		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延數
並	扶一 虞 平	匣	東 平		2
		羊	鍾 去		
		幫	廢 去		
		明	文 平		2
		幫	文 上		
		匣合	元 平		
		幫	陽 平		5
		明	薛 入	A 徐	
		幫	脂 上	B	
	房一 陽 平	明	虞 上		A
		幫	昔 入	A	
明	武一 虞 上	羊合	鍾 平		B
		幫	真 平	B	
		見開	真 平	B	
	亡一 陽 平	幫	東 平		2
		滂	微 上		
		幫	虞 上		
		幫	文 去		
		／	文 去		
		幫	物 入		
		幫	元 上		2
		幫	元 去		
		幫			

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
見	基- 之開平	影	欣開上		
	己- 之開上	疑 来 来 来	魚開去 陽開平 職開入 屋 入	2 3	
	機- 微開平	曉	鍾合平		
	居- 魚開平	群 影 影	之開去 之開去 月開入 徐		
	姜- 陽開平	溪 / 影 曉	微開上 之開去 魚開平 魚開上		
	九- 尤 上	明	仙合上		
	恭- 鍾合平	匣 群	虞合平 虞合去	2	
	俱- 虞合平 拘- 虞合平	匣 羊	月合入 薛合入 A		
溪	起- 之開上	見 見 影 羊	魚開平 魚開去 月開入 虞合去 徐	2	

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	羌- 陽開平	見	之開上		2
	丘- 尤 平	匣 来	支合平 B 真合平 B		
	曲- 燭合入	羊 群	虞合平 陽合平		
群	其- 之開平	見 見 来 見 見	魚開平 魚開去 職開入 尤 上 脂合去 A	2 3	
	勲- 欣開平	影	微開平		2
	求- 尤 平	見 匣	之開平 陽合上		
	郡- 文合去	匣	虞合上		
疑	魚- 魚開平	章	祭開去 A		
	言- 元開平	群 来 幫	魚開上 魚開上 癢開去		
	元- 元合平	匣 群 見	虞合平 虞合上 虞合去	2	

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
影	衣- 微開平	来	屋 入		
	於- 魚開平	/	職開入		
	央- 陽開平	来	職開入		
	應- 蒸開平	溪 見 見	微開去 欣開平 欣開上	2	
	雍- 鍾合平	見	微合去		
	威- 微合平	群 明 疑 / 並	鍾合去 文合去 元合上 元合上 藥合入	3	
曉	喜- 之開上	章	脂開去 A		
	香- 陽開平	来	屋 入	4	
		溪	微開去	2	
		見	欣開平	2	
		影	藥開入		
	向- 陽開去	来	藥開入		
	朽- 尤 上	見	尤 去		
	凶- 鍾合平	疑 匣	燭合入 虞合平	2	

声母	上	字	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	上字韻母					
	暉-	疑	燭合入			
	微合平	明	元合上			
	勲-	見	微合平			
	文合平	見	微合上			
	況-	匣	虞合平			
	陽合去	匣	元合上	2		
		幫	職合入 B			
匣	于-	明	微合上			
	虞合平	群	文合去			
		疑	元合平		2	
		並	元合平		2	
		明	元合去		2	
		幫	陽合去		2	
		見	尤 平			
		見	尤 去			
		云-	見	虞合上		
	文合平	幫	虞合去			

AB・C 類 (舌・齒音)

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
知	張一 陽開平	来	仙開平		
		来	仙開上		
		書	仙開去		
		来	魚開去		
		来	職開入		
		羊	宵開平		2
	中一 東 平	見	尤 去		2
		来	薛合入		2
	竹一 屋 入	見	耕開平 II		
		見	覺 入 II		
徹	勅一 職開入	来	脂開平		
		来	清開平		
		羊	清開平		
		来	清開上		
		来	陽開去		
		羊	尤 平		
		来	尤 平		2
		来	東 平		2
		来	屋 入		
		来			
澄	直一 職開入	来	支開平		
		来	脂開去		
		来	薛開入		
		心	昔開入		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		章	魚開平		
		羊	魚開平		
		来	魚開上		
		羊	宵 平		
		来	尤 平		2
		来	屋 入		2
		来	鍾合平		
		心	虞合平		
		治一 之開去	見	魚開去	
		重一 鍾合平	心	虞合平	
来	力一 職開入去	澄	支開平		2
		羊	仙開平		
		章	魚開平		
		常	陽開去		2
		從	陽開去		
		常	葉 入		
		章	尤 平		
		章	脂合平		
		見A	脂合上		
		書	脂合上		2
		知	仙合上		
		精	燭合入		
	律一 術合入	邪	諄合平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		心	諄合平		
	龍一 鍾合入	章	虞合平		
精	苴一 魚開平	羊	葉 入		
	子一 之開上	清	仙開上		
		羊	麻開平		
		羊	魚開平 4(徐1)		
		来	陽開平		
		来	陽開去		
		澄	侵 去		
		来	屋 入	3	
	將一 陽開平	羊	清開平		
	即一 職開入	来	脂開去		
		来	鹽 平		
		来	齊開平 IV		
	足一 燭合入	心	脂合平		
		心	術合入		
		羊	鍾合平	2	
清	此一 支開上	来	質開入		
	七一 質開入	羊	麻開上	2	
		羊	魚開平		
		邪	陽開平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		羊	陽開平	2	
		心	宵 上		
		群A	青開平 IV		
	清一 清開平	見	先開去 IV		
	促一 燭合入	羊	虞合去		
從	茨一 脂開平	来	質開入		
	秦一 真開平	知	支開去		
		心	清開去		
	疾一 質開入	書	脂開平		
	慈一 之開平	知	真開平		
		精	仙開去		
		精	葉 入		
		来	緝 入		
	從一 鍾合平	清	質開入		
		羊	尤 平		
	聚一 虞合平	羊	鍾合去		
心	息一 職開入	章	真開去		
		来	真開去		
		来	質開入		
		羊	仙開平		
		清	仙開上	2	
		来	薛開入		
		常	昔開入	2	
		来	之開上		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		来	之開去		
		羊	魚開平		
		来	陽開平		
		来	陽開去		
		羊	宵 平		
		来	尤 平		
		見	尤 去		
		章	脂合平		
	苟一 諄合平	/	脂合平		
	宣一 仙合平	羊 羊	鍾合平 鍾合上		
邪	須一 虞合平	邪	諄合平		3
		精	諄合去		
		羊	仙合上		2
		羊	仙合去		
	辭一 之開平	羊	陽開平		
	詳一 陽開平	精	之開上		
		来	之開去		2
		来	魚開上		
		心	尤 去		
		羊	燭合入		
	祥一 陽開平	羊	魚開平		
	旬一 諄合平	精	脂合去		2

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		曉A	仙合平		
		羊	仙合平		
		從	鍾合平		
	松一 鍾合平	心 羊	諄合平 仙合平		2
莊	側一 職開入	来	祭開去		
		日	真開平		5
		影B	質開入		
		来	之開平		2
		見	魚開平		
		来	魚開上		
		来	陽開平		
		来	陽開去		2
		来	緝 入		
		来	尤 平		
初	楚一 魚開上	疑	支開平		2
		見B	侵 平		
	創一 陽開去				
	士一 之開上	生	屋 入		
	色一 職開入	来	祭開去		3
		来	之開去		
		来	尤 平		2

声母	上 定 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		来 来	脂合去 質合入		
章	支- 支開平	心 羊	東 平 尤 平		
	真- 真開平	日 日 書	之開上 魚開上 職開入	2 2	
	征- 清開平	常 日	支開去 真開上	2	
	之- 之開平	常 日 日 常 日 影 来	支開上 真開上 仙開平 清開平 藥開入 宵 上 屋 入	2 2 2	
	章- 陽開平	書 常 羊	薛開入 麻開上 脂合平	2 2	
	掌- 陽開上	常	藥開入		
	朱- 虞合平	日 羊	燭合入 諄合上		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
昌	尺- 昔開入	章 章 常 常	之開平 之開去 陽開去 緝 入		
	昌- 陽開平	影 来 從 書	藥開入 鹽 平 尤 平 祭合去		
	姝- 虞合平	章	仙合平		
	春- 諄合平	羊 章	鍾合平 虞合平		
船	繩- 蒸開平	生	之開上(俟母)		
	食- 職開平	羊 章 常 書 常	麻開去 蒸開去 侵開上 脂合上 諄合平	3	
書	尸- 脂開平	常	葉 入		
	失- 質開入	羊	陽開平		
	舒- 魚開平	羊 常	仙開平 昔開入		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	商- 陽開平	章 常	脂開上 蒸開平		
	升- 蒸開平	章	屋 入		
	式- 職開入	章 羊 章 常 章	支開平 支開平 脂開平 昔開入 魚開平	2 3	
	東- 燭合入	羊 羊 常	祭合去 薛合入 虞合去	5	
	常 成- 清開平	匣 書 章 章 来 来	祭開平 祭開去 仙開去 之開平 陽開上 職開入	2 2	
	石- 昔開入	書 書	脂開平 尤 上		
	時- 之開平	章	之開去		
	市- 之開上	羊 ／ 匣	尤 平 尤 平 尤 去		

声母	上 定 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	暨- 魚開上	章	清開上		
	常- 陽開平	書	麻開平		
	尚- 陽開去	章 昌	清開平 支合平	2	
	垂- 支合平	章	仙合平	2	
	純- 諄合平	影A 章	支合去 虞合平		
	殊- 虞合平	船 章	諄合平 鍾合平	2	
日	仁- 真開平	章 書	魚開上 魚開去		
	而- 之開平	章 羊 ／ 澄	真開去 陽開平 侵 上 侵 去	2	
	辱- 燭合入	章 ／ 羊 羊 章	脂合平 仙合鍾 仙合上 鍾合平 虞合平	2	
羊	盈- 清開平	章 常	支開平 支開去	4	

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
		日 来 章 日 心	脂開去 質開入 仙開平 之開上 尤 去		
	以- 之開上	来 来	魚開上 陽開平		
	羊- 陽開平	常 書 常 章 章 章 来 来 章 心 書 心	支開去 祭開去 昔開入 之開平 之開上 魚開平 魚開上 藥開入 職開入 宵 平 宵 上 尤 上 虞合平	3 3 3 2 2 4 3 2	
	容- 鍾合平	心 曉 心 章 章	祭合去 薛合入 薛合入 虞合平 虞合上		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
	踰- 虞合平	章	鍾合平		
	庚- 虞合上	章	鍾合平		

附：上字不明の反切

婦字 声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 延べ 数
曉	／	端	豪 去	I	
見	／	匣	皆開平	II	
群	／	疑	支開平	B	
見	／	明	仙合上	B	
見	／	影	庚開上	B	
見	／	群	虞合去	C	
見	／	疑	尤 平	C	
章	／	日	脂開去	AB	
書	／	章	真開平	AB	

P. 3383 残 卷

一 原本写真 (一部)、校録文ならびに校註

本残巻の校録文および校註を掲げる。序論 § 10 文献 (pp. 31-32) P. 3383 ①の小島祐馬氏による紹介には全文の移録が含まれており、参考となった点が少くない。但し小島氏の移録は、「卷子本の例にもれず多少誤字脱字散見するも、今は全く舊に仍って改訂を施さず。」という方針でなされており、その点以下の校録文とは異なる。また小川環樹教授がパリ滞在中に原巻から全文を移録されたノートを拝見でき、校註でとくに記した他、疑問を解くことのできた部分がある。小川教授の好意に深く感謝申上げる。本残巻の写真は、文献 ⑥ 神田博士「敦煌秘籍留真新編」に収められ、また文献 ⑤ 周氏「唐本毛詩音撰人考」にも載せられ、かつまた S. 2729 残巻とは異なり文字が全体に鮮明で判読に疑問となる箇所が少ないため、神田博士の書物から第一葉の写真のみを転載させていただくに止めた。校録文も同書所載の写真にもとづく。

18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

18 17 16 15 14 13 12 11 10

校錄文並校註

校錄文並校註凡例

○此卷書有毛詩篇名、今加線標之、間闕之處以（ ）補之、以便翻閱。
○其他凡例皆依S.二七二九殘卷。（參看三七頁）

（旱麓）

1 鴟尺跳田
瘳氣香勞郎施于上盈思齋側大似上神罔往無

(1) 阮本积文俱作「齊」、积文「本亦作」。

2 恫工以御
鄭毛顏嫁反離容反無射鄭毛羊石反列為厲力哲鄭

(1) 阮本积文俱作「烈」。

3 反說文假毛皆雅反鄭不瑕行無斃毛羊石鄭作皇矣之莫誤或
云惡疾假為瘳皆牙反

(1) 「反鄭」二字原誤倒。

4 為愛度唐書翹式郭苦霍反尔作之洛宰并之領寶舊側狸
(1) 廣各夷夷式郭雅云郭大

(1) 疑此当訂「暮」、暫仍之。

(2) 积文同、阮本作「廓」。

(3) 阮本积文俱作「屏」。

(4) 阮本积文俱作「舊」。

5 吏翳宴其桮力辟脾欒勅居起攘之章上而剔又天歷反聚
計其桮力辟赤欒貞居起攘之章上而剔又天歷反聚

6 燕柘之自弊
(1) 桮柘之自弊
(2) 桮柘而音郭云樹似榑桮桮困置反孫炎云
(3) 桮桮困置反孫炎云

(1) 原作一等「覃」、与四等「聚」「燕」俱不合、故訂「」。阮本积文俱作「斃」。

(3) 阮無此二字。阮元校勘記云「此脫耳」。

7 刊背串毛瓜患反鄭嬈普計反孫炎云帝省領斯拔蒲兌

8 外徒易盈貳百萌(1)王此上于克比并和徧見補施于上盈畔蒲

(1) 阮本同、積文作「貉」、云「本又作貉」。

9 援毛于萬鄭胡喚歆今拔蒲扈戶阮愚徂存共恭周祐洪其

10 鮮毛延鄭息淺不長兩珍夏行雅鉤古援于衝鍾梯兮天倡尺執訖(1)

(1) 阮本積文俱作「訊」、積文「字又作」。

11 信攸馘瓜曰禍萌藁(1)迎莠兮弗乞言(2)無拂勿猶僂毀京

(1) 阮本積文俱作「孽」。

(2) 原作「言」、蓋涉上文「言」誤者、今訂「一」。

12 僂戾零計靈臺民樂孝顏祲子登觀古勿亟己圉于磨

13 牛衣濯僮角鬻懷沼繞於切刃虞呂其維縱促賁文扶於論律(1)

(1) 原誤作「淪」。

14 於樂郎植成曰枸須刻畫宏麗唐何逢兮工蒲蒙芒腹蘇畔

15 牟下武成王誑于文王有聲遙容駿俊伊滅逼兄

16 其慾(1) 辱容維翰案恒東注論朱汜(2) 劍敷有莒(2) 羌詒(2) 羊厥孫(2) 如字鄭作遜

(1) 积文同、阮本作「欲」。
(2) 积文同、阮本作「汎」。

17 以燕翳 生民第廿四 (1) 卷十七 大雅二

(1) 原缺末一筆、諱避。

18 姜嫄 原故推(1) 春克禋仁以弗妃郊禘(1) 杯木弓鞬(1) 杜言祓

(1) 原誤作「祺」。

19 勿妃敏拇(1) 母賈遠(1) 止住(1) 重誕彌卑如達(2) 湯割不圻(2) 董宅反說不

(1) 原誤作「心」。
(2) 积文同、阮本作「拆」。

20 副(1) 無(1) 蕃(1) 來則誕寅(1) 正之隘(2) 厄牛腓(2) 非扶(3) 誕朝(3) 張遙反或鳥

(1) 阮本作「蕃」。
(2) 按生民三章「牛羊腓字之」、疑此當為「羊」、暫仍之。
(3) 阮本积文俱作「寅」。

21 覆(1) 敷(1) 藉慈(1) 呱(1) 工胡說文單徒訃(1) 暉(1) 薄(1) 匍(1) 匍(1) 北蒲(1) 嶺牛(1) 識別

22 謁(1) 謁(1) 魚(1) 荏(1) 甚(1) 茄(1) 蒲(1) 穰(1) 旬(1) 幪(1) 弄(1) 嗒(1) 孔(1) 連(1) 弗(1) 種(1) 之朱

(1) 案生民四章「藪之荏荏荏荏茄茄」、「疑「」」當為「荏」。今暫仍之。

23 實(1) 褒(1) 秀(1) 穎(1) 營(1) 餅(1) 說文邠(1) 湯(1) 拒(1) 其(1) 杯(1) 美(1) 廩(1) 莫(1) 昆(1) 反郭云(1) 芑(1) 己(1)

(1) 原似「梁」、當訂「一」。

- (1) 此是為「敦」注音、疑當作「敦弓」上彫音、今暫仍之。
 (2) 阮本积文俱作「蕝」。
 (3) 正字通云「俗齧字」。
 (4) 原作「賁」。

31 注云覆序點之揚鱣征莫報蓋僅奇疊反廣既勾古既挾⁽¹⁾

- (1) 阮本积文俱作「句」。

32 箋協反說文搢晉一个剛賀已徧補醕辱大斗鍾之專庚音主又⁽¹⁾
 云持也又子合反見醕主大斗鍾庚反二音同⁽²⁾

- (1) 「之」字不明何義、疑本是配「庚」之反切上字、後因其為開口、以合口字
 「專」換之耶？存疑。
 (2) 原誤作「庚」。

33 有醇殊唇反台皆湯維祺其既醉惠施跋歸胙素俶尺⁽¹⁾

- (1) 阮本作「俎」。

34 暇皆雅施及上盈之壺⁽¹⁾
云苦本反尔雅榘⁽²⁾
本苦倣義直天被義皮附着直釐⁽⁴⁾

- (1) 积文同、阮本作「壺」。

- (2) 阮本同、积文作「榘」。

- (3) 阮本积文俱作「致」。

- (4) 阮本积文俱作「著」。

（鳥驚驚）

35 之力 鳧凡驚燕馨顯品齊前來為營在渚章湑息

36 之泐箋音濟礼濼毛存東反瘞英膏音門莫昆熏君暉芬文芳⁽¹⁾

- (1) 阮本积文俱作「壹」。

37

假樂上行嫁反 保右于抑 英(1) 匪解(2) 耿堅 氣香

- (1) 原作明母「莫」、与影母「抑」不合、故訂「—」。
- (2) 阮本积文俱作「不」。

38

公劉將漑力迺 迺羊 裹果糧力 藥湯囊乃 輯慈威揚

39

亦反倉啓行 下銕于 獻(1) 牛韓邊 冷琫 補滂 貽七 俾并乃依 衣毛

- (1) 阮本同、积文作「獻」、积文「本亦作—」。

40

鄭辰 應乃造念 匏彭 搏豕 上補 媛奴 三單當 度徒 卒子 鍛

41

亂夾其上 洽皆 潤晏 邇速 芮辱 銳(1) 鞫(2) 六又 隕又 烏報 洞酌 上玄 潦(3) 道郎 餽甫 云

- (1) 阮本积文俱作「鞫」。
- (2) 阮本同、积文作「澳」、积文「字或作—」。
- (3) 原誤作「潦」。

42

饘尺 韶力 救反尔 雅餽 餽餽 稔也郭璞云 疊(3) 回慨 剛(2) 清秦 卷阿 達上

- (1) 按今本爾雅郭注云「今呼饘飯爲饘、饘熟爲餽」、此处「飯」疑「餽」之誤、暫仍之。
- (2) 原作「孰」。
- (3) 阮本积文俱作「漑」、「—」或疑「漑」之誤、暫仍之。

43

員(1) 票風上毗 則猥烏伴毛普 半反 奂毛呼 亂縱式 箇(2) 在由又

- (1) 积文同、阮本作「飄」。
- (2) 阮本同、积文作「施」、积文「本又作弛」。

44 字反彭 弗毛弗 鄺被 有馮 米皮 豫撰 狀顯 凶元 印我 令聞

(1) 原作「販」誤。

(2) 原從「禾」誤。

(3) 阮本同、积文作「饌」、积文「本亦作」。

45 糞亡 翻會 藹呼 哀蓋 亦傳 凡撫 擾而 秦連 孔反 又

(1) 阮本作「無」。

46 民勞 重數 雙捉 紆美 宄氣 乞香 反乞 幾衣 動詭 京毀 慘不 上念

(1)

(1) 「氣不」應是「或讀作香氣反、非也」之意。參看64行註(2)。

(2) 原作「諫」、蓋是涉上文「詭」而誤也。积文同、阮本作「督」。

47 遠能 乃登 鄺代 恆交 拏謹 况誹 荒拏 瓜交 反又 王休 歆以 近其 小揭 卿列

48 泄盈 繆遣 綖丘 敷六 玉女 汝板 凡扶 卒子 殫當 早話 宏蹶

(1)

(2)

(1) 原作「汝」、則不用注「汝」、今依阮本訂「一」。

(2) 阮本同、积文作「憊」。积文「本又作」。

49 衛京 泄以 世沓 徒羊 跽五 高反 尔雅 云警 五薨 儒招 說

(1)

(2)

(1) 积文同、阮本作「憊」。

(2) 原作莊母「斬」、与曉母「羈」不合、蓋是「一」之訛誤。

50 灌古 躡其 略反 說文 云耄 莫報 稿香 約反 濟細 前夸 快毗 夷頻 耳

51

民殿見尿(1)香伊反尔雅云申也孫茂(2)迷燠(3)况(4)云簾(3)離孔易(4)羊辟

(1) 「辟」积文「彌耳反」、上声。廣韻「綿婢切」、亦在上声。平声「」疑上声

「婢」「俾」等之誤。今暫仍之。

(2) 原缺末一筆、諱避。

(3) 原誤作「石」。

(4) 阮本同、积文作「僻」。

52

僻立辟毗易(1)益(2)下盈歧(3)擊尺价人上庚(4)拜袁甫垣于翰恒遊

(1) 阮本同、积文作「庠」、积文「本又作」。

(2) 阮本积文俱作「藩」。

(3) 原作泥母「南」、与幫母「蕃」不合、故訂「」。

53

衍(1)戰羊蕩之什第廿五 卷之十八 大雅三 之辟并多

(1) 阮本同、积文作「羨」、积文「本或作」。

54

辟僻駿峻(1)謚市是培蒲沿湯倨已(2)懟直類反說攘章而祝又之

(1) 积文同、阮本作「峻」。

55

詛側(1)魚彭休(2)虎交反彭亨孝健建無背(3)蒲陪蒲涵善沉直

(1) 原誤作「誼」。

(2) 阮本积文俱作「然」、參看註(3)。

(3) 原作「休」、与上文「休」重複、依阮本等訂作「」。或疑上文「休」当訂

「然」、而此「休」当仍之也。今暫訂如此。

56

式號胡荒蜩唐蟬市輓央内吳(1)平秘反亦覃徒人

57 忤⁽¹⁾ 忤成勢反 陟張 戶沛補之揭 京撥末仆 豆沛拔 八彭揭

(1) 原從「巾」誤。阮本作「忤」、积文作「忤」。

58 見 刑折傷⁽¹⁾ 設反 常 抑⁽²⁾ 英皆詳 羊⁽³⁾ 詰人⁽³⁾ 上討于凶 謨莫荒湛

(1) 此下原有一字似「常」、衍字、今刪之。

(2) 阮本作「佯」。

(3) 积文同、阮本作「哲」。

59 都南 克共 快洒⁽¹⁾ 生買一 掃桑老反⁽²⁾ 廷田經 灑生用 遏天歷反 鄧侯

(1) 阮本同、积文作「埽」。

(2) 积文同、阮本作「庭」。

60 度同 各話 還玷⁽¹⁾ 鐔良 庶母 易盈 捫門 不離⁽²⁾ 市由 胛⁽³⁾ 甲翁 急歎

(1) 阮本积文俱作「無」。

(2) 阮本积文俱不見此字。按箋文「皆翁肩詔笑」、疑此卷所拋之一本「肩」作「肩胛」也。但下行有「肩詔」与此不合。存疑。

(3) 阮本作「脇」、积文作「胎」。

61 肩詔 勸笑⁽¹⁾ 孟子曰 翁肩詔 笑病於夏 畦言 相在上 息於屋 鹿

(1) 阮本作「于」。

62 泓角⁽¹⁾ 而屏 扶矧⁽²⁾ 式可 駢羊 辟毗⁽³⁾ 卑臧 婢上并不 譖⁽⁴⁾ 創林反 猶摘⁽⁵⁾

(1) 阮本作「靡」、积文作「屏」。

(2) 阮本积文俱作「射」。

(3) 阮本作「俾」。

(4) 积文同、阮本作「僭」。

(5) 阮本作「擲」、积文作「擿」。

63 直虹工潰胡潰續武諧祖於鳥乎呼臧否冰提田擲今星借日

- (1) 阮本作「僭」。
(2) 积文同、阮本作「呼」。

64 上將而莫暮⁽¹⁾
崩不諄朱藐萌取辟譬⁽³⁾
必容遙

- (1) 原作「莫」当誤。拋积文「音暮」改。
(2) 「崩不」应是「或讀作莫崩反、非也」之意。參看46行註(1)。
(3) 阮本作「譬」。

65 桑柔芮
文犀銳反說苑勿雍侯旬均須捋盧其劉力癘莫爆苞

- (1) 此是「句」之訓義、原在「侯」下非也、今正之。

66 欒郎柔濡辱充人芘并至反於暴蒲倉亮楚兄况填直伸都角驂驂

- (1) 阮本积文俱作「庇」、积文「本亦作」同。
(2) 阮本作「爆」。
(3) 原作先韻「憐」、先韻不与澄母「直」結合、故訂「」。积文「音塵」亦与「直」相合。

67 追權不泯民名以盡慈止疑癡梗皆天俚寔瘡武圍呂言愆兵

- (1) 积文同、阮本作「燼」。

68 兄况灌植宋優愛進云上八稼穡鄉家作喝烏峇反郭也食人

- (1) 阮本作「況」。
(2) 阮本积文俱作「邇」。
(3) 阮本积文俱作「莽」、积文「字又作」。
(4) 阮本同、积文作「家」。
(5) 积文同、阮本「食」下有「於」。

69 詳莫 侯羊 伺(1) 工土 贅朱 肉起 穹弓 其相 息毛 羊息 牲生 大風 上太 隧遂

(1) 阮本积文俱作「伺」。

70 中垢 剛厚 悖補 嚇呼 炙之 善背 佩善 冒智 力
雲漢遇裁才則

(1) 阮本积文俱作「赫」、积文「本亦作」。

71 早悵 康(1) 蓋文 葑文 鬱煙 也(2) 徒東 反又 瘞英 耗呼 敦東 可推 土雷

(1) 积本同、阮本作「渴」。
(2) 阮本积文俱作「蘊」、「」恐是「蘊」之訛、暫仍之。

72 霆田 有子 列勁 不相 息于 摧毛 存雷 鑣作 可沮 慈炎 釅滌

73 滌田 歷(1) 早魑 人蒲 末反 薛綜 云(1) 魑鬼 如惓 唐(1) 扶(1) 心憚 毛當 佐(1) 反(1)

(1) 加旁線之字原卷有鐵紋、由影片幾不可讀、今依小川環樹博士一九六四年在巴里臨抄原卷之筆記補之。

(2) 此引毛詩答雜問（吳·韋昭朱育等撰）也。藝文類聚卷一百引云「魑鬼人形眼在鼎上」、太平御覽卷三百六十四引云「旱鬼眼在頂上」、疑此殘卷所引「頭」當訂「頂」、暫仍之。類聚御覽所引俱不言「薛綜云」、然生民「先生如達」下正義引云「薛琮答韋昭曰……」、此殘卷所引亦必有所撾耳。

74 熏暉 遜徒 瞋名 癩丁 年反 廣雅 云狂 慥念 鞠六 疚恭 趣馬 上忿 走反

(1) 积本同、阮本作「薰」。

75 不秣 莫達 弛式 瞻仰 言(1) 何瘡 里(2) 嘒血 昭(3) 假毛 皆客 反羸 延延 崧崧

(1) 原誤從「貝」。

(2) 阮本积文俱作「里」、积文「本又作」。

(3) 原又似心母「四」、當讀曉母「」也。积文「呼惠反」与此合。

76 高⁽¹⁾
息戎駿須懷翰安于藩⁽²⁾
袁甫訓夏雅贖食壺亡續管命

(1) 原以細字書之。此當為標目之大字、由下文「上」可證、今正。按「崧」字有「高」訓、因致混淆也。
(2) 阮本积文俱作「蕃」。

77 傅付俶尺躡⁽¹⁾其樊蒲車乘證食往近意反姜錢箭鄺眉省生粮

78 良珍令廬力委英偽反積子潰又番⁽¹⁾補摩暉湯揉而又聞于⁽²⁾上亡肆

79 四 蒸民⁽¹⁾彝盈昭假皆樊扶⁽²⁾喉⁽²⁾若否久甫茹仁濡辱

(1) 阮本积文俱作「燕」。
(2) 阮本作「侯」。

80 脆⁽¹⁾取侮矜鰥⁽¹⁾輶羊衰古言樂顏犯較朋偃兵隘厄濇側

(1) 阮本积文俱作「霽」。
(2) 阮本积文俱作「逼」、积文「本亦作」。
(3) 阮本积文俱作「蓄」。

81 韓奕⁽¹⁾羊夏陽雅上行騷桑甸毛庭見反虔共⁽¹⁾毛音拱不易羊幹⁽²⁾

(1) 原誤作「虎」。
(2) 阮本积文俱作「韓」。

82 旦剛奉享與球⁽¹⁾求玲力瑯⁽²⁾郎玕⁽³⁾干淑旂反勤衣綏毛仁佳茆弗錯

(1) 阮本积文俱作「珍」。
(2) 阮本积文俱作「琳」、积文「字又作」。
(3) 阮本积文俱作「琅」。

83 忿 爲石息 鉤 古 郭 苦 弘 苦 淺 幘 迷 篳 田 蠋 蜀 音 郭 璞 云 蔽 袂 并

(1) 阮本同、积文作「囑」、积文「爾雅作」。

84 藩 甫 揜 晏 屠 同 魚 彭 蔎 蘇 木 反 郭 璞 云 筍 須 有 且 七 汾 扶 藩 袁 揜 革 屠 胡 交 蔎 菜 茹 之 揜 名 尹 余 云

85 蹶 京 父 甫 比 夷 類 百 兩 障 量 將 羊 七 娣 庭 祁 成 姑 乙 奇 韓 樂 郎 衛 甫 比 夷 類 百 兩 障 量 將 羊 七 娣 庭 祁 成 姑 乙 奇 韓 樂 郎

(1) 积文同、阮本作「鏘」。

86 訐 訐 羽 鷹 牛 於 嘆 元 羽 又 黑 彼 貓 萌 溥 傍 補 豹 萌 壑 諄 各 反 尔 雅 云 作 嘆 皮 貓 萌 溥 傍 補 豹 萌 壑 諄 各 反 尔 雅 云

(1) 原誤作「罷」。

(2) 疑当作「包」、蓋涉上字与右字誤作「」。

(3) 「」並母、与「溥」為滂母不合、疑「」或是「滂」之誤。今暫仍之。

(4) 阮本同、积文作「豹」。

87 池 貌 類 夷 反 尔 疋 云 白 狐 也 郭 江 漢 滔 湯 来 鋪 于 湯 式 也 貌 璞 云 一 名 執 夷 虎 豹 之 属 江 漢 滔 湯 来 鋪 于 湯 式

88 洸 光 傳 中 遽 據 辟 毗 甸 毛 松 筍 反 釐 之 卣 羊 常 武 繹 洸 光 傳 中 遽 據 辟 毗 甸 毛 松 筍 反 釐 之 卣 羊 常 武 繹

89 石 皇 父 甫 有 嚴 毛 宜 檢 鄭 牛 凡 匪 紹 毛 成 沼 鄭 尺 遙 非 解 耿 如 霆 田 闕 孝 旭 石 皇 父 甫 有 嚴 毛 宜 檢 鄭 牛 凡 匪 紹 毛 成 沼 鄭 尺 遙 非 解 耿 如 霆 田 闕 孝 旭

(1) 疑或当作「檢」、「」檢音同、暫仍之。

(2) 原作一等「惑」、与二等「闕」「孝」俱不合、故訂「」。

90 虎 交 反 鋪 妃 于 敦 毛 都 溫 鄭 作 漬 文 截 前 暉 湯 摯 二 虎 聲 也 鋪 反 妃 于 敦 毛 都 溫 鄭 作 漬 文 截 前 暉 湯 摯 二

(1) 此上原有一字似「郭」、蓋是誤書「敦」耳、今刪之。

(2) 原無此字、而左行「也」字作「毛」。今拠积文「王申毛如字……鄭作也徒門反」訂補。

91 瞻仰填直隣側介孟侯莫密古廖勅瘵容主拘于恭懿應鼻古聰曉

(1) 阮本积文俱作「印」。

(2) 阮本同、积文作「蚌」、积文「本又作」。

(3) 阮本作「瘵」。

92 尺征伎愿得湯如賈工倍蒲朱紘壞奉種朱以吏詳人繆素介

(1) 阮本积文俱作「纁」、积文「本亦作」。

93 狄毛天歷反瘁泉幾勤并膚弗檻下先星後胡藐容角輩

94 俱忝天邵晏靡丁毛工榑角靡共恭潰胡通容鼻奉

(1) 阮本积文俱作「召」。

95 刀詛將容主孔填直隣甚隊淚不潰毛胡憤反鄭作棲星苴刀

(1) 阮本同、积文從「𠂔」。

(2) 原作「毛」、拋积文改。

96 狀沙反稿老苦之疚恭彭羈郎達反倉韻篇之醉色鑿祖自洛

(1) 原作來母「林」、与崇母「苴」不合、故訂「」。

(2) 阮本积文俱作「率」、积文「字又作」。

二 音 注 総 表

表 例

1. P. 3383 残巻に含まれる音注（反切及び直音その他）を、切韻方言の音韻体系に従って作った表の中に配置して示す。表例はすべて S. 2729 残巻の場合に準ずる。（pp. 62-64 参照）

2. 46 行「汔 香乞反氣不」および 64 行「夢 莫用崩不」における「氣不」「崩不」は、各々の校註で記したように、「香氣反」「莫崩反」の音に讀むのは非である、の意と解される。これらは「香氣反」「莫崩反」として（これらの反切で表わされる讀音がたとえ誤りにせよ存在したものとして）表に列する。

I 類

通 攝

	東	董	送	屋
幫		通孔 °嗒 22 奉 45 補孔 琫 39 蒲孔 葦 45		
並 明	蒲工 逢 14 芒工 朦 14		莫弄 °幪 22	蒲屋 暴 66
透 定	土工 恫 2 侗 69			杜屋 觸 18
從 心	存東 °漆 36			蘇木 萩 84
見 影 匣	古洪 °缸 94 胡工 虹 63 缸 94			烏鹿 屋 61

	冬		宋	沃
定	徒東(1) °蟲 71			
曉				荒哭(2) 矯 50

(1) 「東」東韻字。「蟲」東韻C類字。積文「直忠反，徐徒冬反……，郭又徒冬反」，今依徐音郭又音配此。

(2) 「哭」屋韻字。

遇 攝

	模 合	姥 合	暮 合
滂 並 明	薄哺 匍 21 莫逆 謨 53	滂補 溥 39 傍補 °溥 86	[暮] °莫 64
端 定	同胡 屠 84		東路 斃 71
清 從 心	存都 徂 9		忿故 錯 83 存素 昨 88 速故 邇 41 宋故 愬 68
見 影 曉 匣	工胡 呱 21 [烏] 於 63 [呼] °乎 63	[古] 畧 91 工戶 賈 92 洪古 祐 9 [戶] 扈 9 57	荒故 °呼 56

蟹 攝

	哈 開	海 開	代 開
透 泥	湯來 郇 ²³ 台 ³³ 飴 ³³	[乃] 迺 ³⁸	能代 能 ⁴⁷
精	則來 薑 ²⁰ 則才 裁 ⁷⁰		
見 影 曉		黑改 醞 ²⁹	剛慨 概 ⁴² [愛] 優 ⁶⁸

			泰 開
透			[太] °大 ^{1 27 69} 忒 ⁵⁷
溪 影			康蓋 惕 ⁷¹ 哀蓋 藹 ⁴⁵

	灰 合	賄 合	隊 合
幫 並 明	蒲來 陪 55 木杯 祿 18	蒲賄 倍 92	補佩 °悽 70 蒲輩 背 55 〔佩〕 背 70
透	土雷 推 71		
來	盧回 鼻 42		
精 從	祖雷 嘴 72 存雷 摧 72		
影 匣		烏罪 猥 43	胡憤 潰 63 94 95

			泰 合
幫 並			補蓋 沛 57 蒲外 °拔 7 蒲蓋 旆 22
定			徒外 兌 8
曉			呼會 翹 45

臻 攝

	魂 合	混 合	恩 合	沒 合
幫 明	補門 奔 30 莫昆 °糜 23 齋 36 〔門〕 齋 36 捫 60			
端 定	都溫 敦 28 90 徒溫 屯 90		徒頓 遞 74	
精 心	〔如字〕 孫 16			子忽 卒 40
見 溪	古溫 °混 7	古本 袞 80 苦本 臺 84 捆 84		

山 攝

	寒 開	旱 開	翰 開	曷 開
端	當安 單 40	當旱 °瘴 48 [壹] °俾 69		
透	湯丹 嗶 79 90		唐旦 憚 73	湯割 °達 19
定				
來				郎達 綱 96
見	[干] 玕 82		剛旦 幹 82	
溪	肯寒 刊 7			
匣	恒安 翰 52 76		恒案 翰 16	

	桓 合	緩 合	換 合	末 合
幫 滂 並 明	蒲安 °樊 77		普半 °伴 43 蒲半 畔 8 伴 43	補末 撥 57 蒲末 拔 9 較 26 𪔐 73 朋葛 較 80 莫達 林 75
端 定 泥	徒官 敦 25 徒桓 敦 28	奴管 媛 40	東乱 鍛 41	
来				盧活 拊 65
精		祖管 纘 76		
見 曉 匣			古乱 觀 12 灌 50 呼乱 奂 43 胡乱 °奂 43 胡喚 °援 9	

効 攝

	豪	皓	号
明			莫報 毫 31 50
透	湯高 滔 54 87		
来		郎道 潦 41	郎到 勞 1
清 心	桑勞 騷 81 素勞 繆 82	桑老 掃 59	慫到 °造 40 [去音] °掃 59
見 溪 疑 影 曉 匣	古刀 皐 95 五高 髡 49 髡 49 胡高 號 56	苦老 稿 96	烏報 喚 41 呼到 耗 71

果 攝

	歌 開	哿 開	箇 開
端 定	唐何 鼉 14		當佐 〇 憚 73
見			剛賀 个 32

	戈 合	果 合	過 合
幫	補摩 番 78	補我 簸 25	
見		[果] 裹 38	

宕 攝

	唐開	蕩開	宕開	鐸開
幫 明				補各 搏 40 〔莫〕 瘼 65
透 定 泥	〔唐〕 蟬 56 乃郎 囊 38			湯洛 橐 38 唐各 度 4 徒各 度 40 同各 度 60
來	〔郎〕 瑯 82			郎各 藥 14 85 ° 爍 66
精				宰洛 作 4 則落 漿 25 祖洛 鑿 96
疑 曉	我剛 印 27 44			岸各 罽 29 誨各 壑 86

	唐合	蕩合	宕合	鐸合
見 溪 匣	〔光〕 泚 88			苦霍 °郭 4 苦郭 郭 83 胡郭 穫 24

流 攝

	侯	厚	候
並 明	蒲侯 培 54	[母] 拇 19 牡 26	
精 清 心	子棲 諏 27	忿走 趣 74 蘇走 瞋 14	
見 匣	古侯 鈎 10 83 [侯] 鉤 30 喉 79	工厚 耆 27 剛厚 垢 70	古豆 勾 31 胡豆 後 93

曾 攝

	登開	等開	嶝開	德開
透 泥	乃登 能 47			湯得 愿 92
見			剛鄧 亘 24	

	登合	等合	嶝合	德合
並 明	莫崩 °夢 64			蒲北 匍 21
溪	苦弘 鞞 83			

咸 攝

	覃	感	勘	合
端	都南 湛 59	土感 鹽 29		
透				
定	徒南 覃 21 56			徒苔 沓 49
精		忿感 慘 46		子合 °挾 32
清		憐 74		
影		胡感 °腦 29		烏苔 喝 68
駟				

	談	敢	闕	盍
定	唐甘 談 73			

II 類

江 攝

	江	講	絳	覺
幫 明				苞角 爆 65 萌剝 藐 64 盲角 藐 93
知 澄				都角 倬 66 (1) 竹角 稼 94 憧角 濯 13 撞角 濯 68
生				雙捉 數 46
影 匣				泓角 °屋 62 懷角 嚮 13

(1) 「都」端母字。

蟹 攝

	皆 開	駭 開	怪 開
莊	側皆 齋 1		側介 療 91
見			庚拜 价 52

	佳 開	蟹 開	卦 開
並			彭賣 裨 96
生		生買 洒 59	[去音] °洒 59
見 影			耿賣 解 37 89 厄賣 陰 20 厄介(1) 陰 80

(1) 「介」怪韻字。

	佳 合	蟹 合	卦 合
匣			宏賣 畫 14

			夬 合
匣			宏快 話 48 還快 話 60

山 攝

	刪 開	灣 開	諫 開	鐸 開
並		彭板 版 44		
見			皆晏 澗 41	

	山 開	產 開	禪 開	黠 開
莊		側產 酸 29		彭八 拔 57

	刪 合	灣 合	諫 合	鐸 合
見			瓜患 串 7	

	山 合	產 合	禪 合	黠 合
見	〔鰥〕 °矜 80			

效 攝

	肴	巧	效
並 明	彭交 匏 40 魚 55 84 萌苞 貓 86		
娘	拏交 倣 47 諂 47		
疑 曉	虎交 °休 55 姚 90		顏孝 樂 12 37 80

假 攝

	麻 開	馬 開	禡 開
明			萌禡 禡 ¹¹
崇	牀沙 苴 ⁹⁶ 在加 ⁽¹⁾ 苴 ⁹⁶		
見	皆牙 °假 ³	皆雅 假 ³ 75 辟 ²⁹ 嘏 ³⁴	
疑			顏嫁 °御 ²
曉			呼嫁 嚇 ⁷⁰
匣	行家 瑕 ³	行雅 夏 ¹⁰ 76 81	行嫁 °假 ³⁷

(1) 「在」從母字。

	麻 合	馬 合	禡 合
溪	快瓜 夸 ⁵⁰		
曉	荒瓜 °譌 ⁴⁷		
匣			懷化 華 ⁷⁶

梗 攝

	庚 開	梗 開	敬 開	陌 開
明				萌百 𧄸 8 萌伯 𧄸 86
徹 澄				薑宅 𡗗 19 棖白 𡗗 3
生		生耿(1) 省 77		
見 曉 匣	孝庚 亨 55 下庚 行 89	皆杏 梗 67		皆客 假 75 79

(1) 「耿」耿韻字。

	耕 開	耿 開	諍 開	麥 開
幫	八耕 °迸 68			
影				晏革 搯 84

	耕 合	耿 合	諍 合	麥 合
見 匣	壤泓 紘 92			瓜獲 𧄸 11

咸 攝

	咸	賺	陷	洽
見 曉		孝減 爾 89		皆洽 夾 41

	銜	檻	鑑	狎
生	生銜 菱 26			
見 匣		下斬(1) 檻 93		[甲] 胛 60

(1) 「斬」賺韻字。

IV 類

蟹 攝

	齊 開	青 開	霽 開
滂			普計 娘 7
端 透 定 泥	丁兮 甄 26 天兮 梯 10 田兮 提 63	年礼 °泥 28	天帝 °剔 5 庭帝 娣 85
来			零計 戾 12
精 從 心	星兮 撕 63 棲 95	濟礼 涉 36	前細 齊 35 憐 50
影	燕兮 鷺 35		宴計 翳 6

	齊 合	青 合	霽 合
曉			血惠 噤 75

山 攝

	先 開	銑 開	霰 開	屑 開
幫 明			補見 °偏 8 32	迷結 蔑 51
端 定	丁年 寢 74 94		丁見 殿 51 庭見 甸 81	
從 心		桑顯 洗 29	星見 先 93	前結 截 90
疑				藝列 ⁽¹⁾ 榮 30 〔嚙〕 榮 30
影 匣			霧見 燕 17 刑殿 見 58	

(1) 「列」 薛 韻字，上字「藝」屬A類。

効 攝

	蕭	篠	嘯
端 定	〔彫〕 °敦 30 丁堯 °敦 30 田堯 跳 1 °蛸 56 簫 83		
見	古堯 梟 91		

梗 攝

	青 開	迴 開	徑 開	錫 開
幫 明		邊冷 韓 59		迷歷 °幪 83
透				天歷 剔 5 邊 59 °狄 93
定	田經 廷 59 田丁 霆 89	田鼎 霆 72		田歷 滌 73 狄 93
清				倉亦(1) 戚 39
心				先歷 浙 25
曉	顯丁 馨 35			

(1) 「亦」昔韻字。

	青 合	迴 合	徑 合	錫 合
匣	玄駟 °洞 41			

咸 攝

	添	忝	栎	怙
端 透		丁簞 玷 60 天簞 忝 94		
精			子念 譚 62 祖念 譚 63	箋協 °挾 31
影		燕簞 槩 6		

A・B・AB類

止 攝

	支 開	紙 開	眞 開
幫 A 滂 A 並 A 明 A	頻卑 脾 29 民卑 彌 19 °弭 51	并婢 俾 39 卑 62	〔譬〕 °辟 64
章 書 羊		式是 弛 43 式氏 弛 75	正鼓 寘 20 征鼓 解 31 伎 92 式鼓 施 33 盈鼓 施 1 8 34 易 8 52 60
精		將此 訛 95	子漬 積 78
澄 來	直離 篋 51		力智 譽 70
生		生綺 澀 59	
幫 B 並 B	彼皮 罷 66		皮義 被 34

	脂開	旨開	至開
幫 A 並 A	頻夷 毗 50 比 85 貌 87	并里(1) 比 8	并至 莖 66 頻至 比 30
群 A 曉 A	翹夷 °耆 4 香伊 °尿 51		
章 昌 常 羊	尺尸 鴟 92 尺支(2) 鴟 1 成尸 °祁 85 盈尼 彝 79		眞二 摯 90
心			〔四〕 肆 79
澄			直義(3) 倣 34
來	力之(4) 梨 27		力致 莅 26 洩 38
幫 B 滂 B 並 B 明 B	〔眉〕 瞞 77	氷美 °否 63 丕美 胚 28	兵翼 莖 67 平秘 吳 56

(1) 「里」止韻字。

(2) 「支」支韻字。

(3) 「義」寘韻字。

(4) 「之」之韻字。

	支 合	紙 合	寅 合
見 B 影 B 匣 B		京毀 僂 11 詭 46 〔如字〕 委 78	英僞 °委 78 榮僞 爲 35

	脂 合	旨 合	至 合
昌 日	春隹 推 18 仁隹 綏 82		
從 心 邪	苟隹 綏 82		泉粹 瘁 93 旬醉 穉 22 〔遂〕 隱 69
澄			直類 對 54 傳淚 °隊 95
生			色醉 擘 96
見 B 溪 B 群 B	權追 駢 67	馨美 宄 46	困匱 楨 6

蟹 攝

			祭 開
幫 A 並 A			并袂 蔽 83 毗袂 弊 6
疑 A			魚制 羈 22
昌 常 羊			尺世 掣 52 成勢 忭 57 盈世 泄 48 以世 泄 49
来			良滯 厲 2 力滯 刳 5
影 B			英憇 虔 36 71

			祭 合
章 日			朱芮 贅 69 辱銳 芮 41 65
清			取歲 脆 80
見 B			京衛 蹶 48 85

臻 攝

	眞開 臻開	軫開	震開	質開 櫛開
幫 A 明 A	名賓 泯 67 〔民〕 泯 67	名忍 黽 74		并蜜 馨 93
影 A	伊仁 禪 18			
書 日		式忍 矧 62	〔刃〕 牴 13	
精 心 從			〔晉〕 搢 32 〔信〕 諷 11 慈進 °盡(1) 67	
澄	直隣 填 66 91 95			
生	生臻 姓 69			
群 B			奇僵 僅 31	奇乙 姑 85
明 B	武斌 緝 63 瘡 67 靡巾 旻 94			

- (1) 此字廣韻徐刃反邪母，周祖謨校勘記云「故宮本敦煌本王韻此字音疾刃反」，「疾」從母字，此卷上字「慈」亦從母、今依王韻反切置此。

	諄合	準合	稭合	術合
見 A	[均] 鈞 30			
章 常 羊	朱唇 諄 64 殊唇 醇 33			容必 通 15 64 94
精 心 邪	須旬 °旬 65 松筍 旬 88	須尹 枸 14 筍 84	須俊 駿 15 76 [峻] 駿 54	子恤 卒 48
来	律旬 論 13			

山 攝

	仙 開	獮 開	線 開	薛 開
明 A			民善 酒 55	
見 A 溪 A		[遣] 繡 48		勁列 矛 72
常 羊	市然 譚 56		羊戰 衍 53	成設 折 28 常設 折 58
從 心	□延 鮮 9	息淺 鮮 9 獮 26	慈箭 餞 77	
知				[哲] 揭 59
來				力哲 列 2
見 B 溪 B 疑 B				京竭 °揭 57 卿列 惕 47 迎竭 藁 11
幫 B				兵竭 別 22

	仙合	彌合	線合	適合
日		辱兇 濡 ⁶⁶ 79		儒拙 燕 ²⁶
知			中戀 傳 ⁶⁸	
崇		狀穢 撰 ⁴⁴		
群 B 匣 B	達員 °卷 ⁴²		于万 ⁽¹⁾ 援 ⁹	

(1) 「万」願韻C類字。

効 攝

	宵	小	笑
並 A	毗遙 票 ⁴³		
章 昌 常 日	尺遙 紹 ⁸⁹ 儒招 蕘 ⁴⁹	之繞 沼 ¹³ 成沼 紹 ⁸⁹ 而沼 擾 ⁴⁵	
知 澄	張遙 朝 ²⁰	直小 肇 ²⁴	
曉 B	歆妖 穢 ⁴⁹		

假 攝

	麻 開	馬 開	禡 開
章 船			之夜 柘 6 食夜 射 2
從			慈夜 藉 21

梗 攝

	清開	靜開	勁開	昔開
幫 A 滂 A 並 A		賓領 并 4		并益 辟 53 〔僻〕 辟 52 54 脾赤 辟 5 毗益 辟 52 62 88
章 常 羊	〔成〕 盛 27 延呈 羸 75	營餅 穎 23		之石 炙 70 羊石 射 2 斲 3 場 38 繹 49 89 易 51 81 𦵏 62 奕 81 〔亦〕 易 52
精 從 心		息領 省 7	秦性 °清 42	子亦 踏 29 將亦 借 64 〔如字〕 積 78 息石 𦵏 83
徹 澄	勅貞 檉 5			直昔 摘 63

流 攝

	幽	黝	幼
曉 B	歆 蚘 °休 (1) 47		

(1) 「休」廣韻在尤韻，十韻彙編所載「切三」「王二」及完本王韻又在幽韻B類，故置此。

深 攝

	侵	寢	沁	緝
常 日	市林 謹 54	仁甚 荏 22	而鳩 任 24	
精 清 從			子鳩 稔 12	七立 緝 28 慈立 輯 38
澄	直林 沉 55			
來	力心 玲 82			
初	創林 譜 62			
曉 B	香今 歆 9			歆急 翕 60

咸 攝

	鹽	琰	豔	葉
章	之廉 °點 81			
徹		勅冉 詔 61		
來				力輒 蹤 28
疑 B 匣 B	榮鉗 炎 72	宜檢 °嚴 89		

曾 擲

	蒸 開	拯 開	證 開	職 開
船 常			食證 乘 77 °旬 81	成力 植 14
知				張力 陟 57
見 疑 影 B	[凝] °疑 67			己力 亟 12 牛力 嶷 21 英逼 抑 37 58
幫 B 滂 B 並 B	皮冰 馮 44			兵側 偪 80 丕逼 副 20

				職 合
曉 B				兄逼 減 15

C 類

通 攝

	東	董	送	屋
昌				尺叔 俶 33 77
精 心	息戎 崧 76			子六 蹶 28
見 溪 影	起弓 穹 69			九六 鞠 41 己六 鞠 74 衣六 隩 41
滂				敷六 覆 48

	鍾	腫	用	燭
章 昌 船 常 羊	春鍾 衝 10 殊容 °漆 36	朱勇 種 92	朱用 種 22	食欲 贖 76 〔蜀〕 °蠲 83 容辱 慾 16
清	促雙 (1) 縱 13			
見 疑 影	〔恭〕 共 9 81 94 元凶 順 44 於容 離 2 〔雍〕 離 2	俱奉 羣 94 〔快〕 °共 59 〔拱〕 °共 81		
明			莫用 °夢 64	

(1) 「雙」江韻II類字

止 攝

	之開	止開	志開
昌 日 羊	〔而〕 柄 6 羊之 詒 16		尺志 鎰 42
邪			詳吏 °食 69 92
来	力之 盞 35 88	〔里〕 羶 75	
莊	側狸 舊 4 滯 80		側吏 °舊 4
見 溪 群 影	〔其〕 祺 33 應其 °懿 (1)91	羌己 莒 16 23	姜意 °近 77 〔記〕 °近 77

(1) 此至韻B類字，此處与「噫」(恨声)通，因讀之韻。积文「於其反」亦合此。

	微開	尾開	未開
群 影 曉	勤衣 幾 46 93 旂 82 〔衣〕 依 39	應豈 依 40 〔展〕 依 40	香氣 氣 1 璧 37 °沔 46

	微合	尾合	未合
匣		于鬼 葦 27	于貴 彙 95
並 明	扶非 腓 20	亡斐 薑 76	扶味 扉 62

遇 攝

	魚開	語開	御開
章 船 日		章汝 渚 35 食汝 抒 25 仁煮 茹 79 〔汝〕 女 48	
清 從 心	七余 且 84	慈呂 沮 72 息与 潁 35	
来	力諸 廬 78		良庶 鑑 60
莊			側助 詛 55
見 溪 群 疑	起居 梔 5	其呂 虞 13 其莒 稭 23 言呂 圉 67	己御 倨 54 其據 遽 88 言據 御 2

	虞合	麌合	遇合
章 日 羊	[如字] 掄 25	專庚 °斗 32 〔主〕 °斗 32 鍾庚 °斗 32 辱主 醕 32 容主 瘰 91 窳 95	朱諭 注 16
精	足須 譟 27		
澄			重注 住 19
見 疑 曉	恭于 拘 91 暉于 訐 21 凶于 訐 58	元羽 曉 86 暉羽 °訐 86	
幫 滂 並	封于 董 25 妃于 稭 24 鋪 87 90 凡夫 鳧 35	〔甫〕 °父 85 89	〔付〕 傅 77 凡付 傅 26 45

臻 攝

	殷開	隱開	焮開	迄開
群 疑 曉			其靳 近 47	言訖 仵 11 香乞 迄 27 汔 46

	文合	吻合	問合	物合
曉 影	暉君 熏 36 74 況云 嫌 51 威文 蒞 71			雍勿 苑 65
幫 滂 並 明	甫云 餉 41 芳文 芬 36 扶文 賁 13 潰 90 扶云 焚 73 汾 84			[弗] °弗 11 22 44 82 °沸 93 妃勿 °弗 18 祓 19 茆 44 [祓] 茆 44 扶勿 拂 11 亡糞 聞 45 76

山 攝

	元開	阮開	願開	月開
群 疑 影		牛偃 嚙 39 央晚 蟬 56	其建 健 55	

	元合	阮合	願合	月合
溪 疑 曉 匣	愚袁 阮 9 〔原〕 嫵 18 况袁 謹 47 于元 援 10 垣 52	丘遠 綫 48		于月 鉞 39
幫 並	甫袁 蕃 52 藩 76 84 扶袁 樊 79			

宕 攝

	陽開	養開	漾開	藥開
昌 書 日 羊	式章 湯 87 而章 攘 5 54 [羊] 詳 58 痒 69		尺上 倡 10	
清 心	七羊 賒 39 °將 85 息羊 相 69		息亮 相 30 61 69 72	
知 澄	珍良 根 78	珍兩 長 10		直略 着 34
來	力張 糧 38		量障 兩 85	
初			楚亮 °倉 66	
群 疑 曉		言兩 印 75 [仰] 印 75 興兩 享 82		其略 朦 29 蹻 50 77 香約 嬌 50

	陽合	養合	漾合	藥合
見 曉 匣			[況] °兄 66 68 于誑 王 8 15	誑削 ⁽¹⁾ 矍 30 [鏤] 矍 30
明		無往 罔 1		

(1) 「削」藥韻開口字。

流 攝

	尤	有	有
章 常 日 羊	市由 𪛗 60 而周 蹂 25 羊周 揄 25	羊首 轡 80 𪛗 88	之又 祝 54 市救 °𪛗 60 而又 揉 78
精 從 邪	即由 °會 43 在由 會 43		詳秀 𪛗 23
徹	勅紬 瘳 91		
來	力周 劉 65		力救 箇 42
生	色流 洩 25		
見 群 影 匣	[求] 球 82 衣牛 麤 13 於牛 麤 86		恭又 疚 74 96 于救 固 12 右 37
幫		甫久 否 79	
滂 明	莫侯 (2) 𪛗 69 91 [牟] 眸 15		敷茂(1) 覆 21 芳豆(1) 仆 57

(1) 「茂」「豆」候韻 I 類字。

(2) 「侯」侯韻 I 類字。

咸 攝

	凡	范	梵	乏
滂 並	扶嚴(1) 凡 48		敷釵 汜 16	

(1) 「嚴」嚴韻字。

	嚴	儼	醞	業
疑	牛凡(1) 嚴 89			

(1) 「凡」凡韻字。

三 反 切 上 字 表

表 例

1. P. 3383 残巻にあらわれる反切上字を、その韻母により分類し、それを更に声母ごとに分けて表示する。表例は次の点の他はすべてS. 27 29残巻のそれによる。(pp. 116—118参照)

2. 韻母排列の順序において、鐸開韻を唇音 E 属に加え表では単に「鐸 入」と記す。その音価が本論において /-auk/ と推定される故である。(沃韻/auk/は屋韻/ɔuk/に合していたと見られる。)

3. 次の反切は、それがあらわしたじっさいの音にしたがって、その韻母を変更する。

反	切	反 切 総 表	反 切 上 字 表
莫侯	蝨 69 91	C類尤韻	I類侯韻 (侯 平)
于万	援 9	B類線韻合口	C類願韻合口 (元合去)
藝列	榮 30	IV類屑韻開口	A類薛韻開口 (薛開入)
倉亦	戚 39	IV類錫韻開口	AB類昔韻開口 (昔開入)

I 類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	逆- 模 平	溪	東	上	2
	補- 模 上	溪 並 見開 明 明 疑開 見開 見開	東 灰 泰 魂 末 戈 戈 鐸 先	上 去 去 平 入 平 上 入 去	2 IV
滂	普- 模 上	幫 見開	桓 齊	去 去	IV
	滂- 唐 平	幫	模	上	
並	蒲- 模 平	匣 見 溪 影 来開 曉合 幫 見開 疑合 影開 幫	侯 東 東 屋 灰 灰 灰 泰 泰 桓 桓	平 平 上 入 平 上 去 去 去 平 去	2

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		明 幫	末 德	入 入	3
	傍- 唐 平	幫	模	上	
	薄- 鐸 入	幫	模	平	
	朋- 登 平	見開	末	入	
明	木- 屋 入	幫	灰	平	
	芒- 唐 平	見	東	平	
	莫- 鐸 入	幫	豪	去	2
		匣	侯	平	2
来		東	去		
幫		模	平		
端	當- 唐開平	見合	魂	平	2
		定開	末	入	
		幫	登	平	
		羊	鍾	去	C
端	當- 唐開平	影	寒開平		
		匣	寒開上		
端	當- 唐開平	精	歌開去		
		来	模合去		
端	東- 東 平	来	桓合去		
		来			

声母	上字 上字韻母	下字 声母	歸字 韻母	歸字 類	反切 のべ 数
	都一 模合平	泥 影 見	覃 平 魂合平 覺 入 II(知母)		2
透	湯一 唐開平	来 端 見 端 来 見	哈開平 寒開平 曷開入 德開入 鐸 入 豪 平		3 2 2
	土一 模合上	見 見 来	覃 上 東 平 灰合平		2
定	唐一 唐開平	匣 端 見 見	歌開平 寒開去 談 平 鐸 入		
	同一 東 平	見 匣	鐸 入 模合平		
	徒一 模合平	見 泥 端 端 疑 影	鐸 入 覃 平 合 入 冬 平 泰合去 魂合平		2

声母	上字 上字韻母	下字 声母	歸字 韻母	歸字 類	反切 のべ 数
		端 見 匣	魂合去 桓合平 桓合平		
	杜一 模合上	影	屋 入		
泥	乃一 哈開上	来 端	唐開平 登開平		
	能一 登開平	定	哈開去		
	奴一 模合平	見	桓合上		
来	郎一 唐開来	定 見 定 端	曷開入 鐸 入 豪 上 豪 去		3
	盧一 模合来	匣 匣	灰合平 末合入		
精	宰一 哈開上	来	鐸 入		
	則一 德開入	從 来 来	哈開平 哈開平 鐸 入		
	祖一 模合上	来 来 見 泥	鐸 入 灰合平 桓合上 添 去 IV		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
清	倉一 唐開平	羊	昔開入 AB		
	忿一 東 平	端 見 精 見	豪 去 覃 上 侯 上 模合去	2	
從	在一 哈開上	見 羊	麻開平Ⅱ(崇母) 尤 平 C		
	存一 魂合平	端 端 心 来	東 平 模合平 模合去 灰合平		
心	桑一 唐開平	来 来 曉	豪 平 豪 上 先開上Ⅳ		
	速一 屋 入	見	模合去		
	宋一 冬 去	見	模合去		
	蘇一 模合平	精 明	侯 上 屋 入		
	素一 模合去	来	豪 平		
見	剛一 唐開平	溪 端 匣	哈開去 寒開去 歌開去		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		定 匣	登開去 侯 上		
	工一 東 平	匣 匣 匣	侯 上 模合平 模合上		
	古一 模合上	端 匣 定 匣 影 幫 来 疑	豪 平 侯 平 侯 去 東 平 魂合平 魂合上 桓合去 蕭 平 IV	2	2
溪	康一 唐開平	見	泰開去		
	肯一 登開上	匣	寒開平		
	苦一 模合上	来 幫 曉 見 匣	豪 上 魂合上 鐸合入 鐸合入 登合平	2	
疑	岸一 寒開去	見	鐸 入		
	我一 歌開上	見	唐開平	2	
	五一 模合上	見	豪 平	2	

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
影	哀— 哈開平	見	泰開去		
	烏— 模合平	幫 端 來 從	豪 去 合 入 屋 入 灰合上		
曉	黑— 德開入	見	哈開上		
	呼— 模合平	端 匣 來 見	豪 去 泰合去 桓合去 麻開去 II		
	虎— 模合上	見	肴開平 II 2		
	誨— 灰合去	見	鐸 入		
	荒— 唐合平	溪 見 見	沃 入 模合去 麻合平 II		
匣	恒— 登開平	影 影	寒開平 寒開去	2	
	洪— 東 平	見	模合上		
	胡— 模合平	見 見 定 見	豪 平 覃 上 侯 去 東 平	2	

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		見 曉 來 見	灰合去 桓合去 桓合去 鐸合入	3	

II 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	八- 點 入	見開	耕	平	
	苞- 肴 平	見	覺	入	
並	彭- 庚 平	明 幫 幫 見	佳 刪 點 肴	去 上 入 平	3
明	盲- 庚 平	見	覺	入	
	萌- 耕 平	幫 幫 幫 幫 幫	麻 陌 陌 肴 覺	去 入 入 平 入	
徹	董- 夬開去	澄	陌	開入	
澄	根- 庚開平	並	陌	開入	
	撞- 江 平	見	覺	入	
	撞- 江 去	見	覺	入	
娘	擎- 麻開平	見	肴	平	2
生	生- 庚開平	明 見 匣	佳 庚 銜	開上 開上 平	

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		溪 莊	支開上 臻開平	AB AB	
	雙- 江 平	莊	覺	入	
見	皆- 皆開平	影 疑 疑 匣 溪 匣	刪開去 麻開平 麻開上 庚開上 陌開入 洽 入		4 2
		庚- 庚開平	幫	皆開去	
		耿- 耕開上	明	佳開去	2
		瓜- 麻合平	匣 匣	刪合去 麥合入	
	快- 夬合去	見	麻合平		
	顏- 刪開平	見 曉	麻開去 肴 去		3
影	晏- 刪開去	見	麥開入		
	厄- 麥開入	明 見	佳開去 佳開去		
	泓- 耕合平	見	覺	入	

声母	上 字	下字	婦字	婦字	反切
	上字韻母	声母	韻母	類	のべ 数
曉	孝- 肴 去	見 見	庚開平 咸 上		
	匣				
匣	下- 麻開上	見 莊	庚開平 銜 上		
	行- 庚開平	見 疑 見	麻開平 麻開上 麻開去	3	
	懷- 皆合平	見 曉	覺 入 麻合去		
	壞- 皆合去	影	耕合平		
	還- 刪合平	溪	夬合去		
	宏- 耕合平	明 溪	佳合去 夬合去		

IV 類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	邊- 先 平	来開	青 上		
明	迷- 齊 平	見開 来開	屑 入 錫 入		
端	丁- 青開平	匣 泥 見 定 疑	齊開平 先開平 先開去 添 上 蕭 平	2	
透	天- 先開平	匣 端 来 定	齊開平 齊開去 錫開入 添 上	3	
定	田- 先開平	匣 見 端 端 来 疑	齊開平 青開平 青開上 錫開入 蕭 平	2 3	
	庭- 青開平	端 見	齊開去 先開去		
泥	年- 先開平	来	齊開上		
来	零- 青開平	見	齊開去		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
精	濟- 齊開去	来	齊開上		
	箋- 先開平	匣	帖 入		
從	前- 先開平	心 見	齊開去 屑開入	2	
心	星- 青開平	匣 見	齊開平 先開去	2	
	先- 先開平	来	錫開入		
影	翳- 齊開去	見	先開去		
	燕- 先開平去	匣 定	齊開平 添 上		
	宴- 先開去	見	齊開去		
曉	顯- 先開上	端	青開平		
	血- 屑合去	匣	齊合去		
匣	刑- 青開平	定	先開去		
	玄- 先合平	見	青合平		

A 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	賓- 真 平	来開	清 上		
	并- 清 平	並 来開 章開 明 明 影開	支 上 脂 上 脂 去 祭 去 質 入 昔 入		2
並	毗- 脂 平	明 影開 羊	祭 去 昔 入 宵 平		3
	脾- 脂 平	昌開	昔 入		
	頻- 真 平	幫 羊開 章開	支 平 脂 平 脂 去		3
明	民- 真 平	幫 常開	支 平 仙 上		2
	名- 清 平	幫 日開	真 平 真 上		
見	勁- 清開去	来	薛開入		
群	翹- 宵 平	羊	脂開平		
疑	藝- 祭開去	来	薛開入		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
影	伊- 脂開平	日	真開平		

B 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	彼一 支 上	並	支 平		
	兵一 庚 平	見開 群開 莊開	脂 去 薛 入 職 入		
	氷一 蒸 平	明	脂 上		
滂	丕一 脂 平	明 幫	脂 上 職 入		
並	皮一 支 平	疑開 幫	支 去 蒸 平		
	平一 庚 平	幫	脂 去		
明	靡一 支 上	見開	真 平		
見	京一 庚 平	群 曉 匣	薛開入 支合上 祭合去	2 2	
	寧一 真合平	明	脂合上		
溪	卿一 庚開平	来	薛開入		
	困一 真合平	群	脂合去		
群	奇一 支開平	曉 影	真開去 質開入		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
	達一 脂合平	匣	仙合平		
	權一 仙合平	知	脂合平		
疑	宜一 支開平	来	鹽 上		
	迎一 庚開平	群	薛開入		
影	英一 庚開平	溪 幫 疑	祭開去 職開入 支合去	2 2	
曉	歆一 侵 平	影 見 群	宵 平 緝 入 幽 平		
	兄一 庚合平	幫	職合入		
匣	榮一 庚合平	疑 群	支合去 鹽 平		

C 類 (唇・牙喉音)

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	封- 鍾 平	匣	虞 平		
	甫- 虞 上	見 匣 匣合	尤 上 文 平 元 平		3
滂	妃- 微 平	匣 明	虞 平 物 入		3 3
	敷- 虞 平	来 明 見	屋 入 尤 去 凡 去		
	芳- 陽 平	定 明	尤 去 文 平		
並	凡- 凡 平	幫 幫	虞 平 虞 去		2
	扶- 虞 平	幫 明 明 匣 明 匣合 疑	微 平 微 去 文 平 文 平 物 入 元 平 凡 平		2 2

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
明	無- 虞 平	匣合	陽 上		
	武- 虞 上	幫	真 平 B	2	
	亡- 陽 平	滂 幫	微 上 文 去		2
見	姜- 陽開平	影	之開去		
	己- 之開上	疑 来 来	魚開去 職開入 屋 入		
	九- 尤 上	来	屋 入		
	恭- 鍾合平	匣 匣	尤 去 虞合平		2
	俱- 虞合平	並	鍾合上		
	誑- 陽合去	心	藥合入		
溪	起- 之開上	見 見	魚開平 東 平		
	羌- 陽開平	見	之開上		2
	丘- 尤 平	匣	元合上		
群	其- 之開平	来 来	魚開上 魚開上		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		見 見 見 来	魚開去 欣開去 元開去 藥開入		3
	勤- 欣開平	影	微開平		3
疑	魚- 魚開平	章	祭開去 A		
	言- 元開平	来 見 見 来	魚開上 魚開去 迄開入 陽開上		
	牛- 尤 平	影 来 並	元開去 職開入 嚴 平		
	愚- 虞合平	匣	元合平		
	元- 元合平	曉 匣	鍾合平 虞合上		
影	衣- 微開平	来 疑	屋 入 尤 平		
	於- 魚開平	疑 羊	尤 平 鍾合平		
	央- 陽開平	明	元開上		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
	應- 蒸開平	群 溪	之開平 微開上		
	雍- 鍾合平	明	物合入		
	威- 微合平	明	文合平		
曉	香- 陽開平	溪 溪 影 見 影	微開去 迄開入 藥開入 侵 平 B 脂開平 A		3 2
	興- 蒸開平	来	陽開上		
	凶- 鍾合平	匣	虞合平		
	暉- 微合平	匣 匣 見	虞合平 虞合上 文合平		2
	況- 陽合去	匣 匣	文合平 元合平		
匣	于- 虞合平	見 見 見 疑 明 疑 見	尤 去 微合上 微合去 元合平 元合去 月合入 陽合去		2 2 2

AB 類・C 類 (舌・齒音)

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
知	珍- 真開平	来 来	陽開平 陽開上		
	張- 陽開平	来 羊	職開入 宵 平		
	中- 東 平	来	仙合去		
	竹- 屋 入	見	覺 入 II		
徹	勅- 職開入	知 日 澄	清開平 鹽 上 尤 平		
澄	直- 職開入	来	支開平		3
		疑 B	脂開去		
		来	真開平		
		心	昔開入		
		来	藥開入		
		来	侵 平		
		来	宵 上		
		来	脂合去		
	傳- 仙合平	来	脂合去		
	重- 鍾合平	章	虞合去		
来	力- 職開入	知 章	支開去 脂開平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		知	脂開去		2
		澄	祭開去		
		知	薛開入		
		章	之開平		2
		章	魚開平		
		知	陽開平		
		知	葉 入		
		心	侵 平		
		章	尤 平		
		見	尤 去		
	良- 陽開平	澄	祭開去		
		書	魚開去		
	量- 陽開平	章	陽開去		
	律- 術合入	邪	諄合平		
精	子- 之開上	從 羊 澄 来 心 匣 来 見 泥	支開去 昔開入 侵 去 屋 入 術合入 合 入 I 侯 平 I 沒合入 I 添 去 IV		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
	將- 陽開平	清 羊	支開上 昔開入		
	即- 職開入	羊	尤 平		
	足- 燭合入	心	虞合平		
清	七- 質開入	羊 羊 来	魚開平 陽開平 緝 入		2
	促- 燭合入	生	鍾合平		
	取- 虞合上	心	祭合去		
從	秦- 真開平	心	清開去		
	慈- 之開平	精 精 羊 来 来 来	真開去 仙開去 麻開去 魚開上 緝 入		
	泉- 仙合平	心	脂合去		
心	息- 職開入	清 来 常 羊 羊 来	仙開上 清開上 昔開入 魚開上 陽開平 陽開去		2 4

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		日	東 平		
	苟- 諄合平	章	脂合平		
	須- 虞合平	邪 羊 精	諄合平 諄合上 諄合去		2 2
邪	詳- 陽開平	来 心	之開去 尤 去		2
	旬- 諄合平	精	脂合去		
	松- 鍾合平	心	諄合平		
莊	側- 職開入	来 来 崇 見 見 生	之開平 之開去 魚開去 皆開平 II 皆開去 II 山開上 II		2
	楚- 魚開上	来	陽開去		
	創- 陽開去	来	侵 平		
崇	牀- 陽開平	生	麻開平 II		
	狀- 陽開去	来	仙合上		
生	色- 職開入	来 精	尤 平 脂合去		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
章	真- 真開平	日	脂開去		
	征- 清開平	常	支開去		2
	正- 清開平去	常	支開去		
	之- 之開平	羊 常 来 日 匣	麻開去 昔開入 鹽 平 宵 上 尤 去		
	章- 陽開平	日	魚開上		
	專- 仙合平	羊	虞合上		
	鍾- 鍾合平	羊	虞合上		
昌	朱- 虞合平	日 船 羊 羊 羊	祭合去 諄合平 鍾合上 鍾合去 虞合平		
	尺- 昔開入	章 書 書 章 常 羊	脂開平 脂開平 祭開去 之開去 陽開去 宵 平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
		書	屋 入		2
	春- 諄合平	章 章	脂合平 鍾合平		
船	食- 職開入	羊 日 章 羊	麻開去 魚開上 蒸開去 燭合入		2
書	式- 職開入	常 常 常 日 章	支開上 支開上 支開去 真開上 陽開平		
常	成- 清開平	書 書 書 来 章	脂開平 祭開去 薛開入 職開入 宵 上		
	市- 之開上	日 来 羊 見	仙開平 侵開平 尤 平 尤 去		
	常- 陽開平	書	薛開入		
	殊- 虞合平	船 羊	諄合平 鍾合平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
日	仁- 真開平	章 常 章	魚開上 侵 上 脂合平		
	而- 之開平	章 章 澄 章 匣	陽開平 宵 上 侵 去 尤 平 尤 去		2
	辱- 燭合入	羊 羊 章	祭合去 仙合上 虞合上		2 2
	儒- 虞合平	章 章	薛合入 宵 平		
羊	延- 仙開平	澄	清開平		
	盈- 清開平	常 娘 書	支開去 脂開平 祭開去		6
	以- 之開上	書	祭開去		
	羊- 陽開平	章 常 章 章 書	仙開去 昔開入 之開平 尤 平 尤 上		9 2

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
	營- 清合平	幫A	清合上		
	容- 鍾合平	幫A 日 章	術合入 燭合入 虞合上		3 2

附：上字不明の反切

婦字 声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
心	/	羊	仙開平	AB	

S. 10 V. 殘 卷

一 原本写真（一部），校録表

S. 10 V. に細字で書かれた注を判読して校録表として掲げる。

注は拡大鏡でわずかに判読できるものが多いので、全体の写真を載せても判読の当否を知っていただく用にはあまり立たないと思う。一部分の写真だけを、それに相当する S. 10（表面）毛詩及傳箋殘卷の写真と並べて掲載する。

写真は、大英博物館から東洋文庫に寄贈されたマイクロフィルムからの複製による。

校 録 表 凡 例

- 「行」即 S. 10（表面）毛詩与其傳箋殘卷之行數，殘爛之行亦算在內，共存 97 行，摠被注字所見之行數記之。注文在其背面。
- 「本文」即 S. 10（表面）之被注字及其上下文。被注字下加 標之。阮本与釈文間文字之異同，茲不煩記。
- 「注文」即 S. 10 V. 上至今可識讀之字。有疑問之字下加？。其他記号皆依 S. 2729 殘卷之例。
- 識讀 S. 10 V. 時，使用 17.5 cm × 11.5 cm，30 cm × 20 cm 兩種影片（後者用光沢紙），以 16 倍拡大鏡辨識之。影片係大英博物館向東洋文庫寄贈之 micro film 複製者。此外以大英博物館特寄之 xerox 複写作參考。xerox 上之文字概比影片模糊，但間有就 xerox 纔可識者，校註中附言之。
- 「王重民」即本篇序論 § 10 所載 S. 10 V. 文獻①王重民「敦煌古籍叙録」pp. 31～32 所錄之注文。
- 「S. 2729」即 S. 2729 殘卷中対同一被注字之注文，今附載以便比較。



能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

能来

笑云男何也

百尔者之不知德行

笑云女也

不伐不求何用不臧

笑云女也

行	篇 名	本 文	注 文	校 註	王 重 民	S. 2729
3	燕 燕	仲氏任只	毛而林		同	毛平
		〃	鄭而鳩		同	鄭去
9	日 月	晝我 不卒	香六反		／	香六
14	終 風 箋	咳也	肯代反		／	(歎)肯代
15	終 風	虺 彡 其雷	黜尾反		黜鬼反	黜鬼
17	擊 鼓 序	將而平陳	子亮反		／	子亮
19	擊 鼓	擊鼓其鏜	湯		音湯	太郎
21	擊 鼓	憂心有忡	勅中反		同	勅中
22	擊 鼓	死生契闊	啓 □ 反		／	啓結
24	擊 鼓	不我信兮	？ 鄭息吝 二	{ 此前當書有毛音 今不能看。 「吝」原作「忝」，俗字。	／	毛？真鄭息振
26	凱 風 傳	樂夏之長養	洛		／	郎各
26	凱 風 傳	樂夏之長養	假		／	／
27	凱 風	棘心天 彡	？ 英驕反		同	英驕
29	凱 風 箋	浸潤之	子任反		同	／
29	凱 風	睨睨黃鳥	□ 顯		／	刑顯
30	雄 雉 序	軍旅藎起	？ 朔		音朔	雙捉

行	篇 名	本 文	注 文	校 註	王 重 民	S. 2729
31	雄雉	<u>雉</u> 𠂔 其羽	以世反	{「業」字中「世」之部分作「云」, 避唐太宗諱。	同	(泄)羊世
32	雄雉 箋	伊當作翳	烏雞反		同	燕兮
35	雄雉	不知德 <u>行</u>	下孟反 下同		同	／
37	匏有苦葉	<u>匏</u> 有苦葉	苻交反		符交反	／
37	匏有苦葉	<u>濟</u> 有深涉	祖戾反	{「民」王氏作「莫」, 蓋誤識「上民」二字為一字也。	同	箋詣
37	匏有苦葉 傳	匏謂之 <u>瓠</u>	胡故反		／	／
38	匏有苦葉	淺則 <u>揭</u>	憩		音憩	卿例
39	匏有苦葉	有 <u>淵</u> 濟盈	上民婢反		莫婢反	民婢
39	匏有苦葉	有 <u>鷺</u> 雉鳴	以小反		以上反	羊小
		〃	以水反		同	／
39	匏有苦葉 傳	<u>假</u> 人以辭	皆訝反		同	皆訝
40	匏有苦葉	濟盈不濡 <u>帆</u>	辱朱反		誅朱反	辱朱
40	匏有苦葉	濟盈不濡 <u>帆</u>	范		同	范
		〃	凡之上聲		同	凡之上聲
40	匏有苦葉	雉鳴求其 <u>牡</u>	莫厚反	「帆」原作「輓」。	／	莫厚
40	匏有苦葉 傳	由 <u>轄</u> 以上	張流反		／	卓流
40	匏有苦葉 傳	雉鳴而求 <u>牡</u>	母		／	／

行	篇 名	本 文	注 文	校 註	王 重 民	S. 2 7 2 9
41	匏有苦葉	旭日始旦	許玉反		同	暉玉
41	匏有苦葉 箋	隨陰陽而處	杵		／	／
41	匏有苦葉	迨水未泮	殆		／	唐改
42	匏有苦葉	人涉卬否	昂		／	／
		／	五剛反		同	(仰)我剛
42	匏有苦葉 箋	而我卬否	甫久反		同	甫久
42	匏有苦葉	而我獨否也	不		／	／
45	谷風	以陰以雨	宇喻反		／	／
45	谷風	偁俛同心	民忍反 題 ㄣ		／	名忍
45	谷風	以爲見譴怒者	輕戰反		同	輕戰
45	谷風 箋	采葍采菲	豐		／	(葍)紀風
45	谷風	采葍采菲	敷尾反		敷反反	敷尾
45	谷風 傳	葍須菲芴也	敷空反		／	／
45	谷風 傳	葍須菲芴也	勿		／	亡弗
45	谷風 傳	下體謂根莖也	成		／	下耕
45	谷風 箋	蔓菁与葍之類	蒲婆 ?	xerox 上「蒲」字明顯。	／	／

行	篇	名	本	文	注	文	校	註	王 重 民	S 2 7 2 9
46	谷 風	箋	以 根 惡 之 時	□ 誤					／	／
47	谷 風	傳	違 離 也	力 智 反					／	／
47	谷 風		薄 送 我 畿	祈					／	勲 衣
48	谷 風		燕 忝 新 婚	□ 顯					／	燕 顯
49	谷 風		湜 彡 其 沚	殖					／	／
			〃	成 力 反					／	成 力
49	谷 風		湜 彡 其 沚	止					／	真 耳
50	谷 風	箋	方 沚 也	孚					／	／
53	谷 風		不 我 能 畜	香 六 反					同	(僭) 香 六
53	谷 風		反 以 我 爲 讎	市 ？ 反		「市」下字似「由」，存疑。			／	市 由
53	谷 風		賈 用 不 售	工 戶 反					／	工 戶
53	谷 風		賈 用 不 售	市 又 反					／	市 又
53	谷 風	箋	隱 蔽 我 之 善	并 袂 反					／	并 袂
54	谷 風	箋	故 与 女 顛 覆	汝		「与」上有「顛」字，衍。 注下原有「下句同」三字， 疑当在次行「御」字注下， 今删之。			／	／
55	谷 風	箋	如 視 毒 螫	尸 石 反					／	式 石
55	谷 風		我 有 旨 蓄	勅 六					勅 六 反	勅 六

行	篇	名	本	文	注	文	校	註	王 重 民	S. 2729
55	谷 風		亦 以 御 冬		言 呂 反				言 呂	
			〃		馭	下 句 同	{「下句同」三字原在「女」字注下,「女」字只一見,「御」字下句重見,故移此。}		音 馭	〃
56	谷 風		有 洗 有 潰		光				〃	〃
					古 黃 反				〃	剛 黃
56	谷 風		有 洗 有 潰		繪		「潰」原作「憤」,當誤。		〃	胡 憤
56	谷 風		既 詒 我 肄		怡				〃	羊 之
56	谷 風		既 詒 我 肄		以 世 反				以 世	羊 世
			〃		以 自	二			以 自 二 反	〃
57	谷 風		伊 余 來 暨		？ 氣 反				〃	香 氣
58	式 微	箋	處 之 以 二 邑		杵	下 同			〃	〃
60	施 丘	序	整 丘 責 衛 伯 也		毛				〃	(施) 莫 褒
60	施 丘	序	方 伯 連 率 之 職		色 類 反				〃	色 類
62	施 丘	箋	叔 与 伯		羊 諸 反				〃	羊 諸
63	施 丘	箋	迎 我 君 而 復 之		服				〃	〃
63	施 丘	箋	女 曰 數 何 一 多		所 具 反				〃	〃
64	施 丘		狐 裘 蒙 戎		武 容 反				同	武 容

行	篇	名	本	文	注	文	校	註	王 重 民	S.2729
64	施 丘		狐 裘 蒙 戎		辱 容 反				同	／
66	施 丘	傳	始 而 偷 樂		湯 侯 反				／	(偷) 湯 侯
66	施 丘		襄 如 充 耳		以 救 反				同	／
			／		已 秀				羊 秀 反	詳 秀
			／		？ ？				同	皆 限
68	簡 兮		蒹 兮 ？		皆 限 反				同	／
68	簡 兮		在 前 上 處		忤	下 同			／	／
69	簡 兮	箋	舍 采 合 舞		赦				／	／
71	簡 兮		赫 如 渥 赭		烏 角 反				同	泓 角
71	簡 兮		赫 如 渥 赭		章 社 反				同	章 社
71	簡 兮		公 言 錫 爵		析		{ 原作「析」，廣韻云「析」 之俗字。		／	／
71	簡 兮	傳	卑 鞞 胞 翟		方 寐 反				同	(界) 并 至
71	簡 兮	傳	卑 鞞 胞 翟		許 願				同	／
			／		？ 郡	二			于 郡 二 反	于 郡
71	簡 兮	傳	卑 鞞 胞 翟		苻 交 反				符 交 反	彭 交
71	簡 兮	傳	闍 寺 者		虎 門 反		「虎」原作「席」，俗体。		／	呼 溫
71	簡 兮	傳	闍 寺 者		時 志 反				／	時 志

行	篇	名	本	文	注	文	校	註	王 重 民	S 2 7 2 9
71	簡 兮	傳	不 過 一 散		桑 旱 反				(散受) (五升) 桑 旱 反	桑 旱
72	簡 兮		山 有 蔡		側 巾 反				同	側 仁
72	簡 兮		隰 有 蒼		零				／	歷 丁
72	簡 兮	箋	与 在 王 位 也		預				／	／
72	簡 兮	箋	与 在 王 位 也		字 方 ？ ？				／	／
76	泉 水		出 宿 于 濟		□ 礼 反				／	／
76	泉 水		飲 餞 于 祔		慈 箭 反				同	慈 箭
76	泉 水	傳	祖 而 舍 輶		釋				／	／
76	泉 水	傳	祖 而 舍 輶		蒲 末 反				／	蒲 末
78	泉 水		載 脂 載 疊		行 瞎 反				／	行 瞎
78	泉 水		還 車 言 邁		旋				／	／
79	泉 水		不 暇 有 害		毛 何 □				毛 □ □	毛 何 蓋 反
			〃		鄭 何 割				同	鄭 何 割 反
79	泉 水		茲 之 永 歎		湯 丹 反				同	／
82	北 門		憂 心 殷 々		隱				／	／
82			〃		殷				／	應 斤

行	篇	名	本	文	注	文	校	註	王 重 民	S 2 7 2 9
82	北 門		終	窶 且 貧	□	矩			／	郡 羽
84	北 門		一	埤 益 我	頻	移 反			同	頻 移
84	北 門	箋	言	君 政 偏 也	補	見 反			同	補 見
84	北 門		交	徧 謫 我	遍	下 同			／	／
84	北 門		交	徧 謫 我	根	革 反			／	根 革
85	北 門		王	事 敦 我	都	迴 反			／	毛 都 溫 鄭 都 雷
85	北 門		一	埤 遺 我	□	季 反			／	／
86	北 門		交	徧 催 我	徂	雷 反			同	毛 存 雷
			／		祖	迴 反			同	鄭 祖 回
86	北 門	傳	催	沮 也	慈	呂 反			／	／
87	北 風		雨	雪 其 霧	云	付 反			／	云 付
87	北 風		雨	雪 其 霧	普	荒 反			／	普 黃
88	北 風		攜	手 同 行	如	字			／	／
88	北 風		其	虛 其 耶	餘				／	
			／		徐	二			／	(邪) 祥 余
88	北 風		既	遐 只 且	居	力 反			同	己 力

行	篇 名	本 文	注 文	校 註	王 重 民	S 2 7 2 9
88	北 風	既 亟 只 且	紙		／	／
89	北 風	既 亟 只 且	子 餘 反 下 同		／	子 余
89	北 風	雨 雪 其 霏	孚 非 反		／	敷 非
90	北 風	其 虛 其 耶	詳 余 反		／	／
90	北 風	既 亟 只 且	居 力 反		／	／
92	靜 女	靜 女 其 姝	春 朱 ? ?	以 xerox 纔可推讀。	／	春 朱
92	靜 女	然 後 可 畜	香 六 反		／	香 六
93	靜 女	搔 首 踟 躕	? 勞 反	{ 上字原作「自」，恐是「桑」或「素」之誤，今闕而存疑。下字又似「刀」。	／	素 勞
94	靜 女	生 子 月 媛	辰 字 或 誤 為 媛	{ 此項左下有一字亦似「媛」，蓋衍也，今闕之。此項「辰」字非是直音。	字 或 誤 為 辰	(辰) 字 或 誤 為 媛 非。
95	靜 女	悅 懌 女 美	悅 懌 上 毛 容 雪		同	(說懌) 毛 容 雪 羊 石
		〃	鄭 東 銳			二 反 鄭 東
		悅 懌 女 美	下 羊 石			悅 舒 石 二 反
		〃	舒 石 反			
95	靜 女	自 牧 歸 羨	唐 兮 ? ?		／	田 兮

二 音 注 総 表

表 例

S.10V. 残巻に含まれる反切及び直音その他の音注を，切韻方言の音韻体系に従って作った表の中に配置して示す。表例は S.2729 残巻の場合のそれに準ずる。（pp. 62-64参照）

I 類

遇 攝

	模合	姥合	暮合
見 影 匣		工戶 賈 53	☐ 誤 惡 46 胡故 瓠 37

蟹 攝

	哈開	海開	代開
定		[殆] 迨 41	
溪			肯代 咳 14

			泰開
匣			☒ 何 ☐ 害 79

	灰合	賄合	隊合
端	都廻 敦 85		
精	祖廻 催 86		
從	徂雷 催 86		
匣			[繪] ⁽¹⁾ 潰 56

(1) 「繪」泰韻字。

臻 攝

	魂合	混合	合	沒合
曉	虎門 闊 71			

山 攝

	寒開	旱開	翰開	曷開
透	湯丹 歎 79			
心		桑旱 散 71		
匣				何割 °害 79

	桓合	緩合	換合	末合
並				蒲末 敕 76

効 攝

	豪	皓	号
明	[毛] 整 60		
心	? 勞 搔 93		

宕 攝

	唐開	蕩開	宕開	鐸開
透	[湯] °鏜 19			
來				[洛] 樂 26
疑	[昂] 印 42 五剛 印 42			

	唐合	蕩合	宕合	鐸合
滂	普荒 霧 87			
見	[光] 洸 56 古黃 洸 56			

流 攝

	侯	厚	候
明		莫厚 牡 40 〔母〕 牡 40	
透	湯侯 °偷 66		

II 類

江 攝

	江	講	絳	覺
生				〔朔〕 數 30
影				烏角 渥 71

山 攝

	刪開	潸開	諫開	鎋開
				行瞎 攀 78

	山開	產開	禡開	黠開
見		皆限 蘭 68		

効 攝

	肴	巧	効
並	苻交 匏 37 胞 71		

假 攝

	麻開	馬開	禡開
見		〔假〕 夏 26 (1)	皆訝 假 39

(1) 廣韻馬韻二等見母無「夏」字，但同韻匣母「夏」下云「又古下」，正与此合。

梗 攝

	庚開	梗開	映開	陌開
匣	〔如字〕 行 88		下孟 行 35	

	耕開	耿開	諍開	麥開
澄				振革 譚 84

IV 類

蟹 攝

	齊開	霽開	霽開
定	唐兮 莢 95		
精		□礼 濟 76	祖戾 濟 37
影	烏雞 翳 32		

山 攝

	先開	銑開	霰開	屑開
幫			補見 °偏 84 〔遍〕 徧 84	
溪 影 匣		□顯 °燕 48 □顯 覬 29		啓□ 契 22

梗 攝

	青開	迴開	徑開	錫開
来	[零] 荅 72			
心				[析] 錫 71

A B 類

止 攝

	支開	紙開	真開
並 A 明 A	頻移 埤 84	民婢 瀾 39	
来			力智 離 47
章		[紙] 只 88	

	脂開	旨開	至開
幫 A			方寐 °卑 71
羊			以自 肄 56

	脂合	旨合	至合
生			色類 率 60
羊		以水 °騰 39	□季 遣 85

蟹 攝

			祭開
幫 A			并袂 °蔽 53
羊			以世 黽 31 °肄 56
溪 B			[憩] 揭 38

			祭合
書			束銳 °悅 95

臻 攝

	真開 臻開	軫開	震開	質開 櫛開
明 A		民忍 僂 45		
心			息吝 信 24	
莊	側巾 葵 72			

山 攝

	仙開	獮開	線開	薛開
溪 A			輕戰 謹 45	
從			慈箭 餞 76	

	仙合	獮合	線合	薛合
羊				容雪 悅 95
心	〔旋〕 還 78			

効 攝

	宵	小	笑
羊		以小 騫 39	
影 B	英驕 夭 27		

假 攝

	麻開	馬開	禡開
章 書		章社 赭 71	[赦] 舍 69 [釋] 舍 76

梗 攝

	清開	靜開	勁開	昔開
書 常 羊	[成] °莖 45			尸石 螫 55 舒石 °憚 95 羊石 憚 95

深 攝

	侵	寢	沁	緝
日	而林 任 3		而煥 任 3	
精			子任 浸 29	

曾 攝

	蒸開	拯開	證開	職開
常				[殖] 湜 49 成力 湜 49
見				居力 亟 88 90

C 類

通 攝

	東	董	送	屋
徹	勅中 忬 21			勅六 蓄 55
曉				香六 蓄 9 畜 53 92
滂	[豐] 豐 45 敷空(1) 豐 45			
並				[服] 復 62

(1) 「空」 I 類東韻字。

	鍾合	腫合	用合	燭合
日	辱容 戎 64			
曉				許玉 旭 41
明	武容 °蒙 64			

止 攝

	之開	止開	志開
章 常 羊	[怡] 怡 56	[止] 沚 49	時志 °寺 71

	微開	尾開	未開
群 曉	[祈] 畿 47		? 氣 璧 57

	微合	尾合	未合
曉		黠尾 虺 15	
滂	孚非 霏 89	敷尾 菲 45	

遇 攝

	魚開	語開	御開
昌 日 羊	羊諸 与 62 〔餘〕 °耶 88	〔忤〕 處 41 58 69 〔汝〕 °女 54	〔預〕 °与 72
精 從 邪	子餘 且 89 〔徐〕 °耶 88 詳余 °耶 90	慈呂 沮 86	
疑		言呂 °御 55	〔駁〕 御 55

	虞合	慶合	遇合
昌 日	春朱 姝 92 辱朱 濡 40		
生			所具 數 68
群 匣		□矩 窶 82	宇喻 雨 45 云付 雨 87
滂 並	〔孚〕 洧 51		蒲葵 °蕾 45

臻 攝

	欣開	隱開	掀開	迄開
影	〔殷〕 殷 82	〔隱〕 °殷 82		

	文合	吻合	問合	物合
匣			〔?〕 郡 韓 71	
明				〔勿〕 芴 45

山 攝

	元合	阮合	願合	月合
曉			許願 韓 71	

宕 攝

	唐開	蕩開	宕開	鐸開
精			子亮 將 17	

	唐合	蕩合	宕合	鐸合
匣	字方 王 72			

流 攝

	尤	有	有
常 羊	市? 饒 53		市又 售 53 以救 褒 66
邪			已秀 °褒 66
知	張流 韓 40		
幫	〔不〕 °否 42	甫久 否 42	

咸 攝

	凡	范	梵	乏
並		〔范〕 帆 40 〔凡之上聲〕 帆 40		

三 反 切 上 字 表

表 例

S. 10 V. 残巻にあらわれる反切上字を，その韻母により分類し，それを更に声母ごとに分けて表示する。表例はすべて S. 2729. 残巻のそれによる。（pp. 116-118参照）

I 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	補- 模 上	見開	先 去	IV	
滂	普- 模 上	曉合	唐 平		
並	蒲- 模 平	明 明	沒 入 虞 去	C	
明	莫- 鐸 入	匣	侯 上		
端	都- 模合平	匣	灰合平		
透	湯- 唐開平	端 匣	寒開平 侯 平		
定	唐- 唐開平	匣	齊開平	IV	
精	祖- 模合上	匣 來	灰合平 齊開去	IV	
從	徂- 模合平	來	灰合平		
心	桑- 唐開平	匣	寒開上		
見	工- 東 平	匣	模合上		
	古- 模合上	匣	唐合平		
溪	肯- 登開上	定	哈開去		
疑	五- 模合上	見	唐開平		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
影	烏- 模合平	見 見	覺 入	II	
曉	虎- 模合上	明	魂合平		
匣	何- 歌開平	見 \	曷開入 泰開去		
	胡- 模合平	見	模合去		

II 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
澄	根- 庚開平	見	麥開入		
見	皆- 皆開平	匣 疑	山開上 麻開去		
匣	下- 麻開上	明	庚開去		
	行- 庚開平	曉	鎋開入		

IV 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
溪	啓- 齊開上	\	屑開入		

A 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	并- 清 平	明	祭 去		
並	頻- 真 平	羊	支 平		
明	民- 真 平	並 日	支 上 真 上		
溪	輕- 清開平	章	仙開去		

B 類

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
影	英- 庚開平	見	宵 平		

C 類 (唇・牙喉音)

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
幫	方- 陽 平	明	脂 去	A	
	甫- 虞 上	見	尤 上		
滂	孚- 虞 平	幫	微 平		
	敷- 虞 平	溪 明	東 平 微 上		

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
並	苻- 虞 平	見	肴 平	II	2
明	武- 虞 上	羊	鍾 平		
見	居- 魚開平	来	職開入		2
疑	言- 元開平	来	魚開上		
曉	許- 魚開上	疑 疑	燭合入 元合去		
	香- 陽開平	来	屋 入		3
	勲- 文合平	明	微合上		
匣	字- 虞合平	羊 幫	虞合去 陽合平		
	云- 文合平	幫	虞合去		

AB類・C類 (舌・齒音)

声母	上 字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
知	張- 陽開平	来	尤 平		
徹	勅- 職開入	知 来	東 平 屋 入		
来	力- 職開入	知	支開去		

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
精	子- 之開上	日 羊 来	侵 魚 陽	去 開平 開去	
從	慈- 之開平	精 来	仙 魚	開去 開上	
心	息- 職開平	来	真	開去	
邪	已- 之開上	心	尤	去	
	詳- 陽開平	羊	魚	開平	
莊	側- 職開入	見	真	開平	
生	色- 職開入	来	脂	合去	
	所- 魚開上	群	虞	合去	
章	章- 陽開平	書	麻	開上	
昌	春- 諄合平	章	虞	合平	
書	尸- 脂開平	常	昔	開入	
	舒- 魚開平	常	昔	開入	
	束- 燭合入	羊	祭	合去	
常	成- 清開平	来	職	開入	
	時- 之開平	章	之	開去	
	市- 之開上	匣	尤 尤	平 去	

声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
日	而- 之開平	来 澄	侵 侵	平 去	
	辱- 燭合入	羊 章	鍾 虞	合平 合平	
羊	以- 之開上	從 書 心 見 書	脂 祭 宵 尤 脂	開去 開去 上 去 合上	2
	羊- 陽開平	常 章	昔 魚	開入 開平	
	容- 鍾合平	心	燭	合入	

附：上字不明の反切

婦字 声母	上字 上字韻母	下字 声母	婦字 韻母	婦字 類	反切 のべ 数
心	／	来	豪	平 I	
影	／	疑	模	合去 I	
精	／	来	齊	開上 IV	
影	／	曉	先	開上 IV	
匣	／	曉	先	開上 IV	
群	／	見	虞	合上 C	
曉	／	溪	微	開去 C	
匣	／	群	文	合去 C	
羊	／	見A	脂	合去 AB	